

# 白井遺跡群 —集落編 II— (白井南中道遺跡)

一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

## 観察表編

1996

建設省  
群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 白井遺跡群 —集落編Ⅱ— (白井南中道遺跡)

一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

観察表編

1996

建設省  
群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 1号住居

棟号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 106号 1 P.L.90	土師器 杯	埋没土 小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部上位は無調整部分が残る。 口縁部下半はヘラ削り。	
第 106号 2 P.L.90	須恵器 杯	床面密着 1/2	①13.6 ② 9.0 ③ 3.8	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転未切り。	
第 106号 3 P.L.90	須恵器 不明	埋没土 小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。裏面に高台?の貼付痕が見られ、高台には透かし孔が見られる。	

## 2号住居

棟号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 136号 1 P.L.90	土師器 杯	8.0cm 3/5	①11.6 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部上半は横ナデ、下半は一部は無調整が残るが、口縁部下半から底部にかけては不定方向ヘラ削り。	
第 136号 2 P.L.90	土師器 杯	8.0cm ほぼ完形	①12.3 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半の上位は無調整が残る。口縁部下半の下位から底部にかけては不定方向ヘラ削り。	
第 136号 3 P.L.90	土師器 杯	8.0~15.0 ほぼ完形	①13.0 ② ③ 4.1	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半の上位は無調整が残る。口縁部下半の下位から底部にかけては不定方向ヘラ削り。	
第 136号 4 P.L.90	土師器 杯	8.0cm 1/2	①14.0 ② ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上半は横ナデ、下半の上位は無調整が残る。口縁部下半の下位から底部にかけては不定方向ヘラ削り。	

## 61号住居

棟号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 166号 1 P.L.90	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③灰黄色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転未切り。	
第 166号 2 P.L.90	黒色土師 杯	9.0cm 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒(雲母含む) ②還元焰 ③にぶい黄褐色	内面黒色処理、一部二次焼成を受けている。ロクロ整形、回転右回り。底部切り放しは回転未切り。底部内面はヘラ研磨。	
第 166号 3 P.L.90	須恵器 椀	11.4cm 口縁部片	①15.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 166号 4 P.L.90	土師器 台付甕	埋没土 胴部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	外面胴部は下位が縦方向ヘラ削り、胴部との接合部分は横ナデ。内面はヘラナデ。	
第 166号 5 P.L.90	土師器 壺	掘り方埋土 口縁部~胴部片	①13.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は横ナデ、中段は無調整部分が残る。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 166号 6 P.L.90	土師器 壺	掘り方埋土 口縁部~胴部上位片	①17.5 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 166号 7 P.L.90	土師器 壺	9.3~18.4 口縁部~胴部中位片	①18.9 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は無調整部分が残る。胴部上位は横方向、中位は上位に向けてのヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 166号 8 P.L.90	土師器 壺	床面密着 口縁部~胴部中位片	①21.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁部。輪痕直が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部上位は横方向、中位は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	

押出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石材	特徴 その他	備考
第 16図9 P.L.90	石製品 電機築材	床～掘り方	①34.7 ③11.3	②22.4 ④5400	未固結凝灰岩	両端欠損。全体に面が荒れている。表、側面に削りが強に残る。表、割れ口に黒傷が付着する。	

### 3号住居

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 18図 1 P.L.90	土師器 杯	22.9cm 1/3	①11.0 ② ③(3.3)	①細砂粒 ②良好 ③棕色	口唇部は横ナゲ、口縁部上半は無調整部分が残る。口縁部下半から底部にかけては不定方向へのヘラ削り。	
第 18図 2 P.L.90	土師器 杯	埋没土 1/6	①11.8 ② ③(3.0)	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部上半は横ナゲ、下半は無調整部分が残り、一部に指頭痕が見られる。底部はヘラ削り。	
第 18図 3 P.L.90	黒色土器 碗	埋没土 口縁部小片	①12.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③明褐色	内面黒色処理。クロコ整形、回転方向不明。内面は口唇部以外をヘラ研磨。	
第 18図 4 P.L.91	土師器 変 口縁部～胴部 中位	電 口縁部～胴部 中位	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③棕色	口縁部は横ナゲ、口唇部に凹線が1条走る。胴部は頸部下だけ横方向ヘラ削りである下は中位よりの斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 18図 5 P.L.91	須恵器 壺	14.5cm 口縁部片	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、口唇部の内外面に凹線が各1条走る。	口縁部に「+」の刻書
第 18図 6 P.L.91	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.2 横径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③棕色	口縁部と下に明確な線をもち、口縁部は横ナゲ、腹下から底部にかけてはヘラ削り。	
第 18図 7 P.L.91	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①21.0 横径19.0 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③棕色	口縁部と下に明確な線をもち、口縁部は横ナゲ、腹下から底部にかけてはヘラ削り。	

### 4号住居

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 22図 1 P.L.91	須恵器 杯	埋没土 底部～体部 片	① ② 6.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	クロコ整形、回転右回りか？底部は回転糸切り。	
第 22図 2 P.L.91	須恵器 杯	10.8cm 1/3	①13.0 ② 5.2 ③ 4.0	①微砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	クロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	内面灰黄色
第 22図 3	須恵器 杯	-8.5cm 底部小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ切り無調整。	
第 22図 4 P.L.91	須恵器 碗	掘り方埋土 口縁部片	①15.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰びみ ③ぶい棕色	クロコ整形、回転方向不明。	
第 22図 5	須恵器 碗	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③ぶい黄棕色	クロコ整形、回転方向不明。	
第 22図 6	須恵器 碗	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転方向不明。	
第 23図 7 P.L.91	黒色土器 碗	床面密着 完形	①12.0 ②6.0④6.2 ③4.7	①微砂粒 ②還元焰 ③暗灰色	内外面黒色処理。クロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。外面は口縁部、内面は全面にヘラ研磨。	
第 23図 8 P.L.91	須恵器 碗	-2.5cm 1/4	①16.0 ② 6.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③ぶい黄棕色	クロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付であるがすべり剥落。	

持回番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 23図 9 P.L.91	須恵器 椀	埋土・掘方 3/5	①13.0 ② 5.6 ③ 4.8	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転未切り、高台は椎文成形で貼付。	
第 23図 10 P.L.91	須恵器 椀	埋設土 底部小片	① ②7.0③7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか？底部は回転未切り、高台は貼付。	
第 23図 11 P.L.91	須恵器 皿	19.2cm 1/4	①13.0 ②6.6③6.8 ③2.1	①粗砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回りか？底部は回転未切り、高台は貼付。	
第 23図 12	須恵器 蓋	12.3cm 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は周辺部を除き回転ヘラ削り。	
第 23図 13 P.L.91	黒色土器 耳皿	埋設土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③黒色	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。口縁部は内外面ともヘラ研磨。	
第 23図 14 P.L.91	灰輪陶器 椀	埋設土 底部小片	① ②5.0③5.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り直し技法はナゲのため不明、高台は貼付。内面見込み部に重ね焼き痕が残る。施釉方法は不詳。	
第 23図 15 P.L.91	須恵器 長頸壺	-25.3~ -5.5 胴部片	① ②胴径18.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部と頸部の接合は3段構成か？	
第 23図 16 P.L.91	須恵器 長頸壺	-15.1cm 肩部片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形。胴部に2段の刺突文。	
第 23図 17 P.L.91	土師器 壺	床面密着 口縁部~胴 部上位片	①18.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部にかけては横ナゲ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 23図 18 P.L.91	土師器 台付壺	-10.4cm 口縁部~胴 部上位片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部に輪横痕。口縁部から頸部にかけては横ナゲ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 23図 19 P.L.91	土師器 壺	-5.0cm 口縁部~胴 部上位片	①17.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部にかけては横ナゲ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 23図 20 P.L.91	土師器 壺	-2.5~0 口縁部~胴 部上位片	①17.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部に輪横痕。口縁部から頸部にかけては横ナゲ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 23図 21 P.L.91	土師器 壺	-11.0~12 口縁部~胴 部下位片	①20.0 ②胴径22.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は上半が横方向のヘラ削り、下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 24図 22 P.L.92	土師器 壺	床面密着 口縁部~胴 部上位片	①18.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部にかけては横ナゲ。胴部上位は横方向ヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 24図 23	土師器 壺	埋設土 胴部下位片	① ② 4.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③灰白色	胴部は底部へ向けての縦方向ヘラ削り、内面は縦方向のハケ目。底部はヘラ削り。	
第 24図 24	土師器 壺	埋設土 底部片	① ② 4.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	胴部は横方向ヘラ削り、底部もヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 24図 25 P.L.92	須恵器 壺	-10.4~ 13.2 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰褐色	ロクロ整形。口唇部の下位凸部は貼付。	
第 24図 26 P.L.92	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部上位は横ナゲ、中に無調整部分が残る。下半はヘラ削り。	
第 24図 27 P.L.92	土師器 杯	埋設土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部上半は横ナゲ、下半はヘラ削りであるが、上位に無調整部分が部分的に残る。	

押印番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 24回 28 P.L.92	土師器 杯	床面密着 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部上位は横ナデ、中位は無調整部分が残る。 下平はヘラ削り。		
第 24回 29 P.L.92	土師器 杯	床面密着 1/4	①12.4 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部上位は横ナデ、中位は無調整、下位から底部にかけては不定方向のヘラ削り。		
押印番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 24回30 P.L.92	石製品 砥石	埋没土	①4.4 ②1.7	③3.4 ④150	変質ダイサイト	一端を欠損。表、裏、両側面、小口を研ぎ面として使用している。小口は対角線を頂点として表裏に傾斜し、4面は下端にへこむ。	
第 24回31 P.L.92	石製品 砥石	埋没土	①6.1 ②2.4	③5.7 ④200	変質ダイサイト	一端を欠損。表、裏、両側面の4面を研ぎ面に使用。各面は下端に向かって傾斜する。裏の小口は砥石面のまま。	
第 24回32 P.L.92	石製品 電筒薬材	8.5cm	①9.9 ②7.2	③8.2 ④500	末岡結凝灰岩 (安山岩質)	表～側面の一部残存。面の荒れがみられるが僅かに削りの痕跡が認められる。	
第 25回39 P.L.92	石製品 電筒薬材	床面密着	①25.2 ③8.5	②17.5 ④2300	角閃石安山岩	表面縁辺部に削りが多く入る。右側面全部、裏面の一部にも認められる。黒帯付着あり。	
第 26回40 P.L.92	石製品 電筒薬材	8.2cm	①44.2 ③13.8	②21.4 ④13400	末岡結凝灰岩	片端欠損。表裏を右側面、小口に削りがみられる。工具幅最大で4.5cmを測る。	
押印番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④重量	特 徴 そ の 他	備 考	
第 25回33 P.L.92	鉄器 紡錘車	-17.0cm	①径6.2 ③30.3×0.75	② ④38.54		はずみ車の部分で、軸轉欠損の他は完成。軸轉が入る穴は円の中心より若干ずれてあげられる。穴は片面に膨らみを持つ。	
第 25回34 P.L.92	鉄器 角釘	埋没土	①径7.3 ③6.5	②6.5 ④9.25		先端欠損。やや蛇行している。錆ぶくれと剝離が若干みられる他は面の状態が良い。	
第 25回35 P.L.92	鉄器 刀子	2.5cm	①径7.3 ③6.3	②2.3 ④16.18		刃部先端のみ、錆ぶくれあり。長軸方向に亀裂。切先は欠損と思われる。面の状態は錆ぶくれ以外の所は比較的良い。裏面に研がれており、右きき用の道具で使い込まれていると分かる。	
第 25回36 P.L.92	銅製品 鏡	-5.5～ -0.2cm	①径2.3 ③0.1	② ④2.42		完成。寛永通寶。裏面に文様はみられない。	
第 25回37 P.L.92	銅製品 鏡	-5.5～ -0.2cm	①径2.3 ③0.1	② ④1.40		1/3欠損。寛永通寶。残存部裏面に文様はみられない。文字にシャープさが残る。	
第 25回38 P.L.92	銅製品 鏡	-5.5～ -0.2cm	①径2.5 ③0.1	② ④1.44		1/2欠損。[ ]内「寛」。残存部裏面に文様はみられない。朱銭か？	

## 5号住居

押印番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 30回 1	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰色	口口整形、回転方向不明。	
第 30回 2	須恵器 椀	掘り方埋土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③焼灰色	口口整形、回転方向不明。	
第 30回 3 P.L.93	須恵器 椀	掘り方埋土 底部～体部 小片	① 5.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	口口整形、回転方向不明。底部は回転未切り。	体部外面遊位に「門」の墨書
第 30回 4 P.L.93	須恵器 椀	2.0cm 光形	①13.8 ②7.6③9.0 ③ 6.4	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	口口整形、回転右回り。底部は回転未切り、高台は貼付。	体部外面正位に「得上」の墨書
第 30回 5 P.L.93	須恵器 椀	-4.0cm 1/2	①11.3 ②5.6③5.8 ③4.7	①細砂粒 ②還元焰 ③焼灰色	口口整形、回転右回り。底部は回転未切り、高台は貼付。	



押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 31図 6 P.L.93	須臾器 椀	3.0~19.0 2/5	①13.5 ②7.0③8.2 ③6.0	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	クロコ整形、回転右回り。底部切り直し技法はナデのため不明。高台は貼付。	
第 31図 7	須臾器 椀	62.0cm 高台片?	① ②7.2③6.0 ③	①微砂粒 ②酸化焙 ③淡黄色	クロコ整形、回転方向不明。	
第 31図 8 P.L.93	灰軸陶器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焙 ③灰黄色	クロコ整形、回転方向不明。施釉方法は置き掛け。軸調は不透明な白色。	
第 31図 9 P.L.93	灰軸陶器 椀	掘り方埋土 口縁部一体 部片	①15.0 ② ③	①微砂粒 ②還元焙 ③灰白色	クロコ整形、回転方向不明。施釉方法は置き掛けか。軸調は不透明な白色。	
第 31図 10 P.L.93	須臾器 羽釜	床面密着 口縁部~胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	クロコ整形、回転方向不明。跡は貼付。	
第 31図 11 P.L.93	須臾器 羽釜	10.0cm 口縁部~胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③棕色	クロコ整形、回転方向不明。輪襷が残る。跡は貼付。	
第 31図 12 P.L.93	須臾器 羽釜	-18~-9.0 口縁部~胴 部上位片	①17.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③灰褐色	クロコ整形、回転方向不明。跡は貼付。	
第 31図 13 P.L.93	須臾器 羽釜	床面密着 口縁部~胴 部上位片	①18.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	クロコ整形、回転方向不明。跡は貼付。	
第 31図 14 P.L.93	須臾器 羽釜	-0.5~-11.8 底部~胴部 下位片	① ②5.0 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい赤褐色	クロコ整形、回転右回りか?胴部は縦方向へラ削り。底部は一定方向へのへラ削り。	
第 31図 15 P.L.93	須臾器 羽釜	-10.0cm 口縁部~胴 部下位片	①21.5 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③棕色	クロコ整形、回転方向不明。跡は貼付。胴部下位は縦方向へラ削り。	
第 31図 16 P.L.93	須臾器 羽釜?	11.8cm 底部~胴部 下位片	① ②6.2 ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③灰黄褐色	成・整形については不鮮明。胴部外部の一部にへラ削り、内面はへラナデ。	
第 31図 17 P.L.93	須臾器 羽釜	床面密着 口縁部~胴 部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	クロコ整形、回転方向不明。跡は貼付。	
押戻番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 32図18 P.L.93	石製品 般石	-2.4cm	①12.6 ③3.6	②5.6 ④400	ひん岩	完形。両端及び向かって右側面下端に敲打痕が認められる。
第 32図19 P.L.93	石製品 般石	5.0cm	①15.4 ③4.2	②5.5 ④400	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。特に下端に著しく使用時の剝離痕がみられる。
第 32図20 P.L.94	石製品 籠橋築材	床面密着	①44.8 ③14.4	②21.6 ④11200	未固結凝灰岩 もしくは土塊	片端欠損、表面四側面に削りが認められる。小口も面取りしている。一部に黒傷がみられる。

#### 40号住居

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	④最大幅 ⑤重量	現 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 28図1 P.L.93	鉄器 鉄鏝?	埋没土	①残4.6 ③④0.3	②⑤1.0	⑥0.5	⑦上端と頸部、茎欠損。刃部は良く残る。一側面傾斜を呈す。

#### 6号住居

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 36図 1 P.L.94	須臾器 杯	27.5cm 1/4	①10.0 ② 6.0 ③ 4.5	①微砂粒 ②酸化焙 ③明黄褐色	クロコ整形、回転方向不明。高部は回転糸切り、口縁部下位は一段の回転へラ削り。	内面にぶい黄褐色

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 36図 2 P.L.94	須恵器 椀	~3.0cm 完形	①10.5 ② 5.5 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい橙褐色	クロコ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第 36図 3 P.L.94	須恵器 椀	電 口縁部片	①15.0 ② ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	クロコ整形、回転方向不明。	口縁部外面 横位に「③」 の墨書
第 36図 4 P.L.94	須恵器 羽釜	12.0cm 口縁部~胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙褐色	クロコ整形、輪横度が残る。罫は貼付。胴部上位 に縦方向へラ削りが見られる。	
第 36図 5 P.L.94	須恵器 羽釜	10.5~11.0 口縁部~胴 部上位片	①17.8 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい橙褐色	クロコ整形。罫は貼付。胴部上位に縦方向へラ削 り、内面上位にナデ。	
第 36図 6 P.L.94	須恵器 羽釜	11.0~14.0 口縁部~胴 部中位片	①24.7 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	クロコ整形。罫は貼付。胴部中位に下位からの縦 方向へラ削り。	

### 7号住居

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 39図 1 P.L.94	土師器 杯	埋没土 口縁部~底 部片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向のヘラ削り。	
第 39図 2 P.L.94	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.2 ②10.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向のヘラ削り。	
第 39図 3 P.L.94	土師器 杯	掘り方 1/3	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り、口 縁部と底部の間に無調整が残る。	
第 39図 4 P.L.94	土師器 杯	8.4cm 1/4	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向のヘラ削り。	
第 39図 5 P.L.94	土師器 杯	埋没土 1/5	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り、口 縁部と底部の間に無調整が残る。	
第 39図 6 P.L.94	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位以下が横方向へラ削 りで横ナデとヘラ削りの間に僅かに無調整部分 が残る。	
第 39図 7 P.L.94	土師器 杯	埋没土 1/3	①13.0 ② 7.4 ③ 3.9	①粗砂粒 ②軟質 ③にぶい橙褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向へラ削り でその間に僅かに無調整。底部はヘラ削り。内面は 口縁部が横な放射状暗文、底部は横なヘラ研磨。	6~8号土 坑の破片と 接合
第 39図 8 P.L.95	土師器 杯	6~8号土 坑 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②やや軟質 ③にぶい橙褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向へラ削り。 内面は口縁部に放射状暗文後見込み部に1~2条の 横方向へラ研磨。	7住遺物と 判断
第 39図 9 P.L.95	土師器 杯	29.4cm 1/5	①18.0 ②11.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向へラ削り、底部 もヘラ削りか。内面は口縁部に斜格子状暗文。	
第 39図 10 P.L.95	土師器 杯	2.5cm 2/3	①14.5 ②9.6 ③3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙褐色	口縁部は上半は横ナデ、下半は2段の横方向へラ 削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部 に横な放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 39図 11 P.L.95	須恵器 杯蓋	11.9cm 完形	①12.4 ②横径3.9 ③ 3.1	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転は右回り。罫は扁平で貼付。天 井部は回転へラ削り。内面にカエリをもつ。	
第 39図 12 P.L.95	須恵器 杯蓋	2.0cm 完形	①14.0 ②横径4.0 ③ 3.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転は右回り。罫は扁平で貼付。天 井部中央付近は回転へラ削り。口縁部端部は折り 曲げ。	
第 39図 13 P.L.95	土師器 椀	埋没土 1/8	① 9.6 ② ③ 5.4	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	内面は黒色処理。口縁部は横ナデ、体部から底部 はヘラ削り。内面はほぼ全面にヘラ研磨。内面は 黒色。	古墳時代後 期、7と接 合関係同様

押図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 39図 14 P.L.95	須恵器 椀	埋没土 底部小片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第 39図 15 P.L.95	須恵器 杯	4.0cm 1/2	①13.6 ② 9.1 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。外面に自然釉が付着。	内面褐灰色
第 39図 16 P.L.95	須恵器 杯	13.2cm 口縁部の一 部を欠	①14.1 ②10.0 ③ 3.5	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後周辺部を回転ヘラ削り。	
第 39図 17 P.L.95	須恵器 椀	埋没土 底部へ一部 小片	① ②8.0③8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転未切り。高台は貼付。	
第 39図 18 P.L.95	須恵器 椀	9.2cm 高台を欠	①18.5 ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。体部下位に1～2段の回転ヘラ削り。底部は回転ヘラ切り後周辺部を回転ヘラ削り。	
第 39図 19	土師器 壺	埋没土 口縁部へ割 部上位片	①15.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 20 P.L.95	土師器 壺	1.7cm 口縁部へ割 部上位片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 21 P.L.95	土師器 壺	床面密着 口縁部へ割 部上位片	①22.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横ナデ。胴部上位は横方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 22 P.L.96	土師器 壺	-1.0～11.0 1/4	①20.0 ②5.2 ③28.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	内面に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部は頸部下に横方向ヘラ削り、その下は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 23 P.L.95	土師器 壺	3.8～24.0 口縁部へ割 部中位片	①26.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	輪痕が残る。口縁部は横ナデ。胴部は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 24 P.L.95	土師器 壺	4.0cm 胴部下位へ 底部片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部・底部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 40図 25 P.L.95	土師器 壺	埋没土 胴部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部に径2mmほどの穿孔がある。外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 40図 26	須恵器 長頸壺	埋没土 高台片	① ②12.0 ③13.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形。高台は貼付、高台の接合面に環状の凹凸を施している。	
第 40図 27 P.L.96	須恵器 瓶	埋没土	① ②20.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、底部周辺部は磨かれている。	
第 40図 28 P.L.96	土製品 土鏡	埋没土 完形	長 5.1 径1.3×1.1 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	外面ナデ。形は一定しておらず中位が膨らみ上端がやや細くなる。	
押図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②幅 ③厚み	④最大幅 ⑤重量	現存状態及び特徴	備考
第 40図29 P.L.96	鉄器 帯状品	埋没土	①5.5 ③0.2	②1.5 ④5.40	両端欠損。両面の錆・剝離が著しい。裏面は一部面が残るのみ。	30と同一個体か
第 40図30 P.L.96	鉄器 L字帯状品	埋没土	①6.0 ③0.3	②1.4 ④5.29	上端欠損。下端も欠損か？両面が荒れており、特に曲折部より上は裏面の剝離が著しい。29と同一個体と思われるが接合しない。少しこちらが幅が狭い。	29と同一個体か
第 40図31 P.L.96	鉄器 鏃	埋没土	①残7.4 ④4.0	②3.0 ④20.18	先端が大きく欠け折り返し部の根元が一部欠損。錆ぶくれや剝離があるが、全体的にしっかりしている。	

押戻番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②最大幅		石 材	特 徴	そ の 他	備 考
			③厚み	④重量				
第 41図32 P.L.96	石製品 こもあみ石	床面密着	①23.0 ③5.8	②10.85 ④2200	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。両面に擦痕があり平坦面に著しい。		
第 41図33 P.L.96	石製品 こもあみ石	3.8cm	①12.65 ③3.85	②5.6 ④400	粗粒安山岩	長軸に半分に割れている。上端に敲打痕または使用の刻痕がある。		
第 41図34 P.L.96	石製品 こもあみ石	4.7cm	①13.2 ③4.15	②4.8 ④400	粗粒安山岩	片面は偏平となる。両端に弱い敲打痕がある。		
第 41図35 P.L.96	石製品 こもあみ石	4.4cm	①12.0 ③3.2	②4.9 ④300	石英閃緑岩	両端に敲打痕が認められ、特に上端に著しい。		
第 41図36 P.L.96	石製品 こもあみ石	2.5cm	①13.9 ③4.5	②5.8 ④600	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。		
第 41図37 P.L.96	石製品 こもあみ石	4.5cm	①10.2 ③3.6	②5.15 ④300	粗粒安山岩	片端欠損。上端に敲打痕が認められる。		
第 41図38 P.L.96	石製品 敲石	3.6cm	①14.0 ③3.5	②7.5 ④550	ひん岩	両端に弱い敲打痕が認められる。		
第 41図39 P.L.96	石製品 敲石	床面密着	①13.7 ③4.2	②5.4 ④450	黒色頁岩	上端は割れ口と刺痕がある。下端には敲打による使用痕が認められる。付着物がある。		
第 41図40 P.L.96	石製品 敲石	床面密着	①9.9 ③4.0	②6.3 ④300	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。一面が平坦をなす。		
第 41図41 P.L.96	石製品 敲石	床面密着	①11.0 ③6.9	②8.1 ④900	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。		
第 41図42 P.L.96	石製品 敲石	床面密着	①13.0 ③ 3.5	② 7.1 ④500	粗粒安山岩	両端に弱い敲打痕がある。上端は端部のみだが下端は広く痕跡が認められる。		
第 42図43 P.L.96	石製品 敲石	4.5cm	①15.9 ③ 5.4	②14.3 ④2000	石英閃緑岩	両端に敲打痕があり、下端は刺痕している。裏面に使用の痕跡が認められる。		
第 42図44 P.L.96	石製品 こもあみ石	6.4cm	①12.8 ③ 3.8	② 5.9 ④450	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められ、裏面に使用の痕跡が認められる。		
第 42図45 P.L.96	石製品 敲石	床面密着	①14.8 ③ 5.0	②12.6 ④1250	安賀安山岩	右側表面に刺痕がある。上端に敲打痕があり刺痕が認められる。		

## 8号住居

押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 46図 1 P.L.97	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.2 横径9.6	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 46図 2 P.L.97	土師器 杯	埋没土 1/6	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 46図 3 P.L.97	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③によい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 46図 4 P.L.97	須恵器 鉢	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面ともカキ目。	
第 46図 5 P.L.97	土師器 甕	埋没土 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	胴部下位は縦方向へ削り、底部の整形は単純のため不明。	8～11住居土
第 46図 6 P.L.97	須恵器 甕	埋没土 口縁部～底 部片	①21.0 ②20.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転へ削り。	
第 46図 7 P.L.97	須恵器 甕	埋没土 口縁部～底 部片	①21.0 ②20.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転へ削り。	

邦図番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴	その他	備考
第 46図 8 P.L.97	石製品 砥石	床面密着	①14.95 ③ 3.7	② 9.1 ④600	粗粒安山岩	上端から右側面にかけて磨れている。下端に敲打痕が認められる。		

### 9号住居

邦図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②装成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 47図 1 P.L.97	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位以下は横方向へラ削り。	
第 47図 2 P.L.97	須恵器 杯	10.0cm 1/4	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 47図 3	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.2④6.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③暗灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付、高台登付け部分に乾燥時の台による狂直が見られる。	
第 47図 4 P.L.97	須恵器 椀	床面密着 1/6	① ②9.0③8.2 ③	①細砂粒(石英含む) ②酸化焰 ③よい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は高台貼付によるナデのため不明。	
第 47図 5 P.L.97	須恵器 椀	26.8cm 底部片	① ②7.0③7.2 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい橙色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。体部下位は回転へラ削り。	
第 47図 6 P.L.97	須恵器 杯	13.5cm 1/3	①12.0 ② 5.2 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法も不明。	
第 47図 7 P.L.97	須恵器 椀	床面密着 1/4	①14.0 ② 6.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
第 47図 8 P.L.97	須恵器 椀	床面密着 底部片	① ②7.0③7.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は高台貼付によるナデのため不明。	
第 47図 9 P.L.97	須恵器 椀	埋没土 1/4	①13.6 ②6.2③6.6 ③ 4.3	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りか、高台は貼付で底部はナデ。高台は登付けに乾燥時の狂直が見られる。	
第 48図 10 P.L.97	須恵器 椀	埋没土 1/3	①13.0 ②7.2③7.6 ③ 5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 48図 11 P.L.97	灰釉陶器 椀	26.2cm 底部	① ②6.8③6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ナデ調整、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	大原2号窯式期
第 48図 12 P.L.97	灰釉陶器 椀	埋没土 体部小片	① ② ③	①微質 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形。施釉方法は漬け掛け。釉調はやや透明感のある緑灰色。	
第 48図 13 P.L.97	灰釉陶器 椀	4.0~23.5 底部	①16.4 ②6.6③6.6 ③	①微質 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ナデ調整、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調はやや透明感のある緑灰色。	大原2号窯式期
第 48図 14 P.L.97	土師器 甕	2.5cm 口縁部~胴部上位片	①12.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から胴部にかけては横ナデ、胴部は横方向へラ削り、内面はへラナデ。	
第48図 15 P.L.97	須恵器 羽釜	0.5~6.5 口縁部~胴部上位片	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、筒は貼付。胴部は筒までの縦方向へラ削り。	
第 48図 16	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐灰色	ロクロ整形、筒は貼付。胴部は筒までの縦方向へラ削り。	
第 48図 17 P.L.97	須恵器 瓶	埋没土 胴部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	胴部上位の把手付着部分。	

押図番号 図版番号	種 類	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 48R18 P.L.96	須恵器 杯	36.9cm 口縁部一部 欠	① 6.0 ② 3.9 ③ 4.2	①細砂粒 ②酸化焙 ③褐色	長頸部の製作を胴部下位で止めてしまったものなのか。口口整形、回転は右回り。底部は回転余切り。外面の大部分は剝離が見られる。	
第 51R26 P.L.98	黒色土器 椀	15.0cm 口縁部下位 ～底部片	① 7.0 ② 7.0 ③	①微砂粒 ②酸化焙 ③にぶい褐色	内面黒色処理。口口整形、回転方向は不明。底部はヘラ削り。内面は全周的にヘラ研削。	
第 51R27	須恵器 椀	11.0cm 底部片	① ②9.0③9.2 ③	①微砂粒 ②還元焼成 ③灰オリーブ	口口整形、回転は右回り。底部の切り抜き技法は高台貼付後のナデのため不明。	
第 51R28 P.L.98	須恵器 椀	6.0cm 1/3	① ② 8.8 ③	①細砂粒 ②還元焼成 ③黄灰色	口口整形、回転は右回り。底部は回転余切り、高台は貼付。	
第 51R29	土師器 壺	36.0cm 口縁部～胴 部上位片	①10.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から胴部にかけては横ナデ。胴部は横方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 51R30 P.L.98	須恵器 30羽釜	1.5cm 口縁部～胴 部中位片	①17.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③灰白色	口口整形、内面に輪痕が残る。肩は貼付。胴部は縦方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 51R31 P.L.98	土師器 壺	1.0～3.7 胴部下半片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 51R32 P.L.98	土製品 鱗羽口	11cm 1/2	外径7.6 孔径2.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解が内面に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	

押図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	④最大幅 ⑤重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 48R19 P.L.98	石製品 敲石	24.8cm	①11.6 ② ③3.9	④5.6 ⑤400	石英閃緑岩	両端に敲打痕が認められる。下端には敲打による剝離がある。右側面に使用痕、左側面に剝離がある。	
第 48R20 P.L.98	石製品 敲石	11.3cm	①12.0 ② ③4.3	④3.9 ⑤300	粗粒安山岩	両端に敲打痕があり、上端は裏面にむたり割れている。	
第 48R21 P.L.98	石製品 敲石	床面密着	①14.0 ② ③4.4	④7.0 ⑤700	滑結凝灰岩	両端に弱い敲打痕が認められる。左側面一部に剝離がある。	
第 48R22 P.L.98	石製品 敲石	12.5cm	①7.6 ② ③5.5	④7.1 ⑤300	粗粒安山岩	自然面左側に敲打痕が認められる。上端に聖等の痕跡がある。	
第 48R23 P.L.98	石製品 竈構築材	床面密着	①10.1 ② ③5.3	④5.7 ⑤200	未固結凝灰岩	一面のみ残存。面が荒れて削りの痕跡は不明。割れ口に黒煤付着。	
第 52R34 P.L.98	石製品 竈構築材?	床面密着	①13.5 ② ③8.2	④9.9 ⑤1050	粗粒安山岩	裏～裏の一部に自然面を残すのみ。黒煤が表面～裏面の一部にかけて付着する。	
第 52R35 P.L.98	石製品 敲石	1.5cm	①9.5 ② ③4.7	④6.5 ⑤400	粗粒安山岩	両端に弱い敲打痕が認められ、一部剝離がある。	
第 52R36 P.L.98	石製品 凹石	26.5cm	①14.7 ② ③8.0	④12.1 ⑤700	角閃石安山岩	表面に窪み痕があり、裏面1ヶ所に聖?痕が認められる。	
押図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	④最大幅 ⑤重量		残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 49R24 P.L.98	鉄器 斜格子状品	床面密着	①残5.3 ② ③0.4	④残5.4 ⑤14.53		上下左右を欠損。棒が斜格子状に組まれる。棒は裏面が平坦で断面がカマボコ形を呈す。現状では左上～右下に走る棒が右上～左下に走る棒の上に乗る形である。錆の具合から、近現代のものの可能性が高い。	
第 49R25 P.L.98	鉄器 帯状品	11.0cm	①9.65 ② ③0.3	④1.0 ⑤13.15		両端欠損。縦い弧を描く断面に錆による亀裂が入るが全体的に状況は良い。龍の形の可能性があり、太い方に彫部がつくと考えられる。	龍の茎?
第 51R33 P.L.98	鉄器 角釘?	2.5cm	①残6.6 ② ③0.9	④残0.6・1.2 ⑤15.98		上下端とも扁平になりつつ欠損。両端とも幅を増している。特に上端の扁平化が著しい。曲折するが本来の形なのか不明。	

## 10号住居

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 55図 1 P.L.99	須恵器 杯	14.0cm 1/2	①13.8 ② 7.6 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部と口縁部の間に接合痕が見られる。底部は回転未切り。外面に自然釉が付着。		
第 55図 2 P.L.99	須恵器 長頸壺	埋没土 口縁部片	① 8.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③暗灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面に自然釉が付着。		
第 55図 3 P.L.99	土師器 杯	12.0cm ほぼ完形	①14.9 ②10.8 ③ 4.5	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向へラ削り。底部は不定方向へラ削り。		
第 55図 4 P.L.99	土師器 罍	3.5cm 胴部下位～ 底部片	① ② 5.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	胴部は横方向へラ削り、底部もへラ削り。		
押出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 55図5 P.L.99	石製品 凹石	21.0cm	①25.3 ③11.0	②18.3 ④4400	角閃石安山岩	片面に2ヶ所、片面に4ヶ所の窪みがみられる。2ヶ所の窪み周辺には刃磨の痕跡が認められる。	

## 11号住居

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 58図 1	土師器 杯	電 口縁部片	①13.0 径径11.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	
第 58図 2	土師器 杯	埋土・横方 口縁部片	①13.0 径径11.6 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	
第 58図 3	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①12.0 径径10.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	内面によい 褐色
第 58図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 径径11.2 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③明赤褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	
第 58図 5 P.L.99	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 径径11.0 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	
第 58図 6 P.L.99	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.4 径径10.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い横をもつ。口縁部は横ナデでなかほどに凹線が1本走る。底部不定方向へラ削り。	内面によい 黄褐色
第 58図 7 P.L.99	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 径径10.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへラ削り。	
第 58図 8 P.L.99	土師器 杯	電・掘り方 口縁部片	①11.6 径径10.2 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	
第 58図 9 P.L.99	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 径径11.4 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削り。	31住電埋土 と接合
第 58図 10 P.L.99	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.8 径径11.0 ③ 3.8	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへラ削り。	
第 58図 11 P.L.99	土師器 杯	埋没土 1/3	①12.0 径径10.6 ③ 4.2	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへラ削り。	
第 58図 12 P.L.99	土師器 杯	埋没土 1/5	①13.2 径径10.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はへラ削りであるが単位や方向は不明瞭。	

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 58図 13 P.L.99	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.5 横径10.2 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、腹の下に無調整部分が僅かに残る。底部は不定方向のヘラ削り。	31住と10、 11住埋土と 接合
第 58図 14 P.L.99	土師器 杯	9.0~10.0 完形	①12.4 横径11.0 ③ 3.9	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 58図 15 P.L.99	土師器 壺	2.0~57.8 口縁部~胴 部下位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 58図 16 P.L.99	土師器 壺	15.0~57.8 口縁部~胴 部中位片	①18.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 59図 17 P.L.100	土師器 壺	0.7~10.3 口縁部~胴 部下位片	①19.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 59図 18 P.L.100	土師器 壺	2.0cm 1/2	①18.6 ② 6.0 ③33.7	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削りと中位に縦方向ヘラ研磨、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラ研磨。	
第 59図 19 P.L.100	土師器 壺	9.0~15.5 口縁部を 1/2欠	①22.3 ② 3.9 ③39.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 59図 20 P.L.100	土師器 壺	1.0~34.0 ほぼ完形	①20.7 ② 6.2 ③29.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削りと上位に縦方向ヘラ研磨、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラ研磨。	
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(11025)	竈	トリ?			肋骨。微細骨片10数片。	
P.L.99 21	甍白灰中	キジ	右肋骨近位端		肋骨。	(11026)
P.L.99 22	甍白灰中	キジ?	大腸骨骨頭		肋骨。	(11027)
(11028)	甍白灰中	トリ・種不明	上腕骨遠位端など	*29.7×4.1	肋骨。	
(11029)	埋没土				微細骨片。同定不能。	
(11030)	-11.5cm		歯片?		平生。微細片多数。	

## 11・31号住居

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 63図1 P.L.101	銅製品 鏡	埋没土	①径? ③0.1	② ④1.25	1/4欠損。寛大平實。残存部裏面に文様はみられない。	

## 31号住居

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 62図 1 P.L.100	須恵器 杯	甍・埋没土 口縁部片	①16.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 62図 2 P.L.100	須恵器 杯	埋没土 2/3	①12.4 ② 5.4 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③洗黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。	
第 62図 3 P.L.100	須恵器 杯	埋没土 完形	①12.9 ② 5.1 ③ 4.4	①細砂粒 ②還元焰 ③洗黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。	
第 62図 4 P.L.101	須恵器 椀	25.0cm 1/2	①13.8 ②5.9③5.9 ③ 5.4	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り、高台は貼付。	
第 62図 5 P.L.101	須恵器 碗	3.0~6.4 1/2	①13.0 ②6.8③7.0 ③5.8	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部切り放し技法は不明で回転ナデ、高台は貼付、体部下平は横方向のヘラ削り。内面下半はヘラナデ。	外面底部に 砂粒付着



検出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 62図 6 P.L.101	黒色土器 椀	床面密着	①14.2 ② 6.4 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③黒褐色	内外面黒色処理。ロクロ整形。回転は右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 62図 7 P.L.101	須恵器 椀	埋没土 1/6	①13.8 ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	10、11住期 土と接合	
第 62図 8 P.L.101	須恵器 椀	埋没土 底部片	②6.8③7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 62図 9 P.L.101	灰輪陶器 椀	埋没土 底部片	① ②7.2③7.4 ③	①鎌首 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナデ。高台は貼付。施釉方法は不明。		
第 62図 10 P.L.101	土師器 甕	床面密着 口縁部片	①10.0 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 62図 11 P.L.101	須恵器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部内面にあて具痕が残る。		
検出番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 62図12	石製品 竈構築材?	床面密着	①13.1 ③8.8	②9.3 ④1100	粗粒安山岩	裏面一部に黒煤の付着がある。	
第 62図13	石製品 磨石	床面密着	①9.1 ③7.4	②6.9 ④350	粗粒安山岩	表に使用の痕跡が認められる。	
第 62図14 P.L.101	石製品 磨石	床面密着	①7.4 ③4.4	②9.55 ④450	粗粒安山岩	表裏に黒煤の付着及び使用の痕跡があり裏面に著しい。	
第 63図15 P.L.101	石製品 磨石	床面密着	①17.5 ③5.6	②12.0 ④1500	ひん岩	上下端及び左側面先端に敲打痕が認められる。表裏の一部に使用の痕跡があり、裏面に著しい。	
第 63図16 P.L.101	石製品 磨石	8.0cm	①10.3 ③ 3.7	② 8.0 ④450	砂岩	両端に弱い敲打痕が認められる。	
第 63図17 P.L.101	石製品 磨石	床面密着	①12.4 ③4.2	②7.0 ④500	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。上端は側割が著しい。表裏に使用の痕跡があり、裏面に著しい。	
検出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 63図18 P.L.101	鉄器 帯状品	埋没土	①5.5 ③0.5	②1.8 ④9.12	一辺は残るが他の三辺は欠損。錆ぶくれと剥離が認められる。一辺が楕、一辺の残存部が刃割の可能性が考えられる。		

## 12号住居

検出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 66図 1 P.L.101	土師器 杯	-17.0cm 口縁部片	①13.8 使用11.8 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③黒褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	内面にい 赤褐色
第 66図 2 P.L.101	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.8 使用12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 66図 3 P.L.101	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①14.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	内面に身受けのカエリをもつ。ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 66図 4 P.L.101	土師器 甕	-32.5cm 胴部下位～ 底部	① ② 6.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り。	
第 66図 5 P.L.101	土師器 甕	4.0cm 胴部下位～ 底部片	① ②11.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。底部は不定方向のヘラ削り。	

## 13号住居

棟別番号 図取番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 70区 1 P.L.101	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部はヘラ削り。	
第 70区 2 P.L.101	土師器 杯	埋没土 1/8	①10.4 横径10.3 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 70区 3 P.L.101	土師器 杯	埋没土 2/3	①11.2 横径11.4 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部は周辺部は横方向、中心部は不定方向ヘラ削り。	
第 70区 4 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 70区 5 P.L.102	土師器 杯	2.5cm 口縁部片	①12.0 横径10.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 70区 6 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.2 横径12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 70区 7 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 横径11.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナゲ、胴部は不定方向のヘラ削り。	
第 70区 8 P.L.102	土師器 杯	70.3cm 3/4	①12.0 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 70区 9 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.4 横径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③ふい褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 70区 10 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.2 横径10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③ふい黄褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 70区 11 P.L.102	土師器 杯	埋没土	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③ふい褐色	口縁部は上半が横ナゲと無調整、下半は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 70区 12 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③ふい赤褐色	口縁部は上半が横ナゲと無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第 70区 13 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲと無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第 70区 14 P.L.102	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口唇部は横ナゲ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面に細な放射状凹文。	分割後2次焼成を受けている。
第 70区 15 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.7 ② 6.0 ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③赤黒色	口唇部は横ナゲ、口縁部は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	内面明赤褐色
第 70区 16 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/8	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③ふい赤褐色	口縁部は上半横ナゲ、下半から底部はヘラ削りであるが器面の剥落のため単位等は不明瞭。	
第 70区 17 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部は不定方向ヘラ削り。	
第 70区 18 P.L.102	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.6 横径12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③ふい褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナゲ、底部は周辺部が横方向、中心部は不定方向のヘラ削り。	
第 70区 19 P.L.102	土師器 杯	29.0cm 1/3	①12.7 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナゲ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 70図 20 P.L.102	土師器 杯	29.0～57.0 2/3	①14.8 ② ③4.4	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り。底部に指頭圧痕が見られる。		
第 71図 21 P.L.102	須恵系 杯蓋	埋没土 3/4	①10.8 ② ③2.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り、内面は不定方向のヘラナデ。		
第 71図 22 P.L.102	須恵系 杯蓋	埋没土 1/5	①11.7 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。		
第 71図 23 P.L.102	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 71図 24 P.L.102	土師器 壺	5.7cm 口縁部～胴 部中位片	①20.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 71図 25 P.L.102	土師器 壺	57.6cm 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 71図 26 P.L.102	須恵系 壺	5.7cm 口縁部片	①22.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 71図 27 P.L.103	土師器 壺	埋没土 底部片	① ②8.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 71図 28 P.L.103	土師器 壺	-2.0cm 底部片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位と底部はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
押戻番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重さ	④最大幅 ⑤重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 71図29 P.L.103	石製品 こもあみ石	灰層密着	①15.5 ② ③4.6	④7.7 ⑤4.6	粗粒安山岩	両端に鋭い斜打痕が認められる。表面に使用の痕跡がみられる。	
第 71図30 P.L.103	石製品 こもあみ石	4.6cm	①15.8 ② ③5.3	④8.7 ⑤10.6	粗粒安山岩	表に窪みが認められる。	
第 71図31 P.L.103	石製品 こもあみ石	5.2cm	①14.2 ② ③4.9	④5.7 ⑤6.10	黒色頁岩	両端に鋭打痕が認められる。特に上端に著しい。	
押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ②厚み ③重さ	④最大幅 ⑤重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 71図32 P.L.103	鉄器 鉄鏝	埋没土	①4.35 ② ③0.2	④2.25 ⑤0.65	向かって左側逆刺欠損の他はほぼ完存。中央部に穿孔。細かい錆ぶくれあり。		

#### 14号住居

押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 76図 1 P.L.103	土師器 杯	1.6cm 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 76図 2 P.L.103	土師器 杯	15.5cm 1/5	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部はヘラ削りであるが器面が荒れているため単位等は不明。	
第 76図 3 P.L.103	土師器 杯	4.5cm 1/6	①13.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位は横方向のヘラ削り。	
第 76図 4 P.L.103	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向ヘラ削り。	
第 76図 5 P.L.103	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に窪をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	

標記番号 図版番号	種類 種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 7695 6	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位～下位は横方向のヘラ削り。	
第 7696 7 P.L.103	土師器 杯	11.0cm 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向のヘラ削り。	
第 7698 8 P.L.103	土師器 杯	1号壺 1/5	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 7699 9 P.L.103	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	底部の外側はヘラ削り、内側はヘラ研磨。	
第 7699 10 P.L.103	土師器 杯	12.0cm 1/6	①16.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に轆をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 7699 11 P.L.103	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	外面はヘラ削り、内面に漆が付着。	
第 7699 12 P.L.103	須恵器 長頸壺	4.5cm 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部は右回りか、底部は不定方向のヘラ削り。内面に漆が付着。	
第 7699 13 P.L.103	須恵器 碗	埋没土 1/8	①14.0 ②10.8 ③3.3x9.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部は右回りか、底部は不定方向のヘラ削り、高台は貼付。	
第 7699 14	須恵器 杯蓋	2号壺 口縁部片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部は右回りか、底部は不定方向のヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 7699 15	土師器 壺	2号壺 口縁部～胴部上位片	①20.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。	2号壺寄り 方と接合
第 7699 16 P.L.104	土師器 壺	9.7～12.0 口縁部～胴部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 7699 17	土師器 壺	65.0cm 胴部下位～ 底部片	① ②4.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第 7699 18 P.L.103	土師器 壺	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ②5.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、内面ヘラナデ。	
第 7700 19 P.L.104	土師器 壺	18.5cm 口縁部～胴部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。	
第 7700 20 P.L.104	土師器 壺	15.5cm 胴部片	頸部径18.0 ① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 7700 21 P.L.104	須恵器 壺	15.0～23.0 口縁部～胴部	頸部径12.4 胴部径20.6 ① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部は右回りか、底部は不定方向のヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
標記番号 図版番号	種類 種類	出土位置	①最大長 ②厚み ③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴		備考
第 77022 P.L.104	鉄器 簡状金具	埋没土	①3.15 ②1.9 ③	④3.7 ⑤15.38	ほぼ定形、磨ぶればあるものの状態は良い、両面に挟り込みがあり、反動が平直である。真鍮内面に銅金の重ね合わせの痕跡が認められる。方頭大刃に装着の可能性あり。7世紀後半以降。	
第 77023 P.L.104	鉄器 棒状品	埋没土	①10.6 ②0.4	③0.5 ④6.55	両端欠損。上端は刺刺し欠損、下端欠損。全体に屈曲しており、下方はねじれが生じている。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(14025)	2号壺	シカ?	角片?	★19.7×1.4	洗骨。細骨片2片。崩壊した同一骨片多数。	

## 15号住居

棟別番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状況	量目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 79図 1 P.L.104	土師器 杯	2.7cm 埋没土 口縁部片	①11.6 ② ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は器面が荒れており不明、底部は不定方向のヘラ削りか。	
第 79図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 79図 3 P.L.104	土師器 杯	9.0~9.5 1/4	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③による褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 79図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。	
第 79図 5 P.L.104	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部ヘラ削り。	
第 79図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。	
第 79図 7 P.L.104	土師器 杯	2.7cm 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 79図 8 P.L.104	土師器 杯	14.0cm 1/8	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 79図 9 P.L.104	土師器 杯	2.7cm 1/4	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 79図 10 P.L.104	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 79図 11 P.L.104	土師器 杯	埋土・断面 1/4	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 79図 12 P.L.105	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第 79図 13 P.L.105	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部ヘラ削り。	
第 79図 14 P.L.105	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部ヘラ削り。	
第 79図 15	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③明青灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に緑灰色の自然釉が付着。	
第 80図 16	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①11.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③青灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第 80図 17 P.L.105	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第 80図 18 P.L.105	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰青色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部内面に漆の付着が見られる。	
第 80図 19 P.L.105	土師器 壺	床面密着 口縁部～胴部上位片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	

標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 8025 20 P.L.105	土師器 甕	2.7cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。		
標記番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 80221 P.L.105	石製品 巖石	33.5cm	①12.3 ②5.2	③7.6 ④750	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。両側面中位に打撃痕がみられる。	
標記番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 80222 P.L.105	鉄器 刀子(切先)	3.0cm	①残4.5 ②0.25	③1.1 ④3.06	刃部右端のみ。茎～刃部は半分ほど欠損。左端の破損部は僅かに曲線を残しており、他例にみるように曲げられたものと考えられる。		
第 80223 P.L.105	鉄器 鉋尾	埋没土	①4.4 ②1.0	③2.3 ④7.72	左端欠損。茎は鉄地に衝衝を施し、足は裏面に0.5cmほど残存している。		
第 80224 P.L.105	鉄器 刀子	33.5cm	①残6.4 ②0.5	③1.6 ④5.82	茎欠損。根元が明確に、刀側は鈍角に残る。茎の片方の側面は厚さを減じ、刃部は短小。		80の鏃小片と同袋
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴		
(15025)	10.0cm		歯片?	*20.6×5.9	半生。歯片多数。		

#### 16号住居

標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 8225 1 P.L.105	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上手が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。		
第 8226 2 P.L.105	土師器 杯	埋没土 1/8	①15.6 ② 8.4 ③ 4.0	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。口縁部内面に放射状凹文。		
第 8227 3 P.L.105	土師器 杯	埋没土 1/8	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削りであるが単位や方向は不明瞭。口縁部内面に煤の付着が見られる。		
第 8228 4 P.L.105	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口唇部には凹線が1条高り横ナデ。口縁部上半は無調整か、下半は横方向ヘラ削り。		
第 8229 5 P.L.105	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央付近は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。		
第 8230 6 P.L.105	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央付近は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。		
第 8231 7 P.L.105	須恵器 長頸壺	3.5cm 口縁部	① 9.2 頸部径5.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部中程に2条の凹線が広がる。胴部と口縁部の接合は2段構成か。		
第 8232 8 P.L.105	土師器 甕	16.0cm 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 8233 9 P.L.105	須恵器 広口壺	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。肩部は回転ヘラ削り。		
標記番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 82310 P.L.105	石製品 巖石	床面密着	①18.6 ②7.1	③10.5 ④2250	ひん岩	両端に敲打痕が認められる。表面上位に刺痕がある。	

## 18号住居

棟図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 84図 1 P.L.106	土師器 杯	埋没土 1/8	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 84図 2 P.L.106	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部に凹縁が1条走り、横ナデ。口縁部はヘラ削り。内面も口唇部に凹縁が1条走る。口縁部は放射状暗文。	
第 84図 3 P.L.106	土師器 杯	埋没土 口縁部下位 ～底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部下位と底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文、底部に螺旋状暗文。	
第 84図 4 P.L.106	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③紫灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 84図 5 P.L.106	須恵器 杯蓋	埋没土 柄	柄径5.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③紫灰色	ロクロ整形、回転は右回り。柄は貼付。	
第 84図 6 P.L.106	須恵器 蓋	埋没土 小片	①24.0 ②20.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 84図 7 P.L.106	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②10.0 ③ ④9.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 84図 8 P.L.106	土師器 壺	32.0cm 口縁部～胴 部片	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪積痕が見られる。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面は頸部にハケ目、胴部はヘラナデ。	
第 84図 9 P.L.106	土師器 壺	29.0cm 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ。	
第 84図 10 P.L.106	須恵器 短頸壺	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部はカキ目。	
第 84図 11 P.L.106	土師器 壺	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

## 32号住居

棟図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 87図 1 P.L.106	土師器 杯	16.0cm 完形	①13.8 ② ③ 3.2	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 87図 2 P.L.106	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に自然釉が付着。	
第 87図 3 P.L.106	須恵器 杯	埋没土 1/6	①13.0 ② 8.4 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 87図 4 P.L.106	須恵器 杯	埋没土 1/6	①12.8 ② 6.8 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	18住理土と 接合
第 87図 5 P.L.106	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ② 8.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 87図 6 P.L.106	須恵器 杯	埋没土 底部	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	

師匠番号 図版番号	種類 種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 87図 7 P.L.106	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	

### 19号住居

師匠番号 図版番号	種類 種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 89図 1 P.L.106	土師器 杯	42.0cm 1/2	①10.0 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	内面にぶい 橙色
第 89図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部上位は横ナデ、中位から下位はヘラ削り。	
第 89図 3 P.L.106	土師器 杯	埋没土 1/5	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 89図 4 P.L.106	土師器 杯	埋没土 1/3	①12.2 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	内面橙色
第 89図 5	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 89図 6 P.L.106	土師器 杯	床面密着 1/3	①12.0 ② ③ 3.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 89図 7 P.L.106	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.0 枚径11.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に壁をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。	内面明赤褐 色
第 89図 8 P.L.106	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロク口整形、回転は右回りか。底部はヘラ切り後不定方向のヘラ切り、内面は一定方向のナゲ後周辺部を回転ナゲ。	
第 89図 9 P.L.106	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。	
第 89図 10 P.L.107	土師器 壺	35.0cm 口縁部～胴 部上位片	①19.6 ② ③にぶい橙色	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 89図 11 P.L.107	土師器 壺	29.0～32.0 口縁部～胴 部上位片	①21.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 90図 12 P.L.107	土師器 壺	9.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 90図 13 P.L.107	土師器 壺	34.0cm 口縁部片	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。	
第 90図 14	土師器 壺	甕・埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 3.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 90図 15 P.L.107	土師器 台付壺	5.0cm 台部片	① ② 5.0③ 8.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③橙色	台部は上半が縦方向のヘラ削り、下半は横ナデ。	
第 90図 16 P.L.107	土師器 台付壺	17.0cm 台部片	① ② ④11.6 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	台部は上半が縦方向のヘラ削り、下半は横ナデ。	



押戻番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴	そ の 他	備 考
第 90図17 P.L.107	石製品 灰石	3.0cm	①13.1 ②5.0	③6.7 ④650	溶結凝灰岩	両端に敲打痕が認められる。下半の色調が黒ずむ。		
押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 90図18 P.L.107	鉄器 刀子	埋没土	①3.55 復元残6.8 ②厚み0.2 茎0.3	③21.0 ④4.69		茎基部と刃部先端欠損。刃面が良く残る。溝ぶくれはあるが刃が残る。刃部で強く屈曲する。		

#### 20号住居

押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 94図 1 P.L.107	須恵器 杯	23.0cm ほぼ球形	①10.3 ② 4.7 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。内面に漆が付着。	内面黒褐色
第 94図 2 P.L.107	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 94図 3 P.L.107	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 94図 4 P.L.107	灰輪陶器 椀	埋没土 口縁部片	①14.4 ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	虎渓山1号 窯式期
第 94図 5 P.L.107	灰輪陶器 椀	埋没土 1/4	① ②7.6③7.8 ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り放し技法はナグのため不明、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰色。	虎渓山1号 窯式期
第 94図 6 P.L.107	須恵器 不明	埋没土 小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部に脚部が高台を接続するためにへらで改線を巡らしている。	
第 94図 7 P.L.107	須恵器 盤?	埋没土 盤小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部外面はへら削り、内面はカキ目。	
第 94図 8 P.L.107	灰輪陶器 瓶	埋没土 小片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法は不明、釉調は透明感のある緑灰色。	
第 94図 9 P.L.107	須恵器 盤	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部外面は不定方向のへら削り、内面はカキ目。	
第 94図 10 P.L.107	須恵器 羽釜	埋没土	①19.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 95図 11 P.L.107	須恵器 羽釜	23.0cm	①19.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 95図 12 P.L.107	須恵器 羽釜	21.5cm 胴部下位へ 底部片	① ② 5.6 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は縦方向のへら削り、底部もへら削り。	
第 95図 13 P.L.107	須恵器 羽釜	6.7cm 胴部へ胴 部片	①21.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部は縦方向のへら削り、内面は上位が縦方向、中位が縦方向のへらナグ。	
第 95図 14 P.L.107	須恵器 壺	-17~17cm 胴部片	胴部径18.0 胴部径41.2 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。外面は平行叩き、内面は同心円状あて具痕が残る。	
第 95図 17 P.L.108	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナグ、口縁部は上半が無調整、下半から底部はへら削り。	

押図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 95図15 P.L.108	石製品 竪溝壱材	埋没土	①8.6 ③0.5	②7.1 ④190	未固結凝灰岩	表面から側面の一部にかけて残存する。全体に面が荒れて削りの痕跡は所々認められるが不明確である。	
第 95図16 P.L.108	石製品 竪溝壱材	埋没土	①9.5 ③5.9	②10.0 ④340	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表面から側面の一部が残存。全体に面が荒れる。削りの痕跡が認められるが詳細は不明。	
押図番号 図版番号	種 類 種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 95図18 P.L.108	鉄器 角釘	-9.5cm	①6.0 ③0.6	②9.9 ④15.50	下端欠損。頭が大きく張り出す。面の状態は良く太くしっかり作られる。		
第 95図19 P.L.108	鉄器 角釘	埋没土	①残2.75 ③0.4	②0.5 ④1.75	両端欠損。下端が細くなる。上位の錆ぶくれが著しい。		

## 21号住居

押図番号 図版番号	種 類 種 類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②酸化③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 98図 1 P.L.108	須恵器 碗	竪・埋没土 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③浅黄褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 98図 2 P.L.108	須恵器 碗	8.0cm 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③浅黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 98図 3 P.L.108	須恵器 碗	6.5cm 1/2	① ②7.0③8.0 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り放し技法は高台貼付時のナゲのため不明。	
第 98図 4 P.L.108	須恵器 碗	8.0cm 完形	①12.2 ②7.0③7.8 ③ 5.4	①細砂粒 ②還元焙焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 98図 5 P.L.108	須恵器 碗	埋土・掘方 底部片	① ② 8.5 ③ ④10.0	①細砂粒 ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 98図 6 P.L.108	須恵器 碗	埋没土 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 98図 7 P.L.108	灰胎陶器 碗	-5.0cm 口縁部片	①13.0 ② ③	①緻密 ②還元焙焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部下平に2段の回転へう削り。旋軸方法は漬け掛け、軸調は透明感のない灰白色。	
第 98図 8 P.L.108	灰胎陶器 碗	埋没土 1/3	①11.0 ②6.0③5.8 ③ 3.9	①緻密 ②還元焙焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。旋軸方法は漬け掛け、軸調は透明感のない灰白色。	虎沢山1号 窯式期
第 98図 9 P.L.108	灰胎陶器 碗	28.5cm 1/2	①13.0 ②6.4③6.0 ③ 5.1	①緻密 ②還元焙焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部はナゲ、高台は貼付。旋軸方法は漬け掛け、軸調は透明感のない灰白色。	大原2号窯 式期
第 98図 10 P.L.108	灰胎陶器 碗	-16.0cm 底部	① ②8.2③8.2 ③	①緻密 ②還元焙焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部はナゲ、高台は貼付。底部内面に漆が付着。	大原2号窯 式期
第 98図 11 P.L.108	須恵器 碗	掘り方埋土 口縁部～胴 部上位片	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 98図 12	須恵器 壺	7.5cm 胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焙 ③赤灰色	胴部外面は平行叩き、内面は同心円状であり具張。	
第 99図 13 P.L.108	須恵器 羽釜	10.5cm 口縁部～胴 部上位片	①16.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付、胴部上位は縦方向へのう削り。	
第 99図 14 P.L.108	須恵器 羽釜	8.0cm 口縁部～胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③浅黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部上位は縦方向へのう削り、内面はナゲ。	

所属番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 99図 15 P.L.108	須恵器 羽釜	2.1~19.0 口縁部~胴 部上位片	①18.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	内面に輪痕痕が残る。ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部上位は縦な縦方向のヘラ削り、内面はナデ。	
第 99図 16 P.L.108	須恵器 羽釜	6.5~26.0 口縁部~胴 部中位片	①16.6 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部は縦方向のヘラ削り。	
第 99図 17 P.L.108	須恵器 羽釜	2.1~19.0 1/4	①17.0 罫径20.6 胴径21.2	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部は底部からの縦方向のヘラ削りであるが罫付近に一部横方向のヘラ削り。内面胴部に縦方向のナデ。	
第 99図 18	須恵器 羽釜	~8.0cm 口縁部~胴 部上位片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄色	内面に輪痕痕が残る。ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 99図 19	須恵器 羽釜	電置り方 口縁部片	①19.6 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 99図 20 P.L.109	須恵器 羽釜	26.0cm 口縁部~胴 部上位片	①19.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 99図 21 P.L.109	須恵器 羽釜	19.0cm 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 99図 22 P.L.109	須恵器 羽釜	電・埋没土 胴部下位~ 底部片	① ② 8.4 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はヘラ削りか。	
第 99図 23 P.L.109	須恵器 羽釜	埋土・電方 胴部下位~ 底部片	① ②10.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 100図 24 P.L.109	須恵器 羽釜	~3.5~26.0 3/4	①18.6 ② 6.6 ③25.3	①細砂粒 ②酸化焰 ③淡黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。罫は貼付。胴部下半は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 100図 25 P.L.109	須恵器 羽釜	~13.0cm 胴部下位~ 底部片	① ② 7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部下位は縦方向のヘラ削り後横方向のヘラ削りか。	
第 100図 26 P.L.109	須恵器 羽釜	~8.0~7.1 口縁部~胴 部中位片	①21.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 100図 27 P.L.109	須恵器 羽釜	~6.0cm 口縁部~胴 部上位片	①19.2 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③淡黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部上位は斜めのナデ。	
第 100図 28 P.L.109	須恵器 羽釜	電 胴部下位~ 底部片	① ② 7.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はナデ。	
第 100図 29 P.L.109	須恵器 羽釜	埋没土 胴部下位~ 底部片	① ② 6.4 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り。	
第 100図 30 P.L.109	須恵器 羽釜	埋没土 胴部下位~ 底部片	① ② 8.8 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 100図 31 P.L.109	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 罫径9.2	①粗砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に深い横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 100図 32 P.L.109	土師器 杯	埋没土 1/6	①14.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部は不定方向ヘラ削り。	
第 100図 33 P.L.109	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.2 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	

押戻番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考		
第 106図 34 P.L.109	土師器 罍	埋没土 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部に輪痕が残る。口縁部は横ナゲ、胴部は縦方向のヘラ削り。			
押戻番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重さ	石 材	特 徴	そ の 他	備 考	
第 101図35 P.L.109	石製品 竪溝築材?	1.6cm	①18.65 ②4.9	②12.2 ④1900	粗粒安山岩	自然面は残存しない。角柱状の一部か。裏面の一部から左側面の一部にかけて黒煤が付着する。		
第 101図36 P.L.109	石製品 台石?	-1.4cm	①14.0 ③ 4.4	②11.5 ④1100	粗粒安山岩	上端及び左側面欠損。下端と右側面に敲打痕が認められる。表面にも弱く敲打痕がある。		
第 101図37 P.L.109	石製品 竪溝築材?	床面密着	①12.1 ③12.4	②9.5 ④1600	粗粒安山岩	角柱状を呈す一段のみ残存。表面に黒煤付着。		
第 101図38 P.L.110	石製品 竪溝築材	15.5cm	①106.4 ③13.7	②19.8 ④7900	土塊?	片端欠損。小口も2/3欠損する。全体に面が荒れるが削りの痕跡は表面、左右側面小口に残存する。		
押戻番号 図版番号	種類 器 種	出土位置	①最大長 ②厚み ③重さ	②最大幅 ④重さ	現 存 状 態	及 び	特 徴	備 考
第 102図39 P.L.110	鉄器 角釘	埋没土	①3.7 ③0.6	②0.4 ④2.15	両端欠損。強く屈曲する。亀裂がみられるが面の状態は良い。			
第 102図40 P.L.110	鉄器 角釘	埋没土	①2.8 ③0.3	②0.7 ④1.21	両端欠損。鋼により丸みを帯びるが、断面は本来矩形を呈すと思われる。			
第 102図41 P.L.110	鉄器 鉄線の類	埋没土	①5.3 ③0.6	②0.5 ④4.57	両端欠損。ほぼ直線的で下半は錆による割断でやや細くなる。			
第 102図42 P.L.110	鉄器 尖頭帯状品	埋没土	①2.7 ③0.1	②6.0 ④1.36	下部欠損。刃は作られていない。尖頭状で僅かにねじれがある。			

## 22号住居

押戻番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 108図 1 P.L.110	土師器 杯	17.0cm 1/4	①12.4 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 2 P.L.110	土師器 杯	15.0cm 1/2	①13.4 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 3 P.L.110	土師器 杯	27.0cm 1/6	①14.0 横径13.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい橙色	口縁部下に弱い横をもつ。口縁部は横ナゲ、底部不定方向のヘラ削り。	
第 108図 4 P.L.110	土師器 杯	埋没土 1/4	①14.2 ② ③ 4.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナゲ、中位は無調整、下位からヘラ削り。	
第 108図 5 P.L.110	土師器 杯	削り方 1/4	①16.0 ② ③ 4.6	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 6 P.L.110	土師器 杯	竈・掘り方 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 108図 7 P.L.110	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 108図 8 P.L.110	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰青色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 108図 9 P.L.110	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り、口縁部最下位に1~2段のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 108図 10 P.L.110	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ②10.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 108図 11 P.L.110	須恵器 椀	埋土・堀方 1/8	①16.0 ②9.9④9.0 ③3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。	
第 108図 12 P.L.110	須恵器 平瓶	21.0cm 上半部を欠	肩径12.2 ②6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下半はヘラ削りであるが自然物の付着のため単位等は不明、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 108図 13 P.L.110	土師器 壺	10.5cm 口縁部～胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 108図 14 P.L.110	土師器 壺	37.0cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③よよい褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 108図 15 P.L.110	土師器 壺	2号電 口縁部～胴 部上位片	①22.8 ②良好 ③褐色	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	埋土と接合
第 108図 16 P.L.111	土師器 壺	16.0cm 口縁部～胴 部上位片	①23.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③よよい赤褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は斜め・縦方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 108図 17 P.L.111	土師器 壺	11.5～24.5 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 108図 18 P.L.111	土師器 壺	2.0cm 口縁部～胴 部上位片	①25.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位はヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 109図 19 P.L.111	土師器 壺	10.5～50.0 口縁部～胴 部上位片	①25.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪轡痕が残る。口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第 109図 20 P.L.111	土師器 壺	0～2.0cm 3/4	①20.3 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナゲ、胴部は底部からの縦方向のヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 109図 21 P.L.111	土師器 壺	8.0～29.0 1/2	①21.2 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③よよい黄褐色	口縁部は横ナゲ、胴部は底部からの縦方向のヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 109図 22 P.L.111	土師器 壺	13.0～21.0 口縁部～胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 109図 23 P.L.111	土師器 壺	14.0～23.0 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 109図 24 P.L.112	土師器 壺	1.0～4.0cm 1/2	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は上位が横方向、中位から下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 110図 25 P.L.112	土師器 壺	2.0～35.0 3/4	①23.7 ②5.1 ③33.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は上位が横方向、中位から下位は斜め方向のヘラ削り。底部は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 110図 26	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ②7.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③よよい褐色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、内面はヘラナゲ。	
第 110図 27 P.L.111	土師器 壺	4.0～19.0 胴部下半片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部下半は斜め方向のヘラ削り。内面はヘラナゲ。	
第 110図 28 P.L.111	須恵器 壺	埋没土 底部片	① ②7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

神図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 110図 30 P.L.112	須恵器 壺	18.0cm 口縁部片	①26.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部内部にあて具痕が残る。		
第 111図 31 P.L.112	須恵器 壺	1.0~52.0 胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	外面は平行印キ、内面は同心円状あて具痕が残る。		
神図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴 その他	備考
第 110図29 P.L.111	石製品 砥石	2.0cm	①17.5 ③4.0	②8.9 ④900	粗粒安山岩	下端及び側面に敲打痕が認められる。左側面上位に痕跡が著しく、同位置右側面は剥離している。右側面は全体に敲打痕があり、下位にも剥離がある。表面と裏面下端にも使用による剥離がある。	
神図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴		備考
第 111図32 P.L.112	鉄器 帯状品	埋没土	①6.4 ③0.2・0.25	②1.35・0.5 ④6.53	両端欠損。幅が狭くなるにつれねじりがある。刃端、棟間とも不明確。刃部にあたる部分には2ヶ所みくれがある。		刀子?
第 111図33 P.L.112	鉄器 帯状品	埋没土	①残12.65 ③0.35	②2.15 ④18.99	左端欠損。全体に錆ぶくれあり。緩やかな反りを持つ。中央には著しい欠損箇所があり、みくれがみられる。右端は喪失時には現在の状態。		刀?
第 111図34 P.L.112	鉄器 鉄鏃	埋没土	①8.2 ③4.0	②2.8 ④10.50	ほぼ完形。錆ぶくれはあるが状態は良い。刃部最端が欠損、茎尻も僅かに欠損している。表面の欠損は錆ぶくれを消した痕跡。		37号住居資料と整合
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴		
(22066)	甕	小動物	肢骨片		焼骨。骨片3片。		分析No5
(22067)	甕	トリ	種子骨		焼骨。		分析No19
(22068)	甕	小動物	肋骨片など		焼骨。骨片多数。		分析No9
(22069)	甕	小動物	肋骨片など		焼骨。骨片数片。		分析No8

#### 60号住居

神図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 115図 1 P.L.112	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のへら削り。底部は不定方向のへら削り。	
第 115図 2 P.L.112	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.8 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のへら削り。	
第 115図 3 P.L.112	土師器 杯	-26.5cm 1/4	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のへら削り。底部は不定方向のへら削り。	
第 115図 4 P.L.112	土師器 鉢	19.0cm 口縁部片	①26.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はへら削り。	
第 115図 5 P.L.112	土師器 甕	埋没土 口縁部~底 部片	①20.0 横径17.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへら削り。	
第 115図 6	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③褐色	底部外面はへら削り。内面はへら研削。	
第 115図 7 P.L.112	土師器 杯	48.0cm 1/4	①12.0 ②10.6 ③ 2.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のへら削り。内面の口縁部と底部に放射状暗文。	
第 115図 8 P.L.113	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.0 ②10.0 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のへら削り。口縁部の内面に縦な放射状暗文。	

採掘番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 115図 9 P.L.113	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 115図 10 P.L.113	須恵器 杯	101.0cm 1/3	①12.0 ② 7.0 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部最下位に1～2段のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 115図 11 P.L.113	須恵器 杯	埋没土 1/3	①12.0 ② 8.0 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。口縁部最下位に1段の回転ヘラ削り、底部は回転ヘラ削り。	
第 115図 12 P.L.113	須恵器 杯	電 底部片	① ② 7.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下位に1～2段のヘラ削り、底部は回転ヘラ削りか。	
第 115図 13	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 115図 14 P.L.113	土師器 甕	23.0cm 口縁部～胴 部上位片	①21.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部や頸部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第 115図 15 P.L.113	土師器 甕	46.0cm 口縁部～胴 部	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 115図 16 P.L.113	土師器 甕	-5.5cm 胴部下位～ 底部片	① ② 4.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	胴部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(60017)	甕	小動物	肋骨片		焼骨。	分析№16

## 22・60号住居

採掘番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 116図 1 P.L.113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に轆をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 116図 2 P.L.113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に轆をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 116図 3 P.L.113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に轆をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 116図 4 P.L.113	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下位に1条の凹線が通る。底部は回転ヘラ削り。	
第 116図 5	土師器 甕	埋没土 口縁部小片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤灰色	口縁部は横ナデ。	
第 116図 6 P.L.113	須恵器 甕	埋没土 胴部～底部 片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は下位に叩き目、最下位に2～3段の回転ヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面にあて具痕が残る。	

## 23号住居

採掘番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 122図 1 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 ② ③ 2.7	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 122図 2 P.L.113	土師器 杯	31.0cm 3/4	①10.0 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は中位に凹線が1条走る。上半は横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	

所属番号 回収番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 12209 3 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.0 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③ふよい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12208 4 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.8 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③ふよい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12205 5 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12206 6 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.4 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、上位に僅かに無調整部分が残る。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12207 7 P.L.113	土師器 杯	1.8cm 2/3	①10.8 ② ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③ふよい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12208 8 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデと無調整、下半は横方向のヘラ削り。	
第 12209 9 P.L.113	土師器 杯	床面密着 1/4	①12.2 ② ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③ふよい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12205 10 P.L.113	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12208 11 P.L.113	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①無砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は外面が横方向のヘラ研磨、内面は上下2段に斜射状暗文、放射状暗文の間に環状暗文を施す。	畿内産
第 12208 12 P.L.113	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	底部外面はヘラ削り、内面に漆が付着。	
第 12208 13 P.L.114	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12208 14 P.L.114	須恵器 杯蓋	埋没土 1/6	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は右回りか。側は欠落しているが乳面状か。天井部は回転ヘラ削り、内面に身受けのカエリをもつ。	
第 12208 15 P.L.114	須恵器 杯	埋没土 1/3	① 7.0 ② 6.8 ③ 4.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 12208 16 P.L.114	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	① ② ④11.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 12208 17 P.L.114	須恵器 盤	埋没土 1/6	①21.2 ②18.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部はタキ目。	
第 12208 18 P.L.114	須恵器 貝類壺	59.0cm 胴部片	胴部最大 24.0 ③	①細砂粒 ②やや酸化焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部外面の肩部より上位は回転ヘラ削り、下位は平行叩目、内面の肩より下位はあて具痕が残る。	
第 12208 19 P.L.114	須恵器 双耳壺	63.0cm 口縁部～胴部 中位片	① 8.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。胴部上位に把手を貼付、把手はヘラ削り。	
第 12208 20 P.L.114	須恵器 長頸壺	埋没土 底部～脚部 片	① ② 8.2 ③ ④12.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ナデ、脚部は貼付。	
第 12208 21 P.L.114	須恵器 貝類壺	埋没土 胴部片	① ② ④12.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	



押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 122図 22 P.L.114	須恵器 小型壺	63.0cm 口縁部へ胴 部中位片	①11.0 ②最大径 11.4	①細砂粒 ②還元焼成質 ③灰白色	ロクロ成形、回転方向は不明。		
第 123図 23 P.L.114	土師器 壺	3.0cm 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、体部上位は横方向へラ削り。		
第 123図 24 P.L.114	土師器 壺	69.0cm 口縁部片	①21.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のへラ削り。		
第 123図 25 P.L.114	土師器 壺	69.0cm 口縁部片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のへラ削り。		
第 123図 26 P.L.114	土師器 壺	48.0～56.0 口縁部へ胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪襷痕が残る。口縁部へ頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のへラ削り、内面はへラナデ。		
第 123図 27 P.L.114	土師器 壺	4.0～56.0 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部外面は縦方向のへラ削り、内面はへラナデ。		
第 123図 28 P.L.114	土師器 壺	24.0cm 口縁部へ胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のへラ削り、内面はへラナデ。		
第 123図 29 P.L.114	土師器 壺	1.5cm 口縁部へ胴 部片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のへラ削り、内面はへラナデ。		
第 123図 30 P.L.114	土師器 壺	1.0～15.5 口縁部へ胴 部中位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半は縦方向のへラ削り、内面胴部はへラナデ。		
第 123図 31 P.L.115	土師器 壺	床面密着 突起形	①23.2 ② 5.6 ③36.3	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は頸部付近が横方向、他は縦方向のへラ削り。底部は不定方向のへラ削り、内面胴部はへラナデ。		
第 124図 32 P.L.114	土師器 壺	埋没土 口縁部へ胴 部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のへラ削り。		
第 124図 33 P.L.115	土師器 壺	2.0～21.5 口縁部へ胴 部片	①24.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のへラ削り、内面胴部はへラナデ。		
押出番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 124図34 P.L.115	石製品 櫛石?	床面密着	①13.9 ③0.5	②7.8 ④550	粗粒安山岩	裏面から側面、表面にかけて黒煤が付着する。表面には付着物が認められる。全面に使用の痕跡があり、裏面に著しい。	
第 124図35 P.L.115	石製品 こもあみ石	床面密着	①10.0 ③4.6	②6.0 ④400	実質安山岩	上端欠損。下端に弱い縦打痕がある。側面中位の角に刻線がある。黒煤が裏面、割れ口、側面に付着する。	
第 124図36 P.L.115	石製品 こもあみ石	2.0cm	①12.1 ③4.6	②5.9 ④600	石英閃緑岩	両端に縦打痕が認められる。両側面中位の角にも縦打痕及び刻線がみられる。黒煤が裏面、側面に付着し、被熱によるひびがある。	
第 124図37 P.L.115	石製品 砥石	12.0cm	①7.0 ③0.5	②6.8 ④150	実質ダイサイト	両端及び裏面欠損。現存する表面、両側面を研ぎ面とする。表面中央が窪む。	
押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 124図38 P.L.115	鉄器 帯状品	46.5cm	①10.9 ③0.2	②1.9・1.7 ④14.07		ほぼ完形、平坦で四角は丸く仕上げられる。中位はやや幅を増す。留金具等の痕跡はみられない。	
第 124図39 P.L.115	鉄器 角釘	埋没土	①6.5 ③0.5 頭1.1	②4.5 ④12.10		下端欠損、強く屈曲するが残存状態は良い。下端は強く屈曲する。	

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 124図40 P.L.115	鉄器 角釘?	床面密着	①2.9 ②0.4	③0.9 ④1.59	上端欠損。扁平で下端が屈曲している。	
第 124図41 P.L.115	鉄器 角釘?	埋没土	①2.5 ③0.5	②0.5 ④1.60	上端欠損。緩やかなカーブを描く。他に接合しない小片1片あり。	
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(23047)	床面密着				焼骨。細骨片数10片。	
(23048)	甕				焼骨。微細骨片数10片。	
(23049)	甕	小動物	寛骨片など		焼骨。骨片数片。	分析№19
(23050)	甕	トリ	末節骨など		焼骨。骨片6片。	分析№20

#### 24号住居

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 127図1 P.L.115	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向不明。底部は不定方向のヘアリ。	8 C前半代
第 127図2 P.L.115	須恵器 碗	47.0cm 1/2	①11.4 ② 5.2 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。やや酸化焰。	
第 127図3 P.L.115	須恵器 杯	9.5~41.0 口縁部の一部欠	①11.0 ② 5.0 ③ 3.5	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。やや酸化焰。	
第 127図4 P.L.115	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 127図5 P.L.115	須恵器 羽釜	3.9~21.0 口縁部~胴部上位片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形。踵は貼付。	
第 127図6 P.L.115	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部~胴部上位片	①24.2 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③赤褐色	ロクロ整形。踵は貼付。	

#### 25号住居

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 130図1 P.L.115	須恵器 杯	20.0cm 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形。	
第 130図2 P.L.115	須恵器 碗	握り方 1/4	①11.0 ②6.4③5.4 ③ 4.1	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り放し技法は高台貼付時のナゲのため不明。	
第 130図3 P.L.115	須恵器 碗	18.0cm 口縁部片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部上位に自然釉が付着。	煙道部より
第 130図4 P.L.116	須恵器 碗	埋没土 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	ロクロ整形、回転方向不明。	
第 130図5 P.L.116	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.4 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
第 130図6 P.L.116	須恵器 羽釜	28.0cm 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形。踵は貼付。	煙道部より
第 130図7 P.L.116	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形。踵は貼付。	

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 131図 9	須恵器 羽蓋	39.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化層 ③灰黄色	口クロ整形、罫は貼付。	
第 131図 10 P.L.116	須恵器 羽蓋	5.0cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化層 ③黄灰色	口クロ整形、罫は貼付。	
第 131図 11 P.L.116	須恵器 羽蓋	埋没土 口縁部～胴 部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化層 ③にぶい黄褐色	口クロ整形、胴部に輪痕痕が残る。罫は貼付。	
第 131図 12 P.L.116	須恵器 羽蓋	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化層 ③にぶい黄褐色	口クロ整形、罫は貼付。	
第 131図 13 P.L.116	須恵器 羽蓋	17.0～30.0 胴部下半片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化層 ③淡黄色	口クロ整形、胴部に輪痕痕が残る。胴部下半は縦 方向へ削り。	煙道部より
第 131図 14 P.L.116	須恵器 羽蓋	10.0～30.0 口縁部～胴 部中位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化層 ③淡黄色	口クロ整形、胴部に輪痕痕が残る。罫は貼付。胴 部下半は、縦方向へ削り。	煙道部より
第 131図 15 P.L.116	須恵器 羽蓋	埋没土 胴部下位片	① ② 8.0 ③	①粗砂粒 ②酸化層 ③にぶい褐色	口クロ整形、胴部に輪痕痕が残る。胴部下半は縦 方向へ削り。	
第 132図 17 P.L.116	須恵器 葉	埋没土 底部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元層 ③灰色	胴部外面は平行叩き目が残る。底部の整形は不明、 内面はナデ。	
押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	⑤形状 ⑥特徴	残存状態及び特徴	備考
第 129図4 P.L.116	鉄器 角釘	埋没土	①5.6 ②0.4	③20.5 ④2.73	両端欠損。中位が彫れている。上端が屈曲 している。	
押戻番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 131図16 P.L.116	石製品 敲石	床面密着	①16.8 ②4.2	③5.9 ④700	煎飯安山岩	裏面が大きく剥離する。両端及び表面左角 中位に敲打痕が認められる。

## 26号住居

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 134図 1 P.L.116	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③褐色	外面は底部・口縁部ともへら削りか、内面は口縁 部に放射状、底部に同心円状暗文。	
第 134図 2	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③褐色	外面は底部・口縁部ともへら削りか、内面は口縁 部に放射状暗文。	
第 134図 3 P.L.116	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元層 ③灰オリーブ色	口クロ整形、回転方向不明。	
第 134図 4 P.L.116	土師器 葉	19.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁變。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部上位は横方向へ削り、内面はヘラナデ。	
第 134図 5 P.L.116	土師器 葉	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①19.8 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は縦方向へ削り。	
第 134図 6 P.L.116	土師器 葉	床面密着 胴部下半片	① ② 3.5 ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下半は縦方向へ削り、内面はヘラナデ。	

標図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 134図7 P.L.116	鉄器 鉄鏝	埋没土	①残5.7 ③0.55×0.65	②残3.6 復元4.4 ④15.20	逆刺部、刃部先端、基部欠損。全体に錆ぶ くれが多く、表面は身部に剥離している。 間は裏面片断に僅かに残る。頸部へ関にか けて錆ぶくれで膨らんでいる。基部は錆に より剥離している。	

## 27号住居

標図番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 138図 1 P.L.116	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整。下位から 底部にかけてはヘラ削り。	
第 138図 2 P.L.116	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.2 ② ③3.2	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部はヘ ラ削り。	
第 138図 3 P.L.116	土師器 杯	8.0~11.0 1/2	①12.0 ② ③3.4	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向へラ削り。	
第 138図 4 P.L.116	土師器 杯	31.6cm 1/2	①12.6 ② ③4.0	①微砂粒 ②良好 ③明褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向へラ削り。	
第 138図 5 P.L.117	土師器 杯	埋没土 1/2	①12.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向へラ削り。	
第 138図 6 P.L.117	土師器 杯	2.5~6.5 完形	①12.6 横径10.9 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部と底部の間に稜をもつ。口縁部は横ナ デ、底部は不定方向へラ削り。	
第 138図 7 P.L.117	土師器 杯	14.0~31.0 1/3	①13.0 ② ③4.5	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、横ナデ下に若干の無調整 が残る。下半から底部にかけてはヘラ削り。	
第 138図 8 P.L.117	土師器 杯	埋没土 4/5	①12.4 ② ③3.7	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向へラ削り。	
第 138図 9 P.L.117	土師器 杯	15.5~30.0 1/4	①15.4 ②10.2 ③3.9	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向へラ削り。 底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に 螺旋状縮文。	
第 138図 10 P.L.117	土師器 杯	15.5cm 1/4	①16.0 横径13.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部と底部の間に稜をもつ。口縁部は横ナデ、 底部は不定方向へラ削り。	
第 138図 11 P.L.117	土師器 杯	26.0~40.0 1/2	①16.0 横径13.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部と底部の間に稜をもつ。口縁部は横ナデ、 底部は不定方向へラ削り。	
第 138図 12 P.L.117	須恵器 蓋	埋没土 1/6	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ 削り。内面にカエリをもつ。	
第 138図 13 P.L.117	須恵器 杯	埋没土 1/5	①12.0 ②7.4 ③3.6	①微砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向へ ラ削り。	
第 138図 14 P.L.117	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.2 ④11.4	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り、高台は貼付。	
第 138図 15 P.L.117	土師器 甕	28.0cm 口縁部~胴 部上位小片	①21.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向へラ削り、内 面はヘラナデ。	
第 138図 16 P.L.117	土師器 甕	27.0cm 口縁部~胴 部上位小片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向へラ削り、内 面はヘラナデ。	

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 138図 17 P.L.117	土師器 甕	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 5.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部下位は斜め方向、底部は不定方向へ向う割り。		
第 138図 18	土師器 甕	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰オリーブ色	胴部下位は斜め方向、底部は不定方向へ向う割り。		
押印番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 138図19 P.L.117	石製品 巖石	床面密着	①17.0 ③3.8	②6.2 ④600	粗粒安山岩	上端に弱い敲打痕が認められる。左側に打ちかかれた痕跡がある。	

## 28号住居

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 141図 1 P.L.117	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	クロコ整形、回転方向は不明。天井部は回転へ向う割り。内面にカスリをもつ。	8C.前半代	
第 141図 2 P.L.117	須恵器 椀	床面密着 1/2	①13.0 ②7.0③7.2 ④ 5.2	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	クロコ整形、回転は右回りか。底部は回転未切り。高台は貼付。		
第 141図 3 P.L.117	須恵器 椀	埋没土 1/3	①15.0 ②7.0③7.8 ④ 5.9	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄褐色	クロコ整形、回転は右回りか。底部は回転未切り。高台は貼付。		
第 141図 4 P.L.117	須恵器 椀	床面密着 1/3	① ②6.8③7.2 ④	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	クロコ整形、回転は右回りか。底部は回転未切り。高台は貼付。		
第 141図 5 P.L.117	灰釉陶器 鉢	埋没土 1/6	①9.0②9.0 ③	①密着 ②還元焰堅緻 ③灰黄色	クロコ整形、回転は右回りか。底部の切り放し技法は回転ナブにより不明。施釉方法は置き掛けか、内面は全面的に釉薬が付着。		
第 141図 6 P.L.117	須恵器 皿	5.0cm 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転方向は不明。		
第 141図 7 P.L.117	須恵器 甕	埋没土 口縁部小片	①17.4 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	クロコ整形、回転方向は不明。		
第 141図 8 P.L.117	須恵器 羽釜	10.7cm 1/6	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③浅黄褐色	クロコ整形、回転方向は不明。踵は貼付。胴部は縦方向へ向う割り。		
第 141図 9 P.L.117	灰釉陶器 長頸壺	埋没土 胴部上位片	① ② ③	①密着 ②還元焰堅緻 ③灰白色	クロコ整形、回転方向は不明。胴部は全面的に施釉されているが一部剥落。		
第 141図 10 P.L.118	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	クロコ整形、回転方向は不明。踵は貼付。胴部は縦方向へ向う割り。		
第 141図 11 P.L.118	須恵器 甕	12.3cm 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	クロコ整形、回転は右回り。外面の整形は不鮮明。		
第 141図 12 P.L.118	須恵器 羽釜	5.0cm 胴部下位～ 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	クロコ整形、回転方向は不明。胴部は縦方向へ向う割り。底部は不定方向へ向う割り。		
押印番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 142図13 P.L.118	石製品 巖石?	床面密着	①14.5 ③4.7	②11.4 ④1100	粗粒安山岩	表面、左側面、裏面に黒漆が付着する。上端に敲打痕、下端に弱い敲打痕が認められる。表、裏面に使用の痕跡がある。	
第 142図14 P.L.118	石製品 磨製雑材?	床面密着	①16.4 ③7.5	②13.1 ④2600	粗粒安山岩	一辺のみ残存する。割れ口に及ぶ黒漆付着が認められる。	

坪区番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石材	特徴その他	備考
第 142図15 P.L.118	石製品 敷石	床面密着	①14.1 ③4.0	②7.6 ④600	粗粒安山岩	下端欠損。上端に敲打痕が認められる。裏面に黒煤が付着する。	
第 142図16 P.L.118	石製品 敷石	埋没土	①13.8 ③3.9	②7.3 ④600	石英閃緑岩	上端及び両側面に敲打痕が認められる。下端に弱い敲打痕あり。表面～右側面には敲打による割傷がある。	

## 29号住居

坪区番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 145図 1 P.L.118	土器器 杯	埋没土 1/5	①10.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部にかけてはヘラ削り。口縁部横ナゲ下に僅かに無調整部分が残る。	
第 145図 2 P.L.118	土器器 杯	埋没土 1/4	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③ぶい橙色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部にかけてはヘラ削り。口縁部横ナゲ下に僅かに無調整部分が残る。	
第 145図 3	土器器 杯	埋没土	①11.2	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナゲ、底部は不定方向ヘラ削り。	
第 145図 4 P.L.118	土器器 杯	4.0～6.0 3/4	①12.0 ② 9.2 ③ 3.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナゲ、口縁部は無調整。底部は不定方向ヘラ削り。	
第 145図 5 P.L.118	土器器 杯	6.0～14.5 4/5	①11.4 ② ③ 3.6	①細砂粒 ②良好 ③ぶい橙色	口唇部は横ナゲ、口縁部から底部にかけては不定方向ヘラ削り。口唇部下に無調整部分が部分的に残る。	
第 145図 6	土器器 杯 口縁部小片	埋没土 口縁部小片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナゲ、中位以下は横方向ヘラ削り。	
第 145図 7 P.L.118	土器器 杯	埋没土 1/2	①12.4 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部にかけては不定方向ヘラ削り。口縁部横ナゲ下に無調整部分が僅かに残る。	
第 145図 8	土器器 杯	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 145図 9	土器器 杯	6.0cm 1/4	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナゲ、下半から底部にかけてはヘラ削り。口縁部横ナゲ下に僅かに無調整部分と指痕が見られる。	
第 146図 10 P.L.118	土器器 杯	埋没土	①13.0 横径12.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 146図 11 P.L.118	土器器 杯 口縁部小片	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナゲ。	
第 146図 12 P.L.118	土器器 杯 口縁部小片	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③橙色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 146図 13 P.L.118	土器器 杯 口縁部小片	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部に2条の凹線が返る。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 146図 14 P.L.118	土器器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナゲ、底部はヘラ削り。	
第 146図 15 P.L.118	土器器 杯	26.5cm 1/2	①11.6 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナゲ。口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 146図 16 P.L.118	土器器 杯 口縁部小片	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナゲ、中位が無調整。下位はヘラ削り。	

排列番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第146図 17 P.L.118	土師器 杯	埋没土	①16.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は横方向のヘラ削り。	
第146図 18 P.L.118	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 横径11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部下に弱い接をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向ヘラ削り。内面はヘラ研磨。	内面赤灰色
第146図 19 P.L.118	土師器 杯	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部下に接をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第146図 20 P.L.118	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	底部はヘラ削り。	底部内面に「+」の刻書
第146図 21 P.L.119	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部外面は格子状のヘラ研磨。内面は横方向のハケ目。	22、30住と接合
第146図 22 P.L.119	須恵器 蓋	17.0cm 掘穴	①8.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。柄は貼付であるが剥落。天井部は周辺部を除いて回転ヘラ削り。	
第146図 23 P.L.119	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	内面に身受けのカエリをもつ。ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部分は回転ヘラ削り。	
第146図 24 P.L.119	須恵器 杯	埋没土 1/4	①11.0 ②8.0 ③3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は不定方向のヘラ削り。	
第146図 25 P.L.119	須恵器 杯?	埋没土 口縁部小片	①11.4 ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	口縁部外面 横位に「+」 の刻書
第146図 26 P.L.119	須恵器 杯	埋没土 1/5	①13.0 ②9.0 ③3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部の最下位に一段の回転ヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第146図 27 P.L.119	須恵器 機	21.0~26.5 1/4	①17.0 ②12.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。高台は貼付であるが剥落。	
第146図 28 P.L.119	須恵器 盤	埋没土 口縁部小片	①28.0 ②25.6 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面の整形は磨面が剥落しているため不明であるが底部は回転ヘラ削り。	
第146図 29 P.L.119	須恵器 高台盤	埋没土 底部片	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。杯身底部は回転ヘラ削り。杯身と脚部の接合面は凹凸を施している。	
第146図 30 P.L.119	須恵器 高杯	3.0cm 脚部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第146図 31 P.L.119	須恵器 長頸壺	埋没土 底部片	① ②11.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第146図 32	土師器 壺	埋没土 口縁部小片	①11.4 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ。	
第147図 33 P.L.119	土師器 壺	2.0cm 口縁部~胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	
第147図 34 P.L.119	土師器 壺	6.0cm 口縁部片	①21.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向ヘラ削り。	
第147図 35	土師器 壺	17.0cm 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部に輪轡痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。胴部上位はヘラ削り。	

採石番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 147回 36 P.L.119	土師器 壺	床面密着 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③浅赤褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部上位はヘラ削り。		
第 147回 37 P.L.119	土師器 壺	2.0~6.0 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。 胴部上位はヘラ削り。		
第 147回 38 P.L.119	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向へ削り。		
第 147回 39 P.L.119	土師器 壺	3.0cm 口縁部~胴 部中位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はヘラ削り、内面 はヘラナデ。		
第 147回 40 P.L.119	須恵器 壺	54.0cm 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 147回 41 P.L.119	土師器 壺	1.5~26.5 口縁部~胴 部中位片	①18.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は横方向へ削り、 内面はヘラナデ。		
第 147回 42 P.L.119	土師器 甕?	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③におい褐色	頸底部の孔か。		
第 148回 43	須恵器 壺	70.0cm 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	胴部外面は平行引き、内面は同心円状のあて具痕 が残る。		
第 148回 44 P.L.120	須恵器 壺	埋土・断片 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部は回線で区 画され、その中に放射状文が施されている。		
第 148回 45 P.L.120	須恵器 鉢	埋没土 1/8	①11.6 ② 6.5 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③におい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技 法は高台貼付時のナデのため不明。		
第 148回 46 P.L.120	須恵器 羽釜	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③におい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。胴部は縦方向へ削 り。	内面灰褐色	
第 148回 47 P.L.120	須恵器 羽釜	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③におい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。筒は貼付。		
採石番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 148回48 P.L.120	石製品 敲石	床面密着	①19.3 ③4.8	②6.9 ④900	安賀安山岩	両端に弱い敲打痕が認められる。表面及び 裏面に磨痕あり。	
第 148回49 P.L.120	石製品 敲石	2.0cm	①10.9 ③2.7	②6.6 ④300	粗粒安山岩	上端一部欠損。両端に敲打痕があり、下端 には幅広く認められる。	
第 148回50 P.L.120	石製品 敲石	床面密着	①12.5 ③5.0	②7.8 ④600	珧質安賀岩	下端に敲打痕が認められる。	
第 148回51 P.L.120	石製品 敲石	7.0cm	①10.8 ③6.0	②7.8 ④850	粗粒安山岩	上端に敲打痕が認められる。裏面に鋭利な 工具による条痕が6本みられる。	
第 148回52 P.L.120	石製品 敲石	2.0cm	①9.8 ③5.0	②5.2 ④400	ひん岩	下端に敲打痕、上端に弱い敲打痕が認めら れる。	
第 148回53 P.L.120	石製品 敲石	床面密着	①11.2 ③4.3	②10.5 ④800	珧質安賀岩	下端に敲打痕が認められ、裏面に使用の痕 跡がある。	
第 149回54 P.L.120	石製品 敲石	床面密着	①18.9 ③5.4	②9.3 ④1750	ひん岩	上端に敲打痕が認められる。下端の角、右 側面角にも弱い敲打痕がある。	
第 149回55 P.L.120	石製品 標石	床面密着	①12.2 ③4.9	②12.3 ④1000	粗粒安山岩	表及び側面で自然面の目が著しくつぶれて おり、使用の痕跡が認められる。	
第 149回56 P.L.120	石製品 敲石	1.5cm	①20.0 ③3.1	②5.2 ④400	頁岩	両端に敲打痕が認められ、共に著しい割 れがある。	
第 149回57 P.L.120	石製品 敲石	床面密着	①11.9 ③3.8	②8.1 ④500	ひん岩	上・下端及び右側面頂部に敲打痕が認めら れる。裏面に使用の痕跡がある。	



採掘番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石材	特徴 その他	備考
第 149図58 P.L.120	石製品 砥石?	床面密着	①10.6 ③2.9	②8.1 ④400	粗粒安山岩	表に3ヶ所、裏に2ヶ所、鋭利な工具の痕跡がある。	
第 149図59 P.L.120	石製品 砥石?	2.0cm	①6.5 ③5.0	②5.5 ④250	粗粒安山岩	上端に使用の痕跡が認められる。	
第 149図60 P.L.120	石製品 砥石	床面密着	①10.9 ③3.2	②6.3 ④300	頁岩	両端に敲打痕が認められる。上端に使用による刻痕が著しい。	
第 149図61 P.L.120	石製品 砥石	35.6cm	①14.0 ③8.4	②13.1 ④2000	安貫玄武岩	上端に敲打痕が認められる。	
第149図62 P.L.120	石製品 砥石	床面密着	①13.2 ③5.5	②14.4 ④1500	粗粒安山岩	表面に使用の痕跡が認められる。	
第149図63 P.L.120	石製品 砥石	床面密着	①8.2 ③4.7	②8.1 ④400	粗粒安山岩	表、裏面に使用の痕跡が認められ、特に表では自然面の目のつぶれが全域に広がる。	

### 30号住居

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 153図 1 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③ 2.9	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	
第 153図 2 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/6	①11.0 ② ③ 2.6	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部は不定方向のヘラ削り、下半には無調整部分の一部残る。	
第 153図 3 P.L.121	土師器 杯	38.5cm 2/3	①10.4 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は横方向のヘラ削り、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 4 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.6 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 5 P.L.121	土師器 杯	埋没土 2/3	①11.0 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、内面の上半に回転によるヘラ先痕が見られる。	
第 153図 6 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は横方向のヘラ削り、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 7 P.L.121	土師器 杯	6.5cm 1/5	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 8 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.4 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 9 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.6 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部はヘラ削り。	内面褐色
第 153図 10 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 153図 11 P.L.121	土師器 杯	50.1cm 1/6	①12.0 ② ③ 3.6	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 12 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/8	①12.0 口径11.6 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、横は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 153図 13 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/8	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	
第 153図 14 P.L.121	土師器 杯	6.5cm 1/4	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	

検出番号 図版番号	種類 種類	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 153図 15 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から 底部はヘラ削り。	
第 153図 16 P.L.121	土師器 杯	掘り方埋土 1/8	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。外面の口縁部 から底部の一部と内面の口唇部の一部に傷が付着 する。	
第 153図 17 P.L.121	土師器 杯	埋没土	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部はヘラ削り。	
第 153図 18 P.L.121	土師器 杯	25.8~37.0 3/4	①14.0 ② ③4.9	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位は横 方向のヘラ削り、底部は一定方向のヘラ削り。内 面に傷が付着。	
第 153図 19 P.L.121	土師器 杯	埋没土	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	
第 153図 20 P.L.121	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② 4.1 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	内面は黒色処理。口縁部下に割れをもつ。口縁 部は横ナデ、横下から底部はヘラ削り。内面はヘ ラ研磨。	
第 153図 21 P.L.121	土師器 杯	17.0cm 2/3	①10.2 ② ③ 5.1	①細砂粒 ②良好 ③褐色	内面は黒色処理。口縁部は上半が横ナデ、下半は ヘラ削り後ヘラ研磨、底部はヘラ削り。内面は口 縁部が横方向、底部は不定方向のヘラ研磨。	
第 153図 22 P.L.121	土師器 杯	46.5cm ほぼ完形	①14.4 ② ③ 5.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	内面は黒色処理。口縁部は上半が横ナデ、下半か ら底部はヘラ削り。内面は全面的にヘラ研磨。	
第 153図 23 P.L.121	須恵器 杯蓋	埋没土 1/2	① 9.4 ② 横径1.5 ③ 2.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。横は貼付、天井部 の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリ をもつ。	
第 153図 24 P.L.121	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は口唇部を 除き回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 154図 25 P.L.122	須恵器 杯蓋	埋没土 1/6	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。横は貼付か。天井 部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエ リをもつ。	
第 154図 26 P.L.122	須恵器 杯蓋	12.5cm ほぼ完形	①13.8 ② 横径5.0 ③ 2.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は右回り。横は偏平で貼付。 天井部の中心部は回転ヘラ削り。内面に身受けの カエリをもつ。	
第 154図 27 P.L.122	須恵器 蓋	35.1cm 1/4	①20.9 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は 回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 154図 28 P.L.122	須恵器 杯	床面密着 3/4	① 9.7 ② 7.6 ③ 3.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘ ラ削り。	
第 154図 29 P.L.122	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③洗黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。体部は回転ヘラ削 り。	
第 154図 30 P.L.122	須恵器 鉢	26.0cm 1/4	① ②11.4 ③11.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部はヘラ切り後回 転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 154図 31 P.L.122	須恵器 短頸壺	埋没土 口縁部~胴 部上位小片	①10.0 ② 胴部最大径 12.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 154図 32	須恵器 短頸壺	掘り方埋土 口縁部~胴 部上位小片	① ② 胴部最大径 10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 154図 33 P.L.122	須恵器 長頸壺	26.0cm 頸部小片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部下位に接合痕 が見られる。	

押出番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考	
第 154図 34 P.L.122	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部中に凹線が2条走る。内面に自然釉が付着。		
第 154図 35 P.L.122	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部小片	① ② ④12.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 154図 36 P.L.122	須恵器 高台盤	埋没土 胴部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部と杯身の接合部にカキ目状の凹線が見られる。		
第 154図 37 P.L.122	土師器 壺	8.0~12.5 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 154図 38 P.L.122	土師器 壺	1.4~8.0cm 口縁部~胴 部上位片	①22.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 154図 39 P.L.122	土師器 台付壺	50.5cm	① ② 5.7 ③	①細砂粒 ②良好 ③よよい赤褐色	胴部下位はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 154図 40 P.L.122	土師器 台付壺	埋没土 台部片	① ② ④9.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③よよい褐色	台部は上半が横方向のヘラ削り、下半は横ナデ。		
押出番号 図版番号	種類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考	
第 154図41 P.L.122	鉄器 鉄鏃	埋没土	①残6.5 ③0.4	②0.6・0.5 ④4.79	刃部、胴部~茎欠損。鏃身側部が僅かに残る。茎に近いほど厚みを増す。		
第 154図42 P.L.122	鉄器 角釘	埋没土	①残4.0 ③0.4	②0.4 ④2.39	両端欠損。上半は長く残り下半は鏃による刺刺で細くなる。		
第 154図43 P.L.122	鉄器 角釘	埋没土	①残3.5 ③0.3	②0.4 ④1.37	下端欠損。部分的に鏃による刺刺はあるものの全体的に残存状態は良い。		
押出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 155図44 P.L.122	石製品 こもあみ石	4.0cm	①9.1 ③3.1	②7.1 ④350	ひん岩	中位~上位にかけて摩耗様式の痕跡が認められる。	
第 155図45 P.L.122	石製品 こもあみ石	4.0cm	①7.6 ③3.8	②4.9 ④200	粗粒安山岩	裏面に使用の痕跡の可能性はある。	
第 155図46 P.L.122	石製品 敲石	床面密着	①12.9 ③3.9	②6.6 ④500	粗粒安山岩	両端に敲打痕及び表~裏面にかけて使用の痕跡が認められる。裏面に付着する。	
第 155図47 P.L.122	石製品 擦石	6.5cm	①11.6 ③5.8	②10.4 ④1100	流紋岩質凝灰岩	裏面に使用の痕跡が認められる。	
第 155図48 P.L.122	石製品 敲石	床面密着	①14.0 ③4.3	②7.2 ④800	流紋凝灰岩	上端に敲打痕があり一部刺刺している。表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 155図49 P.L.123	石製品 こもあみ石	床面密着	①15.0 ③4.5	②8.8 ④650	粗粒安山岩	自然面を残さない割れ石。	
第 155図50 P.L.123	石製品 こもあみ石	床面密着	①9.4 ③4.2	②11.5 ④400	粗粒安山岩	自然面を表の一部にのみ残す割れ石。	
第 155図51 P.L.123	石製品 擦石?	床面密着	①10.8 ③5.4	②10.1 ④750	粗粒安山岩	両端に弱い使用の痕跡が認められる。	
第 155図52 P.L.123	石製品 擦石?	2.0cm	①12.1 ③4.4	②7.55 ④650	粗粒安山岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 155図53 P.L.123	石製品 擦石?	床面密着	①14.8 ③7.9	②13.3 ④200	流紋岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
第 156図54 P.L.123	石製品 こもあみ石	床面密着	①10.1 ③4.2	②7.5 ④450	ひん岩	下端に敲打痕がみられる。	
第 156図55 P.L.123	石製品 こもあみ石	4.0cm	①7.6 ③6.15	②9.4 ④650	粗粒安山岩	2条の浅い条線が認められる。	
第 156図56 P.L.123	石製品 敲石?	1.6cm	①7.0 ③5.05	②6.8 ④350	流紋質岩	一部に敲打の刺刺があり、裏に条線が3ヶ所みられる。	

標図番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③3.65	②最大幅 ③重量	石 材	特 徴	そ の 他	備 考
第 156図57 P.L.123	石製品 磨石	床面密着	①7.4 ③3.65	②6.8 ④250	粗粒安山岩	表面に使用の痕跡の可能性はある。		

### 33号住居

標図番号 図版番号	種 類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 158図 1 P.L.123	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.2 ② ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 2 P.L.123	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 3 P.L.123	土師器 杯	43.5cm 1/3	①13.0 ② ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位はヘラナゲのような整形、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 4 P.L.123	土師器 杯	37.0cm 3/4	①14.8 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 158図 5 P.L.123	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状噴文。	
第 158図 6 P.L.124	土師器 杯	49.0cm 1/3	①13.6 ② 9.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部が放射状、底部は螺旋状噴文。	
第 158図 7 P.L.123	土師器 杯	37.0cm 口縁部の一 部を欠	①13.8 ② ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部が放射状、底部は螺旋状噴文。	内面口縁部に「+」のヘラ書き
第 158図 8 P.L.124	土師器 杯	55.0cm 1/2	①14.2 ② 8.4 ③ 4.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部、底部とも放射状噴文。	
第 158図 9	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転余切り。	内面黒色
第 158図 10 P.L.123	土師器 杯	埋没土 小片	①15.0 ② 8.0 ③ 4.3	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状噴文。	
第 158図 11 P.L.124	須恵器 鉢	埋没土 口縁部下半 ～底部片	① ②6.2③6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り抜き技法は高台貼付時のナゲのため不明。	
第 158図 12 P.L.123	須恵器 杯	4.0cm 1/3	①15.8 ②11.0 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第 158図 13 P.L.124	須恵器 鉢	81.0cm 口縁部片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部から口縁部下半は回転ヘラ削り。	
第 158図 14	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①17.5 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 158図 15 P.L.124	須恵器 長頸壺	30.0cm 頸部～胴部 片	頸部径11.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接続は2段構成。	
第 159図 16 P.L.124	須恵器 長頸壺	69.0cm 頸部～胴部 片	頸部径6.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接続は2段構成。	
第 159図 17	須恵器 長頸壺	91.0cm 頸部～胴部 小片	頸部径7.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接続は2段構成。	

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第159図 18 P.L.124	土師器 甕	82.5cm 口縁部～胴 部上位片	①13.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第159図 19 P.L.124	土師器 甕	埋設土 口縁部片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい棕色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第159図 20	土師器 甕	66.5cm 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り後、縦方向のヘラ削り。	
第159図 21 P.L.124	土師器 甕	17.5～55.0 口縁部～胴 部中位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③棕色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第159図 22 P.L.124	土師器 甕	55.0～61.5 口縁部～胴 部上位片	①23.3 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③棕色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第159図 23 P.L.124	土師器 甕	35.0～47.0 口縁部～胴 部中位片	①21.6 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第159図 24 P.L.124	土師器 甕	27.0～71.0 口縁部～胴 部下位片	①23.0 胴部径22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ。胴部は上位が横方向、中位から下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第159図 25 P.L.125	土師器 甕	56.0cm 胴部下位片	①4.4 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第159図 26 P.L.125	土師器 甕	埋設土 胴部下位片	① ②5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい棕色	胴部下位は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第160図 27 P.L.125	土師器 甕	1.0～42.0 胴部片	胴部径32.2 ① ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい棕色	胴部は上位が斜め方向、中位から下位が横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第160図 28 P.L.125	土師器 甕	27.0～35.0 胴部下位片	① ②5.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③赤褐色	胴部は下位が縦方向、最下位は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第160図 29 P.L.125	土師器 甕	35.0cm 底部片	① ②4.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい棕色	胴部最下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第160図 30 P.L.125	須恵器 甕	81.0cm 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が2条走る。口縁部は区画凹縁内に波状文を3段+α施す。	
第160図 31	須恵器 甕	埋設土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹縁が1条走る。	
第160図 32	須恵器 甕	埋設土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯を1条貼付。	
第160図 33 P.L.125	須恵器 甕	埋設土 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第160図 34 P.L.125	須恵器 甕類	57.0cm 胴部下位片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。	
第160図 35 P.L.125	須恵器 甕	埋設土 胴部下位片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部最下位は回転ヘラ削り。	
第160図 36 P.L.125	須恵器 甕	21.0～53.0 口縁部～胴 部片	①34.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹縁が1条走る。	

押出番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考		
第 161図 37 P.L.125	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③赤褐色	内面黒色処理。外面の整形は表面剥落のため不明。 内面は口縁部が横方向のヘラ研磨。			
第 161図 38 P.L.125	須恵器 杯	60.0cm 1/3	①12.4 ② 7.0 ③ 3.6	①粗砂粒 ②酸化焙きみ ③にぶい黄褐色	ロクロ整形。回転は右回り。底部は回転車切り。			
押出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴	そ の 他	備 考
第 161図39 P.L.125	石製品 砥石	埋没土	①11.3 ③3.5	②5.35 ④890	砥沢石	上端欠損。小口も内湾する。表面左右の面を研ぎ面としている。左右側面及び小口に飛来もの刃物の条線がある。		
第 161図40 P.L.125	石製品 磨石	43.5cm	①9.0 ③6.2	②8.8 ④700	粗粒安山岩	表面に使用の痕跡が認められ、裏面に著しい。		
第 161図41 P.L.125	石製品 台石?	47.0cm	①28.3 ③8.7	②11.8 ④2600	角閃石安山岩	舟形を呈し、表は平坦となる。上位に円形の僅かな窪みがある。削り痕跡が僅かに残る。		
第 161図42 P.L.126	石製品 砥石	54.5cm	①7.3 ③2.8	②4.6 ④100	砥沢石	上端の一部残存。残存部分では表、左側面を研ぎ面に使用している。		
押出番号 図版番号	種類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考	
第 161図43 P.L.126	銅製品 鈎	5.5cm	①5.5 ③4.0	②3.8 ④68.33	完形。八稜形をなし鈎全体と鏝は一体で鋳造している。鏝型鋳造である。腹部は2条の隆起した形が張り、口は長方形を呈し鏝が一般肥厚する。肥厚する幅は八稜の一辺の長さに等しい。上半部では鏝を換んで両側に型もちに使用した釘の小孔があく。			
第 161図44 P.L.126	鉄器	埋没土	①2.5 ③0.2	②1.7 ④2.00	鎌身破片で刃部の状態は悪い。			
第 161図45 P.L.126	鉄器 角釘	埋没土	①4.3 ③0.4	②0.5 ④1.89	両端欠損。残存部の状態は良い。			
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴			
(33045)	埋没土	シカ	角片	*26.5×15.0	鹿骨。同一の角が崩壊したもの。			
(33047)	14.0cm	ウマカウシ(?)	肢骨片	*32.0×31.0	半生?骨片多数。後世のものの可能性あり。			
(33048)	31.0cm	シカ	角片	*28.6×24.0	鹿骨。角片多数。			

#### 41号住居

押出番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 167図 1 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナズ、下半の整形は不鮮明、底部はヘラ削りであるが単位・方向は不明。	
第 167図 2 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナズ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 167図 3 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/5	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナズ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 167図 4 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/3	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナズ、一部に無調整が残る、無調整に指ナズ、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 167図 5 P.L.126	土師器 杯	59.0cm 1/4	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナズ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 167図 6 P.L.126	土師器 杯	93.0cm 1/3	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナズ、横ナズ下に無調整が残る。下半は横方向のヘラ削り。	

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第167図 7 P.L.126	土師器 杯	32.5cm 1/2	①11.4 検径10.6 ③3.5	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 8 P.L.126	土師器 杯	110.6cm 1/4	①11.0 検径10.6 ③3.6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 9 P.L.126	土師器 杯	44.0cm 1/3	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 10 P.L.126	土師器 杯	49.5~132 1/4	①11.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 11 P.L.126	土師器 杯	壺・埋没土 1/2	①11.4 検径11.0 ③3.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	33住理土と 接合
第167図 12 P.L.126	土師器 杯	埋没土 ほぼ完形	①11.3 検径10.2 ③3.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 13 P.L.126	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜下に無調整が残る。底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 14 P.L.126	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.4 検径12.8 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第167図 15 P.L.126	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第167図 16 P.L.126	土師器 杯	46.0cm 1/3	①11.0 ② ③4.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部と底部はヘラ削りであるが単位・方向は不鮮明。	
第167図 17 P.L.127	土師器 杯	22.0~57.0 2/3	①12.5 ② ③4.7	①微砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 18 P.L.127	土師器 杯	21.0cm 1/2	①12.8 ② ③4.7	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が横方向のヘラ削り、下半から底部は不定方向のヘラ削り。	
第167図 19 P.L.127	土師器 杯	埋没土 1/2	①14.0 ②4.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部から底部は横方向のヘラ削り。	
第167図 20 P.L.127	土師器 杯	68.0cm 1/4	①14.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第167図 21 P.L.127	土師器 杯	電掘り方 1/4	①14.0 ② ③3.4	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	33住理土と 接合
第167図 22 P.L.127	須恵器 杯蓋	70.5cm 1/6	①10.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回りか、天井部は口唇部を除いて回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第167図 23 P.L.127	須恵器 杯	埋没土 底部片	①9.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第167図 24 P.L.127	土師器 甕	35.0~72.0 口縁部~胴部上位片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第167図 25 P.L.127	土師器 甕	18.5cm 口縁部~胴部上位片	①18.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③暗赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第168回 26 P.L.127	土師器 甕	7.5cm 3/4	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168回 27 P.L.127	土師器 甕	7.5cm 1/4	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③ぶい褐色	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168回 28 P.L.127	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	①16.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168回 29 P.L.127	土師器 甕	67.0cm 底部～胴部 下位片	① ②5.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第168回 30 P.L.127	須恵器 甕	99.0cm 口縁部片	①26.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部に平行叩き痕が僅かに残る。内面に自然釉が付着。	
第168回 31 P.L.128	土製品 籬羽口	24.0cm 先端部片	外径6.8 内径2.3 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③褐色	外面はヘラ削りか。先端部の溶解剤の内面に接する部分は紫褐色のアメ状に溶解する。	
第168回 32 P.L.128	須恵器 甕	91.0cm 底部片	①9.0 ②8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部の切り直し技法は高台貼付時のナデ等により不明。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特 徴	
PL.128 33	甕	シカ	前肢末節骨遠位半片	23.2×15.1	焼骨。	(41035)
PL.128 34	甕	シカ	種子骨	16.2×7.1	焼骨。	(41036)
PL.128 35	甕	シカ	中節骨近位端	15.4+	焼骨。	(41037)
PL.128 36	甕	シカ	基節骨遠位端		焼骨。	(41038)
PL.128 37	甕	シカ	基節骨遠位端	21.1×8.8	焼骨。	(41039)
PL.128 38	甕	ノウサギ	距骨	12.2	焼骨。	(41040)
(41041)	床面密着	ウマカウシ	骨片	23.9×19.9	焼骨(?)。細骨片。	
(41042)	甕			25.0×9.3	焼骨片。	
PL.128 39	2号甕	シカ	中節足近位骨端	33.5×19.0	焼骨。骨端離脱。	(41043)
PL.128 40	甕	イノシシ	左上腕骨大結節片	35.0×27.0	焼骨。	(41044)
(41045)	甕	シカ	脛骨(?)片など	*25.0×13.2	焼骨。脛骨片16片。	
PL.128 41	13.5cm	イノシシ	左尺骨半月切痕付近	51.1×13.7	焼骨。	(41046)
(41047)	甕	トリ	指骨(?)		焼骨。骨片2片。保存良好。	分析№21
(41048)	甕				焼骨。骨片3片。	分析№21
(41049)	甕	中型鳥類	中節骨		焼骨。	分析№21
(41050)	甕	トリなど	中節骨近位端など		焼骨。脛骨片10数片。	分析№21
(41051)	甕	中動物	肢骨片など		焼骨。骨片3片。	分析№22

#### 34号住居

標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第176回 1 P.L.128	土師器 杯	甕廻り方 1/4	①12.0 ②10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部はヘラ削り。口縁部下半にヘラ尖痕が見られる。	埋土と接合
第176回 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ②9.0 ③3.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部はヘラ削り。	
第176回 3	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②8.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り後中程に不定方向のヘラ削り。	
第176回 4 P.L.128	須恵器 杯	9.3cm 1/4	①12.0 ②4.6 ③3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③明赤褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。	



解図番号 図版番号	種類 番 号	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 176図 5	須恵器 杯	埋土・掘方 底部	① ② 6.2 ③	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 6 P.L.128	須恵器 杯	埋土・掘方 底部片	① ② 5.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 7 P.L.128	須恵器 杯	埋設土 底部	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 8 P.L.128	須恵器 杯	埋設土 底部	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 9	須恵器 杯	埋設土 底部	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 10	須恵器 杯	埋設土 底部片	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 11	須恵器 杯	埋設土 底部片	① ② 7.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 12	須恵器 杯	埋設土 底部片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 13 P.L.128	須恵器 杯	-10.0cm 2/3	①12.6 ② 5.0 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 14 P.L.128	須恵器 杯	-13.5cm 穴形	①14.0 ② 6.5 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 15 P.L.128	須恵器 杯	埋土・掘方 1/2	①13.6 ② 6.2 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 16 P.L.128	須恵器 杯	埋設土 1/4	①13.8 ② 6.0 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 17 P.L.128	須恵器 杯	甍・埋設土 1/8	①13.6 ② 5.8 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 176図 18 P.L.128	須恵器 杯	埋土・掘方 1/2	①14.0 ② 6.2 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 176図 19 P.L.128	須恵器 杯	埋土・掘方 1/3	①14.0 ② 6.5 ③ 4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 20 P.L.128	須恵器 杯	甍・埋設土 1/4	①13.0 ② 4.8 ③ 4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 21 P.L.128	須恵器 杯	埋設土 1/4	①13.0 ② 6.0 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 22 P.L.128	須恵器 杯	掘り方埋土 1/4	①12.9 ② 5.6 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 23 P.L.129	須恵器 杯	2.5cm 1/4	①14.0 ② 6.5 ③ 4.2	①粗砂粒 ②やや酸化焰ざみ ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	

埋蔵番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 177図 24 P.L.129	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄褐色	クロコ整形、回転方向は不明。	
第 177図 25 P.L.129	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰やや軟質 ③灰白色	クロコ整形、回転方向は不明。	
第 177図 26 P.L.129	須恵器 椀	床面遺着 1/4	①15.2 ②6.5③6.5 ④ 5.2	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第 177図 27 P.L.129	須恵器 椀	2.5cm 1/2	①14.0 ②6.2③6.2 ④ 4.5	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 177図 28 P.L.129	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰オリーブ色	クロコ整形、回転方向は不明。	
第 177図 29 P.L.129	須恵器 椀	埋土・掘方 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	クロコ整形、回転方向は不明。体部下半の一部に ヘラナデ。	
第 177図 30 P.L.129	須恵器 杯	27.8cm 3/4	①14.5 ②6.0③5.8 ④ 5.3	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は削り出し？	
第 177図 31 P.L.129	須恵器 椀	2.9cm 1/2	①15.6 ② 7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は剥落しているが貼付。	底部外面に 「宅」の墨書
第 177図 32 P.L.129	須恵器 椀	甕・埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	クロコ整形、回転方向は不明。	口縁部外面 逆位に「王代」の墨書
第 177図 33 P.L.129	須恵器 椀	埋没土 1/3	①15.6 ②8.4③8.6 ④ 4.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 177図 34 P.L.129	須恵器 杯	16.8cm 底部	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 177図 35 P.L.129	須恵器 椀	埋土・掘方 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	クロコ整形、回転方向は不明。	
第 178図 36 P.L.129	須恵器 椀	埋土・掘方 1/5	① ②8.0③7.6 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③明赤褐色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 178図 37 P.L.130	須恵器 椀	埋土・掘方 1/2	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄褐色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は剥落しているが貼付。	
第 178図 38	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6③6.8 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 178図 39	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6③6.6 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 178図 40	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6③6.2 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 178図 41	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.8③6.8 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。 高台は貼付。	
第 178図 42 P.L.130	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0③7.6 ④	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	クロコ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	

探検番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 178図 43 P.L.130	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.0③5.8 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 178図 44	須恵器 椀	一括 底部片	① ②7.6③8.0 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 45	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0③7.0 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 46 P.L.130	須恵器 椀	電 底部片	① ②6.0③6.2 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 47	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.8③7.5 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 48	須恵器 椀	埋没土 体部下半片	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り、高台は貼付であるが剥落している。	
第 178図 49	須恵器 椀	電・電磁方 底部片	① ②6.0③6.4 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 178図 50	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②7.0③6.8 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 51	須恵器 椀	電・埋没土 底部	① ②7.6③6.4 ③	①細砂粒 ②還元焙焼成 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 52	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②8.2③7.6 ③	①細砂粒 ②還元焙焼成 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 178図 53	須恵器 椀	6.5cm 底部	① ②7.8③7.8 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179図 54 P.L.130	須恵器 椀	7.6cm 底部	① ②6.8③7.2 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179図 55	須恵器 椀	5.0cm 底部片	① ② 6.6 ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付であるが剥落している。	
第 179図 56 P.L.130	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②6.2③6.8 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179図 57 P.L.130	須恵器 椀	埋没土 底部	① ②7.2③7.4 ③	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179図 58 P.L.130	須恵器 椀	埋没土 1/8	①14.4 ②8.2③8.2 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焙 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の切り放し技法は不明、高台は貼付。	
第 179図 59 P.L.130	須恵器 皿	埋没土 1/6	①13.6 ②6.0③5.8 ③ 2.9	①細砂粒 ②還元焙 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179図 60 P.L.130	須恵器 皿	-18.7cm 口縁部の一 部を欠	①13.4 ②7.0③7.0 ③ 2.5	①細砂粒 ②還元焙 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 179図 61 P.L.130	灰熱陶器 椀	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①緻密 ②還元焙 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。蓋軸筋は内面口縁部上平、施軸方法は不明。胎質はやや透明感のある緑灰色。	

押出番号 図版番号	模 型 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 179図 62 P.L.130	灰釉陶器 碗	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①緻密 ②還元焰織密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部下位は回転ヘラ削り。施釉方法はハケ塗りか、釉調はやや透明感のある緑灰色。	
第 179図 63 P.L.130	灰釉陶器 碗	埋没土 口縁部片	①16.2 ② ③	①緻密 ②還元焰織密 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法はハケ塗り、釉調は透明感のない灰色。	
第 179図 64 P.L.130	灰釉陶器 碗	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①緻密 ②還元焰織密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉範囲は内面口縁部、施釉方法は不明。釉調は透明感のある緑灰色。	
第 179図 65 P.L.130	灰釉陶器 碗	埋没土 口縁部小片	①14.4 ② ③	①緻密 ②還元焰織密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉範囲は内外面、施釉方法は不明。釉調はやや透明感のある灰色。	
第 179図 66 P.L.130	灰釉陶器 長頸甕	床面密着 胴部片	胴部径17.2 ① ② ③	①緻密 ②還元焰織密 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下半は回転ヘラ削り。施釉方法は不明。釉調は透明感のある緑灰色。	
第 179図 67	土師器 甕	竈・埋没土 口縁部～胴 部上位片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 179図 68 P.L.130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部に輪痕が残る。口唇部に凹線が1条走る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 179図 69	陶器 甕類	埋没土 把手片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焙きみ ③にぶい褐色	表面はヘラナデ。	
第 179図 70 P.L.130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 179図 71 P.L.130	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 72	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 73	土師器 甕	12.0cm 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデであるが中段に無調整部分が残る。胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 74	土師器 甕	竈削り方 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はハケ目。	
第 180図 75	土師器 甕	竈 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 76	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①22.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁。口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はハケ目。	
第 180図 77	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	「コ」の字状口縁。口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 78 P.L.130	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	「コ」の字状口縁。口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 79	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 180図 80	土師器 甕	埋土・掘方 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁。口縁部から頸部は横ナデであるが中段に無調整部分が残る。胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	電彫り方と 接合

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第180図 81	土師器 壺	埋土・掘方 口縁部～胴 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁部。口縁部に輪痕が残る。口 縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ 削り。内面胴部はハケ目。	
第180図 82 P.L.130	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削りか。	
第180図 83 P.L.130	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削りか。	
第180図 84 P.L.130	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削りか。内面胴部はヘラ ナデ。	
第181図 85 P.L.131	土師器 壺	掘り方埋土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	「コ」の字状口縁部。口縁部に輪痕が残る。口 縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ 削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 86 P.L.131	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③淡赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第181図 87 P.L.131	土師器 壺	9.8cm 口縁部～胴 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	「コ」の字状口縁部。口縁部から頸部は横ナデ、 胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナ デ。	
第181図 88	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	胴部下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナ デ。	
第181図 89 P.L.131	土師器 壺	埋没土 胴部下片	① ②4.8 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下片は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナ デ。	
第181図 90	土師器 壺	1.6cm 胴部下位片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部下位は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。	
第181図 91	土師器？ 瓶	埋没土 胴部下位片	① ②5.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	口縁部整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向 のヘラ削り。底部はヘラ削りか。	
第181図 92	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色	胴部下位は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラ ナデ。	
第181図 93	須恵器 壺	床面密着 胴部下位片	① ②15.0 ③	①細砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	口縁部整形、回転方向は不明。胴部は回転ヘラ削 り。	
第181図 94 P.L.131	須恵器 壺	埋土・掘方 胴部下片	① ② ③	①粗砂粒 ②やや酸化焙 ③暗赤褐色	口縁部整形、回転方向は不明。胴部下位は部分的 ヘラナデ。内面はヘラナデ。	
第181図 95	須恵器 壺	埋没土 胴部下位片	① ②22.0 ③	①粗砂粒 ②還元焙 ③暗灰色	口縁部整形、回転方向は不明。胴部は内外面とも ヘラナデ。	
第181図 96	須恵器 壺	埋没土 胴部下位片	① ②14.0 ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③にぶい橙色	口縁部整形、回転方向は不明。胴部下位はヘラ削 り。内面胴部はヘラナデ。	
第182図 97	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焙 ③灰黄色	口縁部整形、回転方向は不明。胴は貼付、胴部は 縦方向のヘラ削りか。	
第182図 98	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焙 ③灰褐色	口縁部整形、回転方向は不明。胴は貼付、胴部は 縦方向のヘラ削り。	
第182図 99 P.L.131	須恵器 羽釜	埋没土 胴部上位片	①25.2 ② ③	①粗砂粒 ②還元焙 ③暗灰色	口縁部整形、回転方向は不明。胴は貼付、胴部は 縦方向のヘラ削りか。内面胴部はヘラナデ。	内面灰白色

邦国番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 182図 100	須恵器 羽蓋	床面密着 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②やや酸化焰 ③にぶい黄褐色	クロロ整形、回転方向は不明。胴部は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 182図 101	須恵器 羽蓋	電 胴部下位片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	クロロ整形、回転方向は不明。胴部下位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 182図 102 P L.131	須恵器 羽蓋	埋没土 胴部下位片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	クロロ整形、回転方向は不明。胴部下位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 182図 103 P L.131	須恵器 椀	埋没土 面片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロロ整形、回転方向は不明。表面は刷り磨かれている。内面に朱塵が付着。	
第 182図 104	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ②10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部はヘラ削り。	
第 182図 105 P L.131	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② 7.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。	
第 182図 106 P L.131	土師器 盤	埋没土 1/6	①18.0 ②17.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデで、下位は無調整部分が僅かに残る。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 182図 107 P L.131	土師器 杯	埋没土 1/8	①16.2 ②10.0 ③ 3.3	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 182図 108 P L.131	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 182図 109	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 182図 110	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 183図 111 P L.131	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 183図 112	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 183図 113	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下平と底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。	
第 183図 114	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	底部はヘラ削り。内面に螺旋状暗文。	
第 183図 115	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横方向のヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 183図 116	土師器 杯	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下平と底部はヘラ削り。内面口縁部に花卉状暗文。	
第 183図 117	須恵器 蓋	埋没土 天井部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロロ整形、回転は右回りか。天井部は回転ヘラ削り、横は集状で貼付。	
第 183図 118 P L.131	須恵器 杯	埋没土 1/2	①16.0 ② 9.8 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	クロロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り、口縁部下位も回転ヘラ削り。	

神宮番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 183回 119 P.L.131	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.4 ② 7.2 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	
第 183回 120 P.L.131	須恵器 椀	埋没土 1/4	①13.4 ②9.8③8.8 ③ 4.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は削り出し。	
第 183回 121 P.L.131	須恵器 杯	埋没土 1/2	①12.8 ② 9.6 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り。	
第 183回 122 P.L.131	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 183回 123 P.L.131	須恵器 長段壺	埋没土 頸部片	頸部径6.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部に凹縁が2条通る。	
第 183回 124 P.L.132	須恵器 壺	掘り方埋土 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部下に貼付された凸帯が1条通る。	内面灰白色
第 183回 125 P.L.132	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部下に貼付された凸帯が1条通る。	
第 183回 126	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1条通り、口縁部に放射状(単位6)が施文。	
第 183回 127	須恵器 高杯	埋没土 底部～胴部 片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。杯部と胴部は接合。	
第 183回 128 P.L.132	須恵器 盤	甕掘り方 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部外面は不定方向のヘラ削り、内面はカキ目。	
第 184回 129 P.L.132	土製品 藤羽口	8.6cm 1/2	外径7.5 孔径2.7 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解がの内に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	
第 184回 130 P.L.132	土製品 藤羽口	埋没土 先端部片	外径7.0 孔径2.5 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解がの内に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	
第 184回 131 P.L.132	土製品 藤羽口	2.5cm 1/2	外径9.2 孔径2.6 ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	外面はヘラ削り。先端部の溶解がの内に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	
第 184回 132 P.L.132	土製品 藤羽口	埋没土 先端部片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	外面はヘラ削り。先端部の溶解がの内に接する部分は紫赤色のアメ状に溶解する。	
神宮番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第184回133 P.L.132	石製品 磨製管材	9.6cm	①10.7 ③4.1	②8.3 ④409	未固結凝灰岩	一面残存のみ。面が荒れているが面取りしていると思われる。
第184回134 P.L.132	石製品 敲石?	床面密着	①17.5 ③5.3	②16.6 ④2000	石英閃緑岩	表の一部と裏に使用の痕跡がある。上端に敲打痕があり、一部剥離している。左側下端に赤く焼けた箇所がある。
第184回135 P.L.132	石製品 敲石	床面密着	①18.0 ③4.0	②11.6 ④1350	粗粒安山岩	上端に敲打痕が認められる。両側面が打ち欠かれている。
第185回136 P.L.132	石製品 砥石	5.0cm	①15.9 ③4.8	②5.5 ④650	凝灰石	小口を中心に面が荒れている。表裏左右を研ぎ面としている。表側に3条の条線がある。
第185回137 P.L.132	石製品 敲石	~13.0cm	①13.6 ③6.7	②9.7 ④1050	凝灰岩	左側面一部欠損。下端に敲打痕がある。
第185回138 P.L.132	石製品 磨製管材	2.0cm	①11.4 ③7.7	②10.9 ④1000	未固結凝灰岩 (安山岩質)	裏～側面の一部残存。面の荒れが著しい。

採回番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴	そ の 他	備 考
第185図139 P.L.132	石製品 杵構築材?	床面密着	①19.1 ②8.3	③14.2 ④2100	粗粒安山岩	左側欠損。2号研の構築材か。		
第185図140 P.L.132	石製品 電構築材	4.0cm	①12.0 ②6.3	③7.5 ④500	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表~側面の一部残存。面の荒れが著しいが削りが僅かに残る。		
第185図141 P.L.133	石製品 電構築材	3.6cm	①16.6 ②7.6	③9.9 ④500	未固結凝灰岩 (安山岩質)	一角のみ残存。面が荒れるが深い削りが表・側面・小口に僅かに残る。		
第185図142 P.L.133	石製品 電構築材?	5.6cm	①16.8 ②7.6	③11.4 ④400	角閃石安山岩	鋭利な工具による削りがみられる。		
第186図143 P.L.133	石製品 電構築材	27.5cm	①12.8 ②8.4	③11.0 ④1060	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表~側面の一部残存。面は荒れているが片面に削りの痕跡が認められる。		
第186図144 P.L.133	石製品 電構築材	18.0cm	①9.0 ②6.4	③9.7 ④470	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表~側面の一部残存。面が荒れるが表に削りが残る。割れ口に黒煤の付着。		
第186図145 P.L.133	石製品 電構築材	床面密着	①8.3 ②6.3	③7.9 ④300	未固結凝灰岩	表~側面の一部残存。面が著しく荒れている。		
第186図146 P.L.133	石製品 電構築材	28.0cm	①24.5 ②13.1	③16.1 ④5700	火山礫質凝灰岩	両端欠損。全体的に面が荒れる。表、両側面は面取りしているが裏面は割れた状態をなす。当初の姿が半截された割れ口を呈するが不詳。表から側面の一部、裏面に熱焼の痕跡がみえる(弱い黒煤)。		
第186図147 P.L.133	石製品 電構築材	4.8cm	①22.9 ②14.5	③19.4 ④7300	火山礫質凝灰岩	片端欠損。全体的に面が荒れている。側面及び小口に削りの痕跡が残る。片面のみ赤みを帯び、片面は灰白色を呈す。		
第186図148 P.L.133	石製品 電構築材	埋没土	①7.0 ②5.4	③5.0 ④100	未固結凝灰岩	一側縁のみ残る。面が著しく荒れている。		
第187図149 P.L.133	石製品 角柱状品	-13.0cm	①15.6 ②8.1	③10.2 ④1400	火山礫質凝灰岩	不正多角形柱状を呈し、下端欠損。西面及び小口に削りを施す。削り単位面は平坦ではなくやや内湾している。		
第187図150 P.L.133	石製品 電構築材	4.5cm	①10.4 ②5.4	③9.0 ④400	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表~側面の一部残存。面が荒れるが削りの痕跡が残る。		
第187図151 P.L.133	石製品 台石?	2.6cm	①26.4 ②8.9	③17.9 ④5000	粗粒安山岩	約1/4欠損。一部側縁に敲打痕がある。表に白色付着物があり黒く焦げている部分のみみられる。台石か?		
第188図152 P.L.133	石製品 電構築材	埋没土	①29.3 ②11.2	③19.9 ④6900	火山礫質凝灰岩	片端欠損。面の荒れが著しく削りの痕跡は一部のみ残存する。中央部分を除いて両端小口に黒煤が付着する。未実測の面は黒煤は両端に僅かにみられるのみ。		
第188図153 P.L.134	石製品 電構築材	30.6cm	①22.3 ②9.2	③18.7 ④2300	未固結凝灰岩	両端欠損。全体的に面が荒れるが、特に側面に削りの痕跡が残る。		
第188図154 P.L.134	石製品 電構築材	-12.5~9	①24.8 ②8.3	③8.5 ④1900	未固結凝灰岩 (安山岩質)	表~側面の一部残存。全体的に面が荒れる。		
第189図155 P.L.134	石製品 電構築材	17.5cm	①48.9 ②14.4	③21.7 ④14100	火山礫質凝灰岩	3片接合。ほぼ完成。片端断面は三角形に近い。表裏左右側面に削りの痕跡が残る。両小口は面が荒れて削り痕がみられないが面取りしていると思われる。裏面では削りの痕跡は一部のみみられる。両端のみ色調が赤みを帯びない。削りは曲面を呈す。	電天井、右壁に使用	
第190図156 P.L.135	石製品 電構築材	20.5cm	①54.6 ②15.0	③21.1 ④6700	土塊?	片端欠損。残存部と表側面は面が削れるが埋没時には現状に近い状態と推定できる。調査時はほぼ完成だったがその後崩壊する。表は削りが良く残る。削り単位面は曲面をなす。側面及び裏面は面が荒れており、裏面が著しい。裏面の一部に黒煤が付着する。表一面に弱く煤が付着する。		
採回番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第190図157 P.L.135	鉄器 鉄鏝	埋没土	①残5.5 ②0.3・0.6	③3.0・0.9 ④12.25		鏝身一部と茎尻を欠損、錆ぶれがあるが面の状態は良い。間は残る。		



棟号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第190図158 P.L.135	鉄器 板状品	埋没土	①残2.3 ②0.4	③残2.0 ④3.54	上端、左端欠損。全体にカーブをなす。 左端欠損の一部には木質あり。	未製品?
第190図159 P.L.135	鉄器 鉄線	埋没土	①残11.4 ③0.6・0.65・0.3	②2.3・0.7・0.3 ④12.02	床尻と腰身の一部欠損。間は立体的に作り 基と段差を有する。	
第190図160 P.L.135	鉄器 板状品	埋没土	①残7.0 ③0.5	②3.0 ④15.96	右端欠損。錆ぶくれがあるが面の状態は良 い。	
第190図161 P.L.135	鉄器 板状品	埋没土	①残3.9 ③0.3	②3.0 ④15.10	四周は埋没時の様相を示す。錆ぶくれは若 干あるが地金はしっかりする。	
第191図162 P.L.135	鉄器 角釘	埋没土	①3.7 ③0.5	②0.7 ④5.96	下端欠損。頭が鋭角形に広がる。重くしっ かりとした作り。	
第191図163 P.L.135	鉄器 棒状品	埋没土	①5.3 ③0.5・0.4	②0.8 ④4.49	下端欠損。上端は扁平となる。	
第191図164 P.L.135	鉄器 棒状品	埋没土	①9.9 ③0.7	②1.3 ④41.14	ほぼ完形であるが、錆による割傷のため細 くなっている。上端は折曲げて肥厚させる。	
第191図165 P.L.135	鉄器 棒状品	埋没土	①残7.1 ③0.5	②0.5 ④4.18	錆による割傷で旧状を留める面は少ない。 断面は丸みとなるか?	
第191図166 P.L.135	鉄器 棒状品	埋没土	①残4.7 ③0.8・0.5	②0.6・1.0 ④8.06	両端欠損。中位から幅を増し、かつ錆によ る割傷で扁平化している。	
第191図167 P.L.135	鉄器 棒状品	掘り方 埋没土	①残4.1 ③0.4	②0.5 ④2.44	上端欠損。全体に緩く屈曲しねじれが加わ る。中位に開状の段差あり。	
第191図168 P.L.135	鉄器 角釘	埋没土	①4.9 ③0.5	②0.6 ④2.33	両端欠損。上端は頭が欠損し、僅かに幅の 広がりが残る。	
第191図169 P.L.135	鉄器 角釘	掘り方 埋没土	①残5.2 ③0.7	②0.7 ④5.93	両端欠損。上端は頭に向かうラインが残る。 頭は全面に大きく張り出すと思われる。	
第191図170 P.L.135	鉄器 帯状品	掘り方 埋没土	①残7.3 ③0.3	②0.8 ④3.63	両端欠損。紐身だけが刃部あり。	刀子?
第191図171 P.L.135	鉄器 角釘	埋没土	①6.3 ③0.4	②0.4 ④4.20	下端欠損のみ。ほぼ完形。僅かに反りを持 つ。頭は強き張り出す。面の状態は良い。	
第191図172 P.L.135	鉄器 火打金	埋没土	①残1.2 ③0.4	②残4.15 本体0.9 ④2.66	左端、上端欠損。	
第191図173 P.L.138	鉄器 鉄鉄?	埋没土	①2.8 ③0.7	②1.5 ④4.78	完形。四周とも良く残る。	
第191図174 P.L.138	鉄器 板状品	埋没土	①残4.65 ③0.2	②残1.9 ④5.52	一部の端部を残すのみ。左側は屈曲し始め る。	
第191図175 P.L.138	鉄器 棒状品	埋没土	①残4.5 ③0.45	②0.8 ④5.87	両端欠損。下端にいくほど幅、厚みを減じ る。	
第191図176 P.L.136	鉄器 鋸り金具?	埋没土	①板部2.6 鋸3.1 ③板部2.0 鋸0.6	②板部2.8 鋸0.6 ④14.96	鋸先端及び表板の一部が欠損。板は矩形 ～菱形を呈し対角が緩く屈曲する。鋸は裏 板から1.45cm足が出る。	
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(34215)	竈掘り方		角片	★21.0×10.6	半生。同一の角が剛硬したもの。	
(34216)	床上電西そば	ウマ	下顎白歯	★31.0×10.4	4片。	
(34217)	竈				焼骨。微細骨片1片。	
(34218)	掘り方埋土			★8.9×7.4	焼骨。微細骨片5片。	

### 35号住居

棟号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②陶色③色調	製作技法等の特徴	備考
第195図 1 P.L.136	須恵器 椀	埋没土 1/8	①12.0 ② 4.3 ③ 4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転未切り。	
第195図 2 P.L.136	須恵器 椀	竈・埋没土 1/8	①14.0 ② 4.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法 は高台粘付時のナデのため不明。	

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 195図 3 P.L.136	須恵器 碗	床面密着 1/8	① ②7.2③7.4 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り直し技法は高台貼付時のナデのため不明。		
第 195図 4 P.L.136	須恵器 碗	34.0cm 底部片	① ②7.0③8.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。		
第 195図 5 P.L.136	土師器 壺	12.0cm 口縁部～胴 部上位小片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面は頸部から胴部上位にかけて横方向のハケ目。		
第 195図 6 P.L.136	土師器 壺	甍・埋没土 口縁部小片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③灰黄色	口縁部は横ナデ、胴部上位はヘラ削りか。		
第 195図 7 P.L.136	須恵器 羽蓋	埋没土 口縁部小片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。蓋は貼付。		
第 195図 8 P.L.136	須恵器 羽蓋	埋没土 口縁部小片	①19.5 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。蓋は貼付。胴下部に胴部へ削り削りの痕のへら痕が見られる。		
第 195図 9 P.L.136	須恵器 羽蓋	5.0cm 口縁部小片	①20.0 ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。蓋は貼付。		
第 195図 10 P.L.136	須恵器 羽蓋	埋没土 口縁部下半 ～胴部片	① ② ③	①粗砂粒 ②酸化焰 ③浅黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。蓋は貼付。胴部はヘラ削りであるが、摩耗のため単位・方向等は不明。		
第 195図 11 P.L.136	須恵器 羽蓋	甍 底部小片	① ② 8.4 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい褐色	胴部最下位は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。		
押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	遺存状態及び特徴	備考	
第 195図12 P.L.136	鉄器 刀子	埋没土	①98.8 ②30.3	③1.3 ④8.03	茎尻、切先欠損。棟間が良く残り、刃間も僅かに残り。刃部は切先に向かって急激に細を減ずる。		
押出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備考
第 195図13 P.L.136	石製品 竈構築材	5.5cm	①12.8 ②7.6	③8.0 ④550	未因結核灰岩 (安山岩質)	甍へ両側面の一部残存。上端は小口の可能性があるが面が死んで不詳。被熱する。	

## 62号住居

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 197図 1 P.L.136	土師器 杯	掘り方埋土 小片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 197図 2 P.L.136	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部小片	①11.4 ②径10.6 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 197図 3 P.L.136	須恵器 碗	掘り方埋土 1/5	①13.8 ②6.0③6.0 ③ 5.3	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 197図 4 P.L.136	土師器 壺	掘り方埋土 口縁部～胴 部中位片	①15.6 ②胴部最大径 17.6	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデであるが、頸部に無調整が残る。胴部は上位が横方向、中位が縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

## 36号住居

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第201図 P.L.137 1	須恵器 蓋	埋没土 口縁部小片	①18.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰色	ワロロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹縁が1条ある。天井部の中央部は回転ヘラ削り。	
第201図 2	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ワロロ整形、回転方向は不明。外面に自然輪が付着。	
第201図 3	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ②6.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ワロロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第201図 4	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ②6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ワロロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第201図 5	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ②6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワロロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第201図 6	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ②8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワロロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第201図 P.L.137 7	須恵器 杯	10.0cm 底部	① ②7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ワロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	内面褐灰色
第201図 P.L.137 8	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②6.6③7.0 ③	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワロロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。高台は貼付。	
第201図 9	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ワロロ整形、回転方向は不明。	
第201図 P.L.137 10	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①17.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③灰色	ワロロ整形、回転方向は不明。	内面褐灰色
第201図 P.L.137 11	須恵器 椀	7.0cm 底部～体部 下半片	① ②10.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ワロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りで一部にナデが見られる。	
第201図 P.L.137 12	須恵器 椀	床面密着 1/4	① ②16.2 ③15.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ワロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、体部下位も回転ヘラ削り、高台は削り出し。	
第201図 P.L.137 13	黒色土器 杯	3.0cm 1/2	①12.6 ②5.6 ③3.5	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい褐色	ワロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。内面黒色処理。内面は口縁部・底部ともヘラ研磨。	底部外面に「+」の墨書
第202図 P.L.137 14	土師器 壺	床面密着 口縁部～胴 部中位片	①12.4 ②良好 ③赤褐色	①微砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半は横方向、下半は縦方向のヘラ削り。	
第202図 15	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。	
第202図 P.L.137 16	土師器 壺	16.5cm 口縁部～胴 部上位片	①20.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪痕痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第202図 P.L.137 17	須恵器 羽蓋	13.0～43.0 口縁部～胴 部	①20.2 ②23.8 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	ワロロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。胴部は縦方向のヘラ削り。	
第202図 18	土師器 壺	埋没土 底部片	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。	内面にぶい赤褐色
第202図 P.L.137 19	土師器 台付壺	埋没土 底部片	① ②3.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	胴部下位は横方向のヘラ削り。	

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 202図 20 P.L.137	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	①17.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ワコロ整形、回転方向は不明。		
第 202図 21 P.L.137	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワコロ整形、回転方向は不明。口唇部に凹縁が1条走る。		
第 202図 22 P.L.137	須恵器 鉢	20.0cm 口縁部片	①25.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰やや軟質 ③灰白色	ワコロ整形、回転方向は不明。頸部にカキ目状の整形痕が残る。		
第 202図 23 P.L.137	須恵器 長頸壺	埋没土 脚部片	① ④12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ワコロ整形、回転方向は不明。		
第 202図 24	須恵器 壺	埋没土 底部片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	底部は不定方向のヘラ削り。	内面によい 褐色	
第 203図 27 P.L.137	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①10.0 横径8.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。		
第 203図 28 P.L.137	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.4 横径8.2 ③	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削りであるが、単位・方向などは不明。		
第 203図 29 P.L.137	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.8 ② 9.2 ③ 2.7	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ワコロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。内面の口縁部中に重ね焼き痕、口唇部を除き自然釉が着着。		
第 203図 30 P.L.137	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③褐色	外面は横方向のヘラ研削。内面は横な放射状用文。		
押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	残 存 状 態 及 び 特 徴	備考	
第 202図25 P.L.137	鉄器 板状品	埋没土	①2.3 ③0.1	②1.3 ④0.79		四隅欠損。表面に大きな凹凸があり、裏面には細かな凹凸がある。全体的に上位が内湾している。	未製品?
押印番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備考	
第 202図26 P.L.138	石製品 砥石	23.5cm	①16.7 ④4.1	②10.4 ③1000	粗粒安山岩	下端欠損。表面左右の四隅を研ぎ面として使用している。右側面に4条の刃物条線がある。	

### 37号住居

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 205図 1 P.L.138	須恵器 杯蓋	電 口縁部片	①16.2 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワコロ整形、回転方向は不明。	
第 205図 2 P.L.138	須恵器 杯	17.5cm 1/6	①13.2 ② 5.6 ③ 4.5	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワコロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り、体部下位に不定方向のナデ。	肩部より
第 205図 3 P.L.138	須恵器 杯	埋没土 底部～体部 片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワコロ整形、回転方向は不明。底部切り放し技法は不明。	
第 205図 4 P.L.138	須恵器 杯	22.0cm 2/3	①14.7 ② 6.5 ③ 4.8	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ワコロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 205図 5	須恵器 碗	埋没土 底部～体部 片	① ② 6.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③よい褐色	ワコロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	

採掘番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 205図 6 P.L.138	須恵器 杯	20.5cm 底部～体部 片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転余切り。	
第 206図 7 P.L.138	須恵器 椀	-11.0cm 底部片	① ②7.4③7.4 ⑤	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転余切り、高台は貼付。	
第 206図 8	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0③7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③浅黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部切り放し技法は高台貼付時のナデのため不明。	
第 206図 9 P.L.138	須恵器 椀	56.0cm 底部～体部 下位片	① ②7.2③6.8 ⑤	①細砂粒 ②還元焰 ③黒色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転余切り、高台は貼付。	
第 206図 10 P.L.138	灰輪陶器 椀	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。施釉方法は不明、釉調は不透明な灰色。	
第 206図 11 P.L.138	灰輪陶器 椀	埋没土 体部片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。体部下位は回転ヘラ削り、高台は貼付。施釉方法は不明、釉調は不透明なやや緑灰色。	
第 206図 12 P.L.138	土師器 壺	18.0～20.5 口縁部～割 部上位片	①19.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は縦な横ナデで中程に凹線が1条走る。胴部上位は横方向のヘラ削り。内面は横方向のハケ目(単位不明)。	煙道部より
第 206図 13 P.L.138	土師器 壺	埋没土 口縁部～割 部上位片	①19.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪襷痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面は横方向のハケ目。	
第 206図 14 P.L.138	土師器 壺	埋土・掘方 口縁部～割 部中位片	①21.0 ②最大径 22.0	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半が横方向、下半は縦方向のヘラ削り。内面は頸部に横方向のハケ目、胴部はヘラナデ。	
第 206図 15 P.L.138	土師器 壺	26.0～26.5 口縁部～割 部上位片	①18.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	頸部に凹線が1条走る。口縁部は横ナデ、頸部から胴部上位は無調整、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	煙道部より
第 206図 16 P.L.138	土師器 壺	23.5cm 口縁部～割 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口唇部に凹線が1条走る。口縁部は横ナデ、頸部は無調整、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	煙道部より
第 206図 17 P.L.138	須恵器 表	24.0cm 底部	① ② 3.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 206図 18 P.L.138	須恵器 羽釜	-13～56.0 口縁部～割 部上位片	①20.0 ②径26.0 ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。背は貼付、胴部は底部方向からのヘラ削り、一部背まで塗している。	
第 206図 19 P.L.139	須恵器 羽釜	埋没土 底部～割部 下位片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③明褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は最下位が横方向のヘラ削り、下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	内面灰白色
第 207図 22 P.L.139	須恵器 杯	-6.5cm 1/3	①13.8 ②10.0 ③ 2.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
採掘番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 206図20 P.L.139	石製品 砥石	20.0cm	①5.0 ②1.7 ③100	砥沢石	両端欠損。研ぎ面は表裏左右を使用。両側面に糸線が認められる。	
採掘番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 207図21 P.L.139	鉄器 角釘	44.0cm	①残10.6 ③0.5	②0.6 ④10.94	上端欠損。全体にねじれがみられる。中位から幅・厚みを減じる。	

## 38号住居

棟目番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 212図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.2 口径13.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 212図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.6 口径10.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 212図 3 P.L.139	土師器 杯	埋没土 1/8	①11.6 口径11.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 212図 4 P.L.139	土師器 杯	埋没土 3/4	①10.8 口径10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 5 P.L.139	土師器 杯	31.5cm 完形	①10.8 口径10.8 ③ 3.8	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 6 P.L.139	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.2 口径11.0 ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 7	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 212図 8	土師器 杯	埋没土 1/6	①14.4 口径14.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削りであるが器面の剥離のため単位・方向は不明。	
第 212図 9 P.L.139	土師器 杯	埋没土 1/3	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	
第 212図 11 P.L.139	土師器 杯	埋没土 1/5	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が横方向、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 12 P.L.139	土師器 杯	埋没土 1/4	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 13 P.L.139	土師器 杯	埋没土 1/2	①14.4 ② ③ 4.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位・下位は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 212図 14 P.L.139	須恵器 杯蓋	19.7cm ほぼ完形	①11.6 ② ③ 3.0	①微砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は不定方向のヘラ削り。外面に自然釉が付着。	
第 212図 15 P.L.139	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰がみ ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削りか。	
第 212図 16 P.L.139	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 212図 17 P.L.139	土師器 甕	11.4cm 胴部上半片	① ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	火床面より
第 212図 18 P.L.139	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①10.4 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 212図 19 P.L.139	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

押印番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 213図 20 P.L.140	土師器 罍	埋没土 口縁部へ胴 部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は斜め方向の ヘラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 213図 21 P.L.140	土師器 罍	埋没土 口縁部へ胴 部中位片	①24.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は縦方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナゲ。	
第 213図 22 P.L.140	土師器 罍	17.0~24.5 口縁部へ胴 部上位片	①22.0 ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は縦方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナゲ。	
第 213図 23 P.L.140	土師器 罍	0~30.5 胴部の一部 を欠	①21.8 ② 5.6 ③42.3	①細砂粒 ②良好 ③浅黄色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は縦方向のヘラ削り。 底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラ ナゲ。	
第 213図 24 P.L.140	土師器 罍	66.5cm 胴部下位	① ② 7.2 ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	胴部は斜め方向、底部は不定方向のヘラ削り。内 面はヘラナゲ。	
第 214図 25 P.L.140	土師器 罍	60.5~68.0 1/2 胴部径30.2	①22.6 ② ③35.0	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部は上位と下位が横 方向のヘラ削り。中位は斜め方向のヘラ削り。内 面胴部はヘラナゲ。	
第 214図 26 P.L.140	土師器 罍	49.5cm 胴部下位片	① ② 9.6 ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	内面に輪痕が残る。胴部はヘラ削り後縦方向の ヘラ研ぎ、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘ ラナゲ。	内面淡黄色
第 214図 27 P.L.140	土師器 罍	50.0cm 底部	① ② 9.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③浅黄褐色	胴部はヘラ削りであるが方向・単位は不詳明。内 面はヘラナゲ。	
第 214図 28 P.L.141	土師器 罍	埋没土 口縁部へ胴 部上位片	①23.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③浅黄褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は縦方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 214図 29 P.L.141	土師器 罍	埋没土 胴部下位片	① ② 5.8 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	内面に輪痕が残る。胴部は縦方向のヘラ削り後 縦方向の粗なヘラ研ぎ。内面はヘラナゲ。	
第 214図 30 P.L.141	土師器 罍	埋没土 胴部下位片	① ② 5.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③褐色	胴部は斜め方向のヘラ削り。底部の整形は不詳明。 内面はヘラナゲ。	内面にぶい 褐色
第 214図 31 P.L.141	土師器 罍	4.5cm 胴部下半片	① ② 3.0 ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナ ゲ。	火床面より
第 215図 32 P.L.141	土師器 罍	埋没土 胴部上半片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。底部はヘラ削り。 内面胴部はヘラナゲ。	
第 215図 33 P.L.141	須恵器 罍	埋没土 口縁部片	① ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部は2段の波状文(単位3)、胴部は平行引き。	
第 215図 35 P.L.141	土製品 土玉	埋没土 完形	① ② 径1.2 ③ 高1.1	①細砂粒 ②良好 ③褐色	面が荒れるがナゲか。孔は両側からの刺突により 空けられる。	
第 215図 37 P.L.141	須恵器 杯	埋没土 1/2	①13.0 ② 7.0 ③ 4.0	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	体部外面に 黒痕
第 215図 38 P.L.141	須恵器 椀	埋没土 2/3	①14.0 ②6.2③6.4 ④6.1	①粗砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、 高台は貼付。	体部外面定 位に「玉」の 黒書
第 215図 39 P.L.141	灰輪陶器 椀	埋没土 底部小片	① ②7.0③6.8 ④	①織布 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナゲ、 高台は貼付。施釉方法は不明。	
押印番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 215図34 P.L.141	石製品 台石?	床面著書	①16.7 ③4.4	②15.0 ④1950	粗粒安山岩	下層及び裏面を欠損。表に使用の痕跡が認 められる。下方先端に敲打痕がみられる。

詳細番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み ③④	⑤最大幅 ⑥重量	残存状態及び特徴	備考
第 215図36 P.L.141	銅製品 鉄	埋没土	①径2.4 ②0.1	③ ④1.86	1/2欠損。□?□貫。残存部裏面に文様はみられない。	
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(38046)	-10.5cm				焼骨。超微細骨片10数片。	
PL141 40	6.0cm	シカ	角中第一枝分岐部	62.0×42.0		(38047)
(38048)	羅				焼骨?細骨片数片。	
(38049)					微細骨片多数。	
(38050)	-23.0cm				微細骨片多数。	
(38051)	-10.5cm				微細骨片多数。	
(38052)	羅		肋骨片	11.2×8.3	焼骨。	
(38053)	埋没土				焼骨。微細骨片5片。	
PL141 41		シカ	中肋骨近位骨端など	15.4	焼骨。(38054)	
(38055)	羅	シカカイノシシ	肋骨など	★18.7×12.2	焼骨。骨片3片。	
(38056)	埋没土	小へ中動物	大腿骨遠位部片		焼骨。骨片2片。分析№31	
(38057)	-26.0cm	シカ	角片	★19.6×18.2	細角片多数。	
(38058)	-26.0cm				細骨片多数。	

### 39号住居

詳細番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 216図 1 P.L.142	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③におい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部上位は横方向のヘラ削り。	
第 216図 2 P.L.142	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焼 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	

### 42号住居

詳細番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 221図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 横径11.2 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 2 P.L.142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 横径12.4 ③	①微砂粒 ②良好 ③におい褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 3 P.L.142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.4 横径14.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 4 P.L.142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 横径10.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 5 P.L.142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 横径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③におい褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 221図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.8 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	
第 221図 7 P.L.142	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位はヘラ削り。	
第 221図 8	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部はヘラ削り。	



採回番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考	
第 221図 9 P.L.142	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.0 ② ③3.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位が横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221図 10 P.L.142	土師器 杯	埋没土 底部片	① ②7.6 ③	①微砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。		
第 221図 11 P.L.142	土師器 杯	埋没土 底部片	①11.4 ② ③2.7	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221図 12 P.L.142	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.0 検径11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に接をもつ。口縁部は横ナデ、接は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221図 13 P.L.142	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 検径11.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に接をもつ。口縁部は横ナデ、接は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221図 14 P.L.142	土師器 杯	埋没土 3/4	①10.6 ② ③4.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位が無調整、下位から底部は不定方向のヘラ削り。		
第 221図 15 P.L.142	須恵器 蓋	埋没土 1/8	①13.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は端部を除いて回転ヘラ削り。		
第 221図 16 P.L.142	土師器 杯	埋没土 1/6	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。		
第 221図 17 P.L.142	須恵器 杯	埋没土 底部～口縁 部下位片	① ②9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ切り。		
第 221図 18 P.L.142	須恵器 杯	埋没土 底部	① ②7.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り後周辺部を回転ヘラ削り、口縁部下位にも1段の回転ヘラ削り。		
第 222図 19 P.L.142	須恵器 長頸壺	4.0cm 1/5	①6.8 ② ③	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接合は2段接合、口縁部に輪痕が残る。		
第 222図 20 P.L.142	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。		
第 222図 21 P.L.142	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①26.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削りであるが器面が新着しているため方向・単位は不鮮明。内面胴部はヘラナデ。		
第 222図 22 P.L.143	土師器 壺	電掘り方 口縁部～胴 部上位片	①18.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 222図 23 P.L.143	土師器 壺	20.0cm 底部	① ② ③	①粗砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	底部はヘラ削り。		
第 222図 24 P.L.143	土師器 壺	電掘り方 胴部下半片	① ②4.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	埋土と接合	
第 222図 25 P.L.143	須恵器 杯蓋	埋没土 天井部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は回転ヘラ削り。		
採回番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考	
第 222図26 P.L.143	石製品 磨石	埋没土	①11.3 ③3.9	②9.5 ④700	粗粒安山岩	表面に使用の痕跡があり裏面に著しい。鉄分の付着がみられる。	
第 222図27 P.L.143	石製品 蔵石	床面密着	①11.7 ③3.8	②9.8 ④600	粗粒安山岩	右側面の一部を欠損。両端に弱い敲打痕がある。表面に使用の痕跡がみられる。	

標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 222図28 P.L.143	鉄器 板状品	埋没土	①残4.3 ②0.3	③残6.3 ④16.56	二端部残存。傾い角をなす。	
第 222図29	鉄器 板状品	埋没土	①2.4 ③0.4	②3.1 ④8.56	両端欠損。表面に多くの気泡を含む。	スラグ? 未製品?
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(42032)	?		肋骨片	*10.2×7.6	肋骨。肋骨片2片。	

## 43号住居

標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 224図 1 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 口径11.6 ③	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。内面は横ナデと斜めのナデ。	
第 224図 2 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.2 口径11.0 ③	①凝砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 3 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 口径9.6 ③	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 4 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 口径9.0 ③	①凝砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部下に弱い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 5 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 口径10.6 ③	①凝砂粒 ②軟質 ③にぶい褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 6 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 口径11.4 ③	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 7 P.L.143	土師器 杯	埋没土 1/2	①12.8 口径10.8 ③3.5	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	内面は黒色結晶。口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面口縁部は横方向のヘラ磨き。	
第 224図 8 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 口径12.2 ③	①凝砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 9	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①凝砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半がヘラ削り。	
第 224図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①凝砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 224図 11 P.L.143	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①凝砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半がヘラ削り。内面に放射状暗文?	
第 224図 12 P.L.143	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①凝砂粒 ②還元相 ③灰色	ワコク壺形、回転方向は不明。口縁部に凹縁が1本ある。	
第 224図 13 P.L.143	土師器 短頸壺	24.0cm 1/4	① 7.6 胴部径9.2 ③	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部は横方向の細かいヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 14 P.L.143	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部上位片	①12.0 ② ③	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 15 P.L.144	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ② ③	①凝砂粒 ②良好 ③褐色	胴部下位は横方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 224図 16 P.L.144	土師器 壺	5.0cm 口縁部～胴部片	①10.6 胴部径16.4 ③	①凝砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 224図 17 P.L.144	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①18.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 18	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。 内面胴部はヘラナデ。	
第 224図 19 P.L.144	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転未切り。	
第 224図 20 P.L.144	須恵器 兵衛壺	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は回転ヘラ削り 後ヘラナデ、底部は1回のヘラ削り。	
押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 224921 P.L.144	鉄器 鏝先?	埋没土	①残6.7 ③0.5	②残2.4 ④15.03	一部のみ残存。端部はL字状に屈曲し、外 形も鋭いカーブを描く。	

#### 44号住居

押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 228図 1 P.L.144	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削りであるが単位・方向は不明。	44・45住居土
第 228図 2 P.L.144	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削りであるが単位・方向は不明。内面に放射状暗文。	
第 228図 3 P.L.144	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削りであるが単位・方向は不明。内面に放射状暗文。	
第 228図 4	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	底部はヘラ削り。内面に弧状暗文。	
第 228図 5	土師器 杯	埋没土 底部～口縁 部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明褐色	底部・口縁部下位ともヘラ削り。内面口縁部に放射状暗文。	
第 228図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 228図 7	土師器 杯?	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	底部はヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 228図 8	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面に放射状暗文。	
第 228図 9 P.L.144	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①10.8 ② 7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 228図 10 P.L.144	須恵器 盤	掘り方埋土 口縁部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部端部に凹線が1条走る。	
第 228図 11 P.L.144	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
第 228図 12 P.L.144	土師器 甕	埋没土 口縁部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

採掘番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 228図 13 P.L.144	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	胴部下半は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削りか。内面はヘラナデ。	
第 228図 14 P.L.144	須恵器 壺	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部と胴部の接合部に補強帯が通る。	
図版番号	出土位置	動物名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴	
PL144 15	甕	シカ	右下顎第1後臼歯、第2後臼歯、第3後臼歯		総数18片。	(44022)
(44023)	甕		四肢		*23.7×10.6 焼骨3片。	
PL144 16	27.5cm	シカ	左下顎第2後臼歯片、第3後臼歯		*25.8×11.8	(44024)

## 45号住居

採掘番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 230図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面に割敷斜状暗文。	
第 230図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部・底部ともヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に縦線状暗文。	
第 230図 3 P.L.145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部・底部ともヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に縦線状暗文。	
第 230図 4 P.L.145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面は放射状暗文。	
第 230図 5	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.4 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 230図 6 P.L.145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.6 横径10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に線をもち、口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 230図 7 P.L.145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①12.0 横径11.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に線をもち、口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 230図 8 P.L.145	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.6 ②10.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 230図 9 P.L.145	須恵器 杯蓋	埋没土 1/6	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中心部は回転ヘラ削り。	
第 230図 10 P.L.145	須恵器 杯蓋	掘り方埋土	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内外面に重ね焼き痕が見られる。	44・45住居 り方埋土
第 230図 11	須恵器 杯	掘り方 底部片	① ②11.3 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転糸切り。	
第 230図 12	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 230図 13 P.L.145	須恵器 杯	10.0cm 1/3	①12.0 ② 5.3 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切りか。	内面補灰色
第 230図 14 P.L.145	土師器 杯	6.5~7.5cm 3/4	①13.6 ② ③ 4.1	①微砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に縦線状暗文。	

押固番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 230図 15 P.L.145	須恵器 杯	埋没土 1/4	①15.4 ②10.0 ③ 3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、口縁部下位に1～2段の回転ヘラ削り。	
第 230図 16	土師器 壺	2.5cm 口縁部小片	①14.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部に輪横痕が残る。口縁部は横ナデ。	
第 230図 17	土師器 壺	埋没土 口縁部小片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。	
第 230図 18 P.L.145	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部上位片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部に輪横痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 230図 19 P.L.145	土師器 台付壺	-8.0cm 台部欠	①13.0 ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上半が横ナデ、下半は縦方向のヘラ削り。胴部と台部の接合部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	ビット底面から4cm
第 230図 20 P.L.145	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部上位片	①21.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 231図 21 P.L.145	土師器 壺	15.5cm 1/4	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部内面に輪横痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位は斜め方向のヘラ削り。胴部内面はヘラナデ。	
第 231図 22	土師器 杯	埋没土 1/8	① 径径9.7 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面底部に放射状のヘラ研磨。	
第 231図 23 P.L.145	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② 径径10.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③黒褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面底部に放射状のヘラ研磨。	44注と併合
第 231図 24	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 231図 25 P.L.145	須恵器 杯	埋没土 底面片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。	
押固番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	①最大長 ②厚み ③	④最大幅 ⑤重量 ⑥	残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 231図26 P.L.145	鉄器 内釘	埋没土	①4.7 ③0.5	②0.7・0.5 ④3.66	先端、頭の一部欠損。面が張り出す。L字に屈曲し、先端にいくほどねじれが加わる。	
第 231図27 P.L.145	鉄器 板状品	埋没土	①2.1 ③0.25	②1.6 ④1.19	四周欠損。一辺のごく一部のみ残る。	未製品?
第 231図28 P.L.145	鉄器 鏃	掘り方	①残7.3 ③0.3	②4.3 ④21.21	先端欠損。刃部は着柄部から上部へ弯曲する。鏃は直線的に伸びる。錆ぶれが多い。	
第 231図29 P.L.145	鉄器 棒状品	埋没土	①5.9 ③0.6・1.0	②1.3 ④12.76	両端欠損。上端ほど平坦。下端は幅を減じ厚みを増す。下端が折状になるか?	

#### 46号住居

押固番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 236図 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236図 2 P.L.146	土師器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236図 3 P.L.146	土師器 杯	掘り方埋土 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半が無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 236図 4 P.L.146	土師器 杯	甕 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236図 5 P.L.146	土師器 杯	掘り方塚土 1/3	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半が無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 236図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。内面に斜格子状噴文。	
第 236図 7 P.L.146	土師器 杯	掘り方塚土 1/5	①13.8 ② 8.6 ③ 3.6	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状噴文。	
第 236図 8 P.L.146	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状噴文。	
第 236図 9	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状噴文。	内面口縁部に線が付着
第 236図 10 P.L.146	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ② 6.4 ③ 3.5	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状噴文。	
第 236図 11 P.L.146	土師器 杯	埋没土 1/4	①14.4 ② 8.2 ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状噴文。	
第 236図 12 P.L.146	土師器 杯	5.0cm 1/4	①14.2 ② 7.4 ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状、底部に弧状噴文。	
第 236図 13 P.L.146	土師器 杯	9.5cm 外形	①12.2 ② 8.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状噴文。	
第 236図 14 P.L.146	土師器 杯	床間密着 1/8	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上位が横ナゲ、中位・下位は横方向のヘラ削り。内面はハケ目状工具によるナゲ後放射状噴文。	
第 236図 15 P.L.146	土師器 杯	埋没土 1/8	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状噴文。	
第 236図 16	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に緩な放射状噴文。	
第 236図 17 P.L.147	土師器 杯	7.0~16.0 1/2	①15.8 ②10.8 ③ 4.7	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状噴文。	
第 236図 18	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状噴文。	
第 236図 19	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 236図 20 P.L.147	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状噴文。	
第 236図 21	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状噴文。	
第 236図 22	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.6 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい黄褐色	底部はヘラ削り。	

邦国番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 237 図 23	土師器 皿	埋没土 口縁部片	①18.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。内面に放射状彫文。	
第 237 図 24 P.L.147	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は全面的に厚く自然釉が付着。	
第 237 図 25 P.L.147	須恵器 杯蓋	埋没土 1/2	①15.6 ②横径4.6 ③3.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。柄は環状で貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	38住と接合
第 237 図 26 P.L.147	須恵器 杯蓋	60.5cm 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。柄は形状は不明であるが貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第 237 図 27 P.L.147	須恵器 杯蓋	埋没土 1/4	①20.0 ②横径5.6 ③3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。柄は環状で貼付。天井部は中程まで回転ヘラ削り、周辺部はカキ目。	柄内部にヘラ掘き
第 237 図 28 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①12.6 ②8.0 ③4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 237 図 29	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 237 図 30 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ②8.0 ③3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。口唇部に自然釉が付着。	
第 237 図 31 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 1/6	①12.0 ②7.0 ③3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下部、底部は回転ヘラ削り。	
第 237 図 32 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.0 ②7.8 ③3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	
第 237 図 33 P.L.147	須恵器 杯	55.5cm 1/2	①12.0 ②7.5 ③3.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。口縁部に自然釉が付着。	
第 237 図 34 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①12.8 ②9.2 ③3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削りか。	
第 237 図 35 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ②8.8 ③3.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	内面灰白色
第 237 図 36 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 1/6	①14.0 ②8.4 ③3.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部最下部、底部は回転ヘラ削り。	
第 237 図 37 P.L.147	須恵器 杯	21.5cm 2/3	①13.4 ②8.4 ③4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後一部に薄い粘土板を貼付し回転ヘラ削り。	
第 237 図 38 P.L.147	須恵器 杯	25.5cm 1/3	①12.4 ②6.8 ③4.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。口縁部の一部に自然釉が付着。	
第 237 図 39 P.L.147	須恵器 杯	埋没土 1/5	①14.6 ②9.0 ③4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 237 図 40 P.L.148	須恵器 碗	埋没土 1/6	①16.0 ②12③11.6 ④3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部切り直し技法は不明。高台は貼付。	
第 237 図 41 P.L.148	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り。	

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調			製作技法等の特徴	備考
				①	②	③		
第 237図 42 P.L.148	須恵器 杯	電・埋没土 1/3	①15.0 ② 8.2 ③ 4.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色		ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後 回転ヘラ削り、口縁部最下部に1段の回転ヘラ削り。		
第 238図 43	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色		ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り 後周辺部を回転ヘラ削り。		
第 238図 44 P.L.148	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色		ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	割れた後に 漆が付着	
第 238図 45 P.L.148	須恵器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③灰色		ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 238図 46 P.L.148	須恵器 椀	埋没土 1/4	①17.2 ②11.8 ③6.1④11	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色		ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り、 高台は貼付。		
第 238図 47 P.L.148	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色		ロクロ整形、回転は右回りか。底部は回転糸切り、 高台は貼付。		
第 238図 48	土師器 壺	電 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色		外面は全体的に磨面が脱落しており整形については 不明。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 49 P.L.148	土師器 壺	46.0cm 口縁部～割 部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色		口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 50 P.L.148	土師器 壺	埋没土 口縁部～割 部上位片	①20.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色		口縁部は横ナデ、胴部上位は横方向と縦方向のヘ ラ削りが見られる。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 51 P.L.148	土師器 壺	埋没土 口縁部～割 部上位片	①24.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色		口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 52 P.L.148	土師器 壺	埋没土 口縁部～割 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色		口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 53 P.L.148	土師器 壺	61.5cm 口縁部～割 部上位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色		口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 54 P.L.148	土師器 壺	埋没土 口縁部～割 部上位片	①22.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色		口縁部から頸部は横ナデで指痕が残る。胴部上 位は横方向のヘラ削り。内面割部はヘラナデ。		
第 238図 55 P.L.148	土師器 壺	15.0cm 胴部下位～ 底部片	① ② 4.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③暗青灰色		胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向 のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 238図 56	土師器 壺	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 7.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色		胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向 のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 238図 57 P.L.148	土師器 壺	埋没土 胴部下位片	① ②12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい橙色		胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第 239図 58 P.L.148	土師器 壺	36.0cm 口縁部～割 部上位片	①20.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色		口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面割部はヘラナデ。		
押出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	石 材	特 徴 そ の 他		備考	
第 239図59 P.L.148	石製品 蔵石?	22.5cm	①15.5 ④4.8	②5.6 ④650	粗粒安山岩	両面に敲打痕があり、下面に著しい。両側 面に打ち欠かれた箇所があり、割離及び敲 打痕が同位置を全周する。		
第 239図60 P.L.148	石製品 蔵石	2.0cm	①14.4 ③3.8	②10.2 ④290	粗粒安山岩	下面に敲打による割離がある。表面に使用 の痕跡が認められる。		



押戻番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴	そ の 他	備 考
第 2396061 P.L.148	石製品 巖石	13.5cm	①13.2 ③5.3	②7.4 ④850	粗粒安山岩	両端に敲打痕が認められる。表裏に使用の痕跡がある。		周溝より
押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 2396062 P.L.149	鉄器 棒状品	埋没土	①11.5 ③0.5×0.7×0.3	②0.5 ④13.77		上端欠損。断面は長方形を呈し、下位ほど厚みを減じる。		
第 2396063 P.L.149	鉄器 角釘	埋没土	①5.4 ③0.6	②1.3 ④14.47		両端欠損。頭部が鋭を増す。		
第 2396064 P.L.149	鉄器 鏃?	掘り方	①4.4 ③0.4	②2.0 ④19.90		四角欠損。右端に屈曲が残る。下端を側も僅かに屈曲する。		
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴			
(46077)	28.5cm	ウシカウマ	横骨近位端片(?)		生。			
(46078)					焼骨。微細骨片10数片。			
(46079)		小動物			焼骨。骨片1片。			分析№23
(46080)		小動物			焼骨。骨片1片。			分析№24

#### 47号住居

押戻番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 242図 1 P.L.149	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 2 P.L.149	須恵器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口縁部に凹縁が1本ある。	
第 242図 3 P.L.149	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①13.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 4 P.L.149	須恵器 椀	埋没土 口縁部小片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 5 P.L.149	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 6 P.L.149	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰焼成 ③オリーブ黒色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 242図 7 P.L.149	須恵器 杯	埋没土 1/4	①15.0 ② 6.0 ③ 5.3	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り。	
第 242図 8 P.L.149	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 5.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 242図 9 P.L.149	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 4.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 242図 10 P.L.149	須恵器 羽蓋	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付。	
第 242図 11 P.L.149	須恵器 把手片	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	把手は貼付、外側はヘラナダ、内側は無調整。	
第 242図 12 P.L.149	土製品 不明	埋没土	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③淡黄色	外面はヘラナダか。	

## 48号住居

押附番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 244図 1 P.L.149	土師器 杯	埋没土 1/8	①11.0 ②10.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。口縁部と底部の間に僅かな無調整部分が残る。	
第 244図 2 P.L.149	土師器 杯	埋没土 1/4	① 9.6 ② ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 3	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①11.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 244図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	①10.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。	
第 244図 5 P.L.149	土師器 杯	41.4cm 2/3	① 9.8 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 6	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.2 径径10.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に深い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 7 P.L.149	土師器 杯	埋没土 口縁部片	① 9.8 径径9.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に浅い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 8 P.L.149	土師器 杯	5.0cm 2/3	①11.0 ② ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 9 P.L.149	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.8 ② ③ 3.5	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り後横ナデか、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.6 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が無調整、下半は横方向のヘラ削り。	
第 244図 11	土師器 杯	埋没土 1/6	①13.0 ② ③ 3.0	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 244図 12 P.L.149	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 13	須恵器 罍	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	クロコ整形、回転方向は不明。内面に自然軸が付着。	
第 244図 14 P.L.149	土師器 杯	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部に段をもち、口縁部に稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 244図 15 P.L.149	須恵器 罍	埋没土 底部片	① ② 4.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい黄褐色	胴部下位・底部ともヘラ削り、内面にヘラナデ。	
第 244図 16 P.L.149	土師器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①21.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形、回転は右回りか。天井部は端部を除いて回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	

## 49号住居

押附番号 図版番号	種類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 246図 1 P.L.150	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部はヘラ削り。	

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 埋存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 248図 2	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。		
第 248図 3 P.L.150	土師器 杯	埋土・型方 1/6	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 248図 4 P.L.150	土師器 杯	掘り方 口縁部小片	① ② ③	①微砂粒 ②良好 ③暗赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内面に放射状文。		
第 248図 5 P.L.150	土師器 杯	竈・埋没土 3/4	①16.4 ② ③ 6.0	①細砂粒 ②良好 ③によい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 248図 6 P.L.150	須恵器 盤	竈 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削り。		
第 248図 7 P.L.150	須恵器 盤	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部はヘラ削り。		
第 248図 8 P.L.150	須恵器 煎瓶	埋没土 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部中段に細かい凹線が数本見られる。		
第 248図 9 P.L.150	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部 上位片	①20.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、胴部上位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 248図 10 P.L.150	土師器 壺	竈 底部片	① ② 3.4 ③	①細砂粒 ②良好 ③淡褐色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は木葉煎が残る。		
第 248図 11 P.L.150	土師器 壺	2.5cm 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。		
検出番号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み ③重さ	②最大幅 ③重量	石材	特徴その他	備考
第 248図12 P.L.150	石製品 砥石?	1.5cm	①14.7 ③4.3	②7.2 ③700	石英閃緑岩	両端に敲打痕があり、上端は著しく剝離している。表面に使用の痕跡があり、両面に幾多もの刃物の条痕が刻まれている	
図版番号	出土位置	動物名	部	位	長さ×幅(厚)	特徴	
(48014)	竈	トリ?			9.4×4.9	焼骨。齧骨片。	

#### 50号住居

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 埋存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 253図 1 P.L.150	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.0 横径10.4 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部中段に弱い稜をもつ。口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 2 P.L.150	土師器 杯	7.5cm 完形	①12.0 ② 8.2 ③ 3.2	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整で指頭煎が残る、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 3 P.L.150	土師器 杯	-4.0～-3.0 底部の一部 を欠	①12.0 ② 8.4 ③ 3.4	①細砂粒 ②良好 ③によい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整で指頭煎が残る、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 4 P.L.150	土師器 杯	-4.0～-10.5 1/4	①12.4 ②10.0 ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③によい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 253図 5	須恵器 杯蓋	-7.0cm 1/8	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中程までは回転ヘラ削り。	

押出番号 図版番号	模 型 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②構成③色調	製作技法等の特徴	備 考
第 253図 6	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②10.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形。回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、口縁部下位は1段の回転ヘラ削り。	
第 253図 7 P.L.150	土師器 鉢	3.0cm 口縁部片	①22.6 ②10.0 ③ 7.0	①細砂粒 ②良籽 ③によい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位に僅かに無調整部分が残るがその下は横方向のヘラ削り。	
第 253図 8 P.L.150	須恵器 杯	-2.0~5.5 1/8	①13.0 ② 7.0 ③ 4.5	①細砂粒 ②酸化焰 ③明褐色	クロコ整形。回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 253図 9	須恵器 杯	-16.5cm 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③によい褐色	クロコ整形。回転は右回りか。底部は回転糸切り。	
第 253図 10 P.L.150	須恵器 杯	2.5cm 完形	①12.6 ② 6.5 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰黄色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	口縁部外面 正位に〔㉔〕 の墨書
第 253図 11 P.L.151	須恵器 杯	18.5cm 1/2	①12.6 ② 6.0 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 253図 12 P.L.151	須恵器 杯	床面密着 口縁部の一 部を欠	①13.7 ② 6.8 ③ 4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 253図 13 P.L.151	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.8 ② 6.6 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 253図 14	須恵器 碗	埋没土 口縁部小片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③によい黄褐色	クロコ整形。回転方向は不明。	
第 253図 15	須恵器 碗	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③によい黄褐色	クロコ整形。回転方向は不明。	
第 254図 16 P.L.151	須恵器 碗	埋没土 1/2	①13.6 ②6.2③6.2 ③ 5.6	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	51住と整合
第 254図 17 P.L.151	須恵器 碗	床面密着 口縁部の一 部を欠	①13.4 ②5.6③5.6 ③ 4.9	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 18 P.L.151	須恵器 碗	2.0cm 1/3	①14.0 ②6.6③6.6 ③ 5.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 19 P.L.151	須恵器 碗	-14.0cm 4/5	①14.0 ②6.8③6.8 ③ 5.9	①細砂粒 ②還元焰構成 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 20 P.L.151	須恵器 碗	床面密着 1/4	①15.2 ②7.0③7.4 ③ 5.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 254図 21 P.L.151	須恵器 杯	-2.5~1.0 2/3	①14.8 ② 7.4 ③ 4.7	①粗砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 254図 22	須恵器 杯	-2.0cm 1/4	①14.0 ② 7.6 ③ 3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 254図 23 P.L.151	須恵器 碗	7.0cm 完形	①15.4 ②7.0③7.0 ③ 5.6	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	体部外側道 位に「得」の 墨書3ヶ所
第 254図 24 P.L.152	須恵器 碗	16.5cm 完形	①15.4 ②6.8③6.9 ③ 5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	底部内面に 「+」の墨書

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第255図 25 P.L.152	土師器 罍	18.0cm 1/4	①11.0 胴部径12.6	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第255図 26	土師器 罍	~14.0cm 口縁部小片	①19.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位はヘラ削り。		
第256図 27	土師器 罍	23.0cm 口縁部~胴部上位片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	頸部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部は横方向のハケ目。		
第255図 28 P.L.152	土師器 罍	~4.0cm 口縁部~胴部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	「コ」の字状口縁變。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第256図 29 P.L.152	土師器 罍	~2.0cm 口縁部~胴部中位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁變。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第255図 30 P.L.152	土師器 罍	13.0cm 口縁部片	①20.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁變。口縁部から頸部は横ナデ。		
第256図 31 P.L.152	土師器 罍	~19~9.0 口縁部~胴部上位片	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁變。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第256図 32 P.L.152	土師器 罍	~11.5~2.5 口縁部~胴部中位片	①19.0 胴部径25.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁變。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位が縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第255図 33 P.L.152	土師器 罍	~14~10.5 胴部下半片	① ② 3.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	内面に輪痕が残る。胴部下半は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第256図 34	土師器 罍	埋没土 胴部下位片	① ② 3.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③灰褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第255図 35 P.L.152	土師器 罍	電燈り方 胴部下位片	① ② 4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	埋土と接合	
第256図 36 P.L.152	須恵器 罍	埋没土 口縁部小片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第256図 37 P.L.152	須恵器 罍	埋没土 口縁部片	①14.4 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③オリーブ灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1条ある。		
第256図 38 P.L.152	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部小片	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③によい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。肩は貼付。		
採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第256図39 P.L.152	石製品 台石?	床面密着	①18.0 ②9.1	③16.1 ④9000	粗粒安山岩	右端欠損。左端のみ肥厚するが他は平坦をなす。平坦面に使用の可能性あり。	
第256図40 P.L.152	石製品 磨石?	床面密着	①12.0 ②3.0	③6.9 ④350	デイサイト	表面に使用の痕跡が認められる。鉄分の付着がある。	
第256図41 P.L.152	石製品 竈構築材?	床面密着	①13.6 ②8.6	③11.1 ④1300	粗粒安山岩	黒煤の付着が認められる。	
第256図42 P.L.153	石製品 竈構築材	~6.3cm	①26.2 ③11.8	②14.4 ④5200	火山噴出凝灰岩	片端欠損。表面両側面に削りがよく残っている。小口は指が突くのが削りの痕跡がある。工具幅は最大4.5cmを測る。黒煤付着があり、割れ口にもみられる。	
採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第257図43 P.L.153	鉄器 鋸先	5.0cm	①残3.0 ③1.2	②残14.6 ④66.71	刃部欠損。板を折曲げて成形。本体装着部のみV字状に開く。		

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 257回44 P.L.153	鉄器 刀子	埋没土	①推定残15.3 ③90.5 差0.3	②刃1.5 差0.9 ④19.89	刃部中位、切先欠損。横間は残存するが刃間は不明確。茎が強く曲がっている。	復元残存長 19.6
第 257回45 P.L.153	鉄器 角釘	埋没土	①残3.0 ③0.2	②0.4 ④0.97	両端欠損。断面長方形。上端が僅かに開き気味となる。	
第 257回46 P.L.153	鉄器 角釘	埋没土	①残8.4 ③0.4	②0.5 ④7.72	両端欠損。全体にねじれが加わる。中位に錆ぶくれと割線があり、ねじれ面が不明確。	

#### 51号住居

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 261回 1 P.L.153	土師器 壺	18.5cm 口縁部片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	「コ」の字状口縁裏。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。	
第 261回 2 P.L.153	土師器 壺	7.0~28.5 口縁部~胴部中位片	①21.0 胴部径22.2 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	「コ」の字状口縁裏。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向、中位から下は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 261回 3 P.L.153	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部~胴部上位小片	胴径22.0 ② ③	①細砂粒 ②酸化焰 ③よい黄褐色	ロクロ整形、回転方向は不明。罫は貼付、胴部は底部からの縦方向のヘラ削り。	
第 261回 4 P.L.153	土師器 壺	埋没土 底部	① ② 3.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 261回 5 P.L.153	銅製品 卑脚足金物	21.5cm	①5.25 ③1.7	②1.0 ④12.68	完成、やや潰れて鞘の形状を損なっている。佩表一佩裏に二本の条線が蟹で覆り込まれる。吊手は環状金具と黄金具状金具一体の構造で蟹による環状のくり込みを有す。吊手金具の位置は潰れているためかではないが、黄金具状金具のほげ真上かやや佩裏に寄る程度であろう。方蓋大刀につく足金物の可能性が考えられる。	

#### 52号住居

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 266回 1 P.L.153	土師器 杯	埋没土 1/6	①19.3 ② ③ 2.6	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位から底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266回 2 P.L.153	土師器 杯	1.5cm 口縁部の一部を欠	①11.2 径径11.0 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に割い線をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266回 3	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上半が無調整、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266回 4 P.L.153	土師器 杯	1.5cm 完形	①11.4 ② ③ 4.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266回 5 P.L.153	土師器 杯	埋没土 5/6	①12.7 ② ③ 4.1	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 266回 6 P.L.153	土師器 杯	埋没土 1/5	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 267回 7 P.L.153	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削り。	

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第267図 8 P.L.153	土師器 杯	30.0cm 口縁部の一部 を欠	①12.0 ② ③4.5	①細砂粒 ②良好 ③によい黄褐色	内面黒色処理。口縁部は横ナデ後横方向へのヘラ研磨。底部はヘラ削り後不定方向へのヘラ研磨。内面は口縁部が横方向、底部は不定方向へのヘラ研磨。		
第267図 9 P.L.153	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ②9.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転方向は不明。底部と口縁部最下位は回転ヘラ削り。		
第267図 10 P.L.153	須恵器 杯	埋没土 1/4	①15.6 ②7.6 ③3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。		
第267図 11 P.L.154	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②7.0⑦7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロコ整形。回転は右回り。底部は回転糸切り。高台は貼付。		
第267図 12 P.L.154	須恵器 壺	埋没土 胴部上位片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黒色	クロコ整形。回転方向は不明。胴部から胴部上位は回転ヘラ削り。		
第267図 13 P.L.154	土師器 甕	1.0~25.0 各部の一部 を欠	①18.8 ②5.4 ③23.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位から中位まで縦方向、下位は横方向へのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	埋没部より	
第267図 14 P.L.154	土師器 甕	1.0~9.0 胴部下半	① ②4.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	内面に輪痕が残る。胴部は縦方向へのヘラ削り、底部は不定方向へのヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	埋没部より	
第267図 15 P.L.154	土師器 甕	1.0~25.0 胴部の一部 を欠	①18.5 ②5.4 ③29.1	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向へのヘラ削り、底部は不定方向へのヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	埋没部より	
第268図 16 P.L.154	須恵器 壺	13.5cm 口縁部~胴 部上位片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形。回転方向は不明。口唇部に凸帯が1条走る。	埋没部より	
第268図 17	土師器 甕	口 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部は横ナデ。		
押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④最大重 ⑤重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第268図18 P.L.154	石製品 敲石	2.0cm	①13.7 ②4.9	⑥6.7 ⑦700	ひん岩	下端欠損。上端に弱い敲打痕が認められる。使用の痕跡がある。	
第268図19 P.L.154	石製品 こもあみ石	床面密着	①13.35 ②5.15	⑥6.1 ⑦650	蛇紋岩	下端に弱い敲打痕が認められる。裏面に黒煤が付着する。	
第268図20 P.L.154	石製品 こもあみ石	床面密着	①14.5 ②4.0	⑥4.8 ⑦500	ひん岩	下端に弱い敲打痕が認められる。表に使用の痕跡がある。	
第268図21 P.L.154	石製品 こもあみ石	4.0cm	①12.9 ②2.6	⑥7.0 ⑦450	ひん岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
第268図22 P.L.154	石製品 こもあみ石	床面密着	①11.7 ②3.1	⑥5.0 ⑦300	ひん岩	表裏に使用の痕跡が認められる。	
押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④最大重 ⑤重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第268図23 P.L.154	鉄器 口状品	埋没土	①残3.4 ②残5.5	④残2.3 ⑤残4.96		上部欠損。上端右側は内弯し始める。推定形状は引手車に似る。	
第268図24 P.L.154	鉄器 円形品	埋没土	①残1.8 ②残3.0	④残2.9 ⑤残0.03		頸部が割れ口か不評。埋没時には現状面となる。中央孔の端部僅かにコーナーが残る。	鉄器か小刀 跡か?

### 53号住居

押出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第273図 1 P.L.155	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、中程に無調整部分が残る。下半から底部はヘラ削り。	
第273図 2 P.L.155	土師器 杯	埋没土 1/4	①16.4 ② ③3.9	①細砂粒 ②良好 ③によい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向へのヘラ削り、底部は不定方向へのヘラ削り。	

押印番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 2738I 3 P.L.155	土師器 杯	4.1cm 完形	①10.6 ② ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。	内面底部に「×」の刻書 焼道部より	
第 2738I 4 P.L.155	土師器 杯	17.5cm 完形	①10.4 ② ③ 3.7	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り。底部は不定方向のヘラ削り。		
第 2738I 5 P.L.155	土師器 杯	17.5cm 口縁部片	①10.6 横径10.0 ②	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 2738I 6 P.L.155	土師器 杯	埋没土 1/4	①10.8 横径10.6 ②	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に横をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 2738I 7 P.L.155	土師器 杯	4.1cm ほぼ完形	①20.4 ② ③ 7.9	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。	焼道部より	
第 2738I 8 P.L.155	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 2738I 9 P.L.155	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部下位片	① ② 9.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は回転ヘラ削り、高台は貼付。		
第 2738I 10 P.L.155	須恵器 長頸壺	埋没土 胴部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。		
第 2738I 11 P.L.155	土師器 壺	埋土・竪方 口縁部一胴 部上位片	①18.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 2738I 12 P.L.155	土師器 壺	6.5cm 口縁部一胴 部上位片	①22.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③淡黄色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 2738I 13	土師器 壺	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③黄灰色	底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。		
押印番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 2738I14 P.L.155	石製品 砥石	左壁石組	①6.8 ③2.8	②3.6 ④190	砥石	両端欠損。表面左右の4面を研ぎ面として使用。「×」が刻まれている。	
押印番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 2748I15 P.L.155	鉄器 J字状刀子	埋没土	①残6.3 ③0.45	②0.9 ④5.94	両、茶欠損。刃部端が屈曲し、屈曲部の側による割傷が著しい。刃部の直線的な状態から屈曲して焼きを入れたものか？		
第 2748I16 P.L.155	鉄器 刀子	埋没土	①残8.8 ③0.5	②1.5 ④13.20	両端、刃部欠損。棟部は明確に残るが刃部は不明確。刃部は浅く内湾する(研ぎべりの可能性が高い)。茎残存部は緩く屈曲し始めている。		
第 2748I17 P.L.155	鉄器 鋳	埋没土	①7.5 ③1.0	②2.4 ④55.41	最大幅は刃部にあり、中位が最小幅。左右の厚みが異なる。面部に打痕は無い。		小鉄弁？
第 2748I18 P.L.155	鉄器 J字状品	埋没土	①残5.65 ③0.5	②0.75 ④5.44	両端欠損。茎根を呈す。残存部に関は認められない。端部が屈折する。		刀子？

#### 54号住居

押印番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 2778I 1 P.L.156	土師器 杯	埋没土 1/4	① 9.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	



神宮番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	景 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特 徴	備 考	
第 277図 2 P.L.156	土師器 杯	5.0cm 完形	①10.0 ② ③3.6	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 277図 3 P.L.156	土師器 杯	埋没土 1/3	①11.2 ② ③4.3	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は上位が無調整、中位から下位は横方向のヘラ削り。		
第 277図 4 P.L.156	土師器 杯	埋没土 1/6	①12.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。		
第 277図 5 P.L.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ②12.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 277図 6 P.L.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。		
第 277図 7 P.L.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面に放射状暗文。		
第 277図 8 P.L.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面に放射状暗文。		
第 277図 9 P.L.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.2 ②12.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面に斜格子状暗文。		
第 277図 10 P.L.156	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.2 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位から下位は横方向のヘラ削りであるが摩耗のため単位は不明。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。		
第 277図 11 P.L.156	土師器 杯	埋没土 底部片	① ②10.2 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に螺旋状暗文。		
第 277図 12 P.L.156	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで回転ヘラ削り。		
第 277図 13 P.L.156	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.0 ③11.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。		
第 277図 14 P.L.156	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ②9.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転未削り。		
第 277図 15 P.L.156	須恵器 長頸壺	埋没土 頸部	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。頸部と胴部の接合は2段構成。		
第 278図 16 P.L.156	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴部上位片	①23.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 278図 17 P.L.156	須恵器 横瓶	埋没土 口縁部～頸部	①12.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部は平行叩き。内面は同心円状あて具痕が残る。		
第 278図 18 P.L.156	土師器 壺	9.5cm 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。		
神宮番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ②最大幅 ③厚み	④最大幅 ⑤重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 278図19 P.L.156	石製品 砥石	埋没土	①8.8 ② ③1.4	④3.6 ⑤100	砥沢石	下端が欠損し、上端小口は面が荒れる。表面左右の4面を研ぎ面として使用している。割れ口に糸線が刻まれており、欠損後も使用した可能性がある。	
第 278図20 P.L.156	石製品 台石?	床面密着	①17.1 ②5.9	④12.6 ⑤1700	溶結凝灰岩	表に弱く、裏に著しく使用の痕跡が認められる。	

棟号 図版番号	種類	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	石材	特徴 その他	備考
第 278回21 P.L.156	石製品	床面密着	①17.7 ②6.8	③2.7 ④1900	ひん岩	両端に弱い敲打痕が認められる。表面は大きく剥離する。	
第 278回22 P.L.156	石製品 磨石?	床面密着	①14.1 ②5.1	③2.3 ④1000	石英閃緑岩	上端欠損し、全体的に面が荒れて剥離している。表に使用の痕跡が認められる。	

#### 55号住居

棟号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 282回 1	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。	
第 282回 2	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部片	①10.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。	
第 282回 3	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。	
第 282回 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①12.5 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。	
第 282回 5 P.L.157	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部片	①13.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、下に僅かに無調整が残る、底部はヘラ削り。	
第 282回 6	土師器 皿	埋没土 口縁部～底 部片	①14.0 ② ③ 1.9	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。内面底部に放射状暗文。	
第 282回 7 P.L.157	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② 9.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削りであるが単位は摩耗のため不明。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 282回 8 P.L.157	土師器 杯	20.0cm 宛形	①12.0 ② 9.0 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に斜格子状、底部に螺旋状暗文。	
第 282回 9	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 282回 10	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。	
第 283回 11 P.L.157	土師器 杯	埋没土 2/3	①14.6 ② 9.0 ③ 4.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文、底部はヘラ新磨か。	
第 283回 12 P.L.157	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	底部は外面がヘラ削り。内面は螺旋状暗文。	底部外面に「×」の刻書
第 283回 13	須恵器 杯蓋	掘り方 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に身受けのカエリをもつ。外面に自然釉が付着。	
第 283回 14 P.L.157	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部の中央部は回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 283回 15	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①13.0 ② 9.0 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。内面に自然釉が付着。	
第 283回 16 P.L.157	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①14.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。外面に自然釉が付着。	

押図番号 図添番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 283図 17 P.L.157	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.4 ② 8.6 ③ 3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後 周辺部を回転ヘラ削り。	
第 283図 18 P.L.157	須恵器 杯	掘り方 P 1 3/4	①13.0 ② 8.0 ③ 3.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り、口縁部最下位にも1段の回転ヘ ラ削り。	埋土と接合
第 283図 19 P.L.157	須恵器 椀	埋没土 口縁部～底 部片	①18.6 ②13.4④12 ③4.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り、口縁部下位も1段の回転ヘラ削り、高台は貼 付。	
第 283図 20 P.L.157	須恵器 杯	埋没土 1/4	①13.9 ② 8.0 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り後 回転ヘラ削り、口縁部最下位にも1段の回転ヘラ 削り。	
第 283図 21 P.L.157	須恵器 杯	5.0cm 1/2	①14.0 ②10.0 ③ 3.8	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	クロロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削 り、口縁部下位も1段の回転ヘラ削り。	
第 283図 22 P.L.157	土師器？ 杯？	埋没土 口縁部下半 ～底部片	① ② 8.5 ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は横方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘ ラ削り。	
第 283図 23	須恵器 杯	埋没土	① ② ③	①微砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	クロロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 りか。	
第 283図 24	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	クロロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り。	
第 283図 25	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り。	
第 283図 26 P.L.157	須恵器 椀	埋没土 底部片	① ②11.6 ③10.6	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロロ整形、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削 り、口縁部は下位も1段の回転ヘラ削り、高台は 貼付。	
第 284図 27 P.L.157	須恵器 椀	埋土・掘方 底部小片	① ②10.0 ③10.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロロ整形、回転方向は不明。底部切り直し技法 は不明、高台は貼付。	
第 284図 28 P.L.157	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。	
第 284図 29 P.L.157	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 284図 30 P.L.157	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①23.4 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 284図 31 P.L.158	土師器 壺	27.5cm 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰白色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 284図 32 P.L.158	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 284図 33 P.L.158	土師器 壺	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナゲ。	
第 284図 34 P.L.158	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①17.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は斜め方向の ヘラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	
第 284図 35 P.L.158	土師器 壺	埋没土 口縁部～胴 部上位片	①21.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部から頸部は横ナゲ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナゲ。	

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 284図 36 P.L.158	土師器 壺	埋没土 底部片	① ②11.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	胴部下位、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 284図 37	土師器 壺	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	胴部下位、底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第 284図 38	土師器 壺	埋没土 胴部下位～ 底部片	① ② 5.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、 内面胴部はヘラナデ。	
第 284図 39	土師器 壺	削り方埋土 胴部下位～ 底部片	① ② 5.8 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は斜め方向のヘラ削り、底部もヘラ削り、 内面胴部はヘラナデ。	
第 285図 40 P.L.158	須恵器 壺	掘り方 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転方向は不明。口唇部に凸帯が1 条走る。	
第 285図 41 P.L.158	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転方向は不明。内面に自然釉が付 着。	
第 285図 42 P.L.158	須恵器 壺	埋没土 口縁部片	①20.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転方向は不明。	
第 285図 43 P.L.158	須恵器 短頸壺?	埋没土 底部～胴部 下位片	① ②10.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	クロコ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削 り、胴部下位にも1段の回転ヘラ削り、高台は貼 付。内面底部に自然釉が付着。	
第 285図 44 P.L.158	須恵器 鉢	埋没土 口縁部片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③青黒色	クロコ整形、回転方向は不明。	
第 285図 45 P.L.158	土製品 完形	埋没土 完形	径4.9～3.0 孔径0.8 高2.2	①酸化 ②酸化溶硬質 ③よい褐色	全面にナデ。上面は指任せによる窪みが一周する。	
検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 285図46 P.L.158	鉄器 棒状品	埋没土	①残3.9・10.4 ③0.8	②0.9 ④38.42	中位、下端欠損。頂部不定形に残存。幅・厚み ともに大きい。中位と下端の剣離が顕著。	
第 285図47 P.L.158	鉄器 棒状品	埋没土	①残3.6・2.0 ③0.3	②0.4 ④2.32	中位、胴部欠損。中位欠損部の上が大きく 剣離。下端の断面は変形を呈す。	
第 285図48 P.L.158	鉄器 棒状品	埋没土	①残2.8 ③0.5	②0.65 ④1.78	両端欠損。面の剣離箇所が多い。	
第 285図49 P.L.158	鉄器 鉄錘	埋没土	①残7.35 推定11.0 ③0.4 頸部0.5 ④0.4 頸部0.5 ④8.33		鎌身、茎下端欠損。頸部は上位ほど扁平となる。 間は立体的に作られる。胴部表面で曲折する。	
第 285図50 P.L.158	鉄器 板状品	埋没土	①残3.4 ③0.75	②残2.6 ④13.20	四隅欠損。裏面は平坦で表面凹凸あり。	未製品?
第 285図51 P.L.158	鉄器 角釘	埋没土	①残5.2 ③0.6	②0.6 ④4.05	下端欠損。側面全体に緩いカーブを極く。 下位におじれがわかる。	
第 285図52 P.L.159	鉄器 袋状品	埋没土	①残3.1 ③0.5	②1.8 ④2.90	両端欠損。錆により芯が露れている。刃状 を呈さない。	
第 285図53 P.L.159	鉄器 板状品	埋没土	①残2.6 ③0.2	②残2.0 ④2.38	三辺欠損。面の凹凸が著しい。	未製品?
第 285図54 P.L.159	鉄器 板状品	埋没土	①残2.5 ③0.3	②残2.2 ④3.82	三辺欠損。面の凹凸が著しい。	未製品?
第 285図55 P.L.159	鉄器 板状品	埋没土	①残2.95 ③0.1	②残1.4 ④0.83	四隅欠損。面の剣離が著しい。僅かに角が 残る。	
図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特 徴	
(55054)	甕				焼骨。微細骨片数片。	
(55055)	甕				焼骨。超微細骨片数片。	
(55058)	甕	小動物	肢骨片など		焼骨。骨片数片。	分析No.27

図版番号	出土位置	動物名	部位	長さ×幅(厚)	特徴	
(55059)	竈	小動物	肢骨片		焼骨。他に骨片2片。	分析№28
(55060)	竈	トリなど	肋骨片、肢骨片		焼骨。骨片5片。	分析№29

### 56号住居

神回番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第290図 1	土師器 杯	埋設土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、中程は無調整部分が残る、 下半は横方向のヘラ削り。	
第290図 2	土師器 杯	埋設土 口縁部片	①13.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横 方向のヘラ削り。	
第290図 3 P.L.159	土師器 杯	6.9cm 1/8	①14.0 ② ③4.1	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は無調整、底部は不定方 向のヘラ削り。	
第290図 4 P.L.159	土師器 杯	埋土・1層 1/5	①12.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、中程は無調整部分が残る、 下半から底部はヘラ削り。	
第290図 5 P.L.159	土師器 杯	埋土・2層 1/4	①11.0 ② ③3.2	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不 定方向のヘラ削り。	
第290図 6	土師器 杯	埋設土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③にぶい褐色	底部外面は不定方向のヘラ削り、内面に螺旋状暗 文。	内面褐色
第290図 7 P.L.159	土師器 杯	埋土・1.5層 1/6	①14.0 ② ③4.0	①細砂粒 ②軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、底部はヘラ削りであるが、 摩耗のため単位・方向は不明。	
第290図 8 P.L.159	土師器 杯	18.0cm 1/4	① ②9.0 ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横方向のヘラ削り後へラ研磨、底部は不 定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部 に螺旋状暗文。	
第290図 9 P.L.159	土師器 杯	43.0cm 1/4	①13.8 ② ③4.2	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底 部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、 底部に螺旋状暗文。	
第290図 10 P.L.159	土師器 杯	床面密着 1/2	①13.8 ② ③4.3	①微砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底 部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、 底部に螺旋状暗文。	
第290図 11 P.L.159	須恵器 椀	埋設土 1/5	①15.8 ②12③10.2 ③3.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、 高台は削り出し。	
第290図 12 P.L.159	土師器 杯	床面密着 1/2	①17.0 ② ③4.7	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り、 底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に斜格 子状、底部に螺旋状暗文。	
第290図 13	須恵器 杯	1層 底部片	① ②7.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第290図 14 P.L.159	須恵器 杯	埋設土 口縁部小片	①15.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第290図 15	土師器 甕	埋設土 口縁部片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ。	
第291図 16 P.L.159	土師器 甕	埋土・5層 口縁部へ割 部上位片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③灰赤色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は縦方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第291図 17 P.L.159	土師器 甕	埋土・5層 口縁部へ割 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向のヘ ラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考	
第 291図 18 P.L.160	土師器 甕	1.5～15.0 口縁部～胴 部中位片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 19 P.L.160	土師器 甕	埋土・1層 口縁部～胴 部上位片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 20 P.L.160	土師器 甕	2.5～15.0 口縁部～胴 部上位片	①23.2 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、斜め方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 21 P.L.160	土師器 甕	3.0cm 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、内面はヘラナデ。		
第 291図 22 P.L.160	土師器 甕	埋土・2層 口縁部～胴 部中位片	①22.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部は上位が横方向及び斜め方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
第 291図 23 P.L.160	土師器 鉢	埋没土 口縁部片	①30.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナデ、体部は縦方向のヘラ削り。		
第 292図 24 P.L.150	須恵器 横瓶	5.5～39.5 1/2	頸部径10.6 胴部径25.3 ③	①細砂粒 ②還元焼 ③灰オリーブ色	ロクロ整形、胴部外面は平行叩き。内面には同心円状のあて貝痕が残る。頸部から口縁部にかけては横ナデ。		
押出番号 図版番号	種 類	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 293図25 P.L.160	石製品 台石?	11.0cm	①31.8 ③9.0	②24.7 ④6890	粗粒安山岩	表全域に面取り及び使用の痕跡が認められる。	
第 293図26 P.L.161	石製品 こもみ石	9.5cm	①13.6 ③6.2	②11.8 ④1520	石英閃緑岩	周囲頂部および表裏に敲打痕が認められる。被熱の可能性があり、一部欠はねている。	
第 293図27 P.L.161	石製品 こもみ石	3.5cm	①9.2 ③3.7	②4.1 ④200	粗粒安山岩	両面に敲打痕が認められる。全体に面の使用痕跡がある。	
第 293図28 P.L.161	石製品 こもみ石	6.0cm	①7.8 ③5.65	②6.3 ④400	粗粒安山岩	両端及び裏面に敲打痕が認められる。	
押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残 存 状 態 及 び 特 徴		備 考
第 293図29 P.L.161	鉄器 板状品	埋没土	①8.9 ③0.7	②2.8 ④21.47	下端欠損。上端は刃部となる。大刀の茎に似るが間が狭くバチ状に開く。		工具?
第 293図30 P.L.161	鉄器 刀子	埋没土	①残5.6 ③残0.7 茎0.7	②刃1.5 茎1.0 ④10.80	両端欠損。刃間、棟間は良く残る。錆ぶくれ、新藤有り。		
第 293図31 P.L.161	鉄器 刀子	埋没土	①残3.8 ③残0.4 茎0.4	②刃1.5 茎1.0 ④4.20	茎尻、刃部欠損。刃間、棟間は明確に残る。		
第 293図32 P.L.161	鉄器 板状品	埋没土	①2.3 ③0.4	②2.9 ④2.65	全体に均等に表裏の凹凸が激しい。		スラグ?
図版番号	出土位置	動 物 名	部 位	長さ×幅(厚)	特 徴		
(56033)	電撃き口付近			9.4×4.6	発骨。微細骨片。		

#### 57号住居

押出番号 図版番号	種 類 器 種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製 作 技 法 等 の 特 徴	備 考
第 297図 1 P.L.161	土師器 杯	埋没土 1/5	①12.4 ② ③ 3.1	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に強い稜をもつ。口縁部は横ナデ、稜は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 297図 2	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	底部外面は不定方向のヘラ削り、内面は螺旋状吻文。	
第 297図 3	土師器 杯	29.0cm 口縁部片	①13.2 ② ③	①細砂粒 ②軟質 ③よい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は放射状吻文。	

棟号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 297 図 4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①18.4 ②10.4 ③ 5.2	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上位が横ナデ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部に縦状暗文。		
第 297 図 5 P.L.161	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.0 ②14.6 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り、底部はヘラ削り。内面は口縁部に放射状暗文。		
第 297 図 6 P.L.161	土師器 杯	埋没土 底部片	① ② 8.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部は横方向、底部は不定方向のヘラ削り。内面は口縁部に放射状、底部は縦状、円弧状暗文。		
第 297 図 7 P.L.161	土師器 盤	42.0cm 1/4	①17.8 ②15.2 ③ 3.9	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
第 297 図 8 P.L.161	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部片	①15.2 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで回転ヘラ削り。		
第 297 図 9	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② 6.0 ③ 3.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 297 図 10 P.L.161	須恵器 杯	2.0cm 穴形	①12.8 ② 6.9 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。		
第 297 図 11 P.L.161	須恵器 杯	電・掘り方 口縁部～底 部片	①15.6 ②11.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 297 図 12	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 7.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。		
第 297 図 13	土師器 甕	掘り方 口縁部片	①12.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	外面の器面は新霽が見られるが、口縁部から頸部は横ナデ。		
第 297 図 14 P.L.161	土師器 甕	24.0cm 口縁部～胴 部中位片	① 割部径31.6 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部上位は横方向、中位は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。		
棟号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	②最大幅 ④重量	石 材	特 徴 そ の 他	備 考
第 297 図15 P.L.162	石製品 磨製石材	2.0cm	①13.3 ③8.0	②11.0 ④1200	粗粒安山岩	一部に自然面を残して割れている。割れ口に塵土が付着する。	
棟号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	②最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 297 図16 P.L.161	銅製品 キセル釧首	電・埋没土	①残3.4 ③2.9	②1.8 ④4.87		筒状端部欠損。筒状部はやや潰れて楕円形を呈している。	

#### 58号住居

棟号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考	
第 299 図 1 P.L.162	土師器 杯	埋没土 1/4	①12.8 横径12.4 ③ 3.5	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に鋭い稜をもつ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。		
棟号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み ③重量	②最大幅 ④重量		残 存 状 態 及 び 特 徴	備 考
第 299 図2 P.L.162	鉄器 角釘	埋没土	①残3.5 ③0.6	②0.8 ④3.37		両端欠損。下端は緩やかにカーブを描き、鋭い稜を生じる。厚さは左右側面で均一ではない。	

## 59号住居

神宮番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 302図 1 P.L.162	土師器 杯	埋没土 口縁部～底 部小片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 302図 2 P.L.162	土師器 甕	床面密着 1/2	①17.2 胴部径19.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③橙色	内面は黒色地埋。頸部に輪痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部上半は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 3 P.L.162	土師器 甕	床面密着 胴部の一部 を欠	①19.4 ②4.6 ③30.3	①細砂粒 ②良好 ③橙色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 4 P.L.162	土師器 甕	床面密着 胴部の一部 を欠	①22.0 ②6.0 ③36.8	①細砂粒 ②良好 ③にぶい赤褐色	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 5 P.L.162	土師器 台付甕	床面密着 1/3	胴部径12.8 ②6.5 ③10.4	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下半と台部上半は縦方向のヘラ削り、台部端部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
第 302図 6 P.L.162	土師器 台付甕	埋没土 底部～台部 上位片	① ②5.0 ③	①細砂粒 ②やや軟質 ③淡褐色	胴部内面は黒色地埋。胴部下位と台部上位は縦方向のヘラ削り。	
神宮番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 302図7 P.L.162	鉄器 角釘	電埋没土	①残5.6 ③0.4	②0.4 ④2.64	上端欠損。下位が緩やかなカーブを描く。中位～上位面の刺刺が著しい。	
第 302図8 P.L.162	鉄器 板状品	埋没土	①残2.5 ③0.2	②3.1 ④4.96	左端欠損。刃は無く左にやや開き気味に伸びる。	

## 2号掘立柱建物

神宮番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 307図 1 P.L.163	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削りか。内面口縁部に放射状暗文。	

## 7号掘立柱建物

神宮番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 312図1 P.L.163	鉄器 鉄鏝	埋没土	①残13.9 ③鏝0.4	②鏝0.3 頸部0.4 ④9.11	頸部中位、茎欠損。頸部からやや幅を広げて胴部となり葉は強く張り出す。片面に刃がよく残る。	②刃0.6 ④刃0.25

## 12号掘立柱建物

神宮番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 318図 1 P.L.163	須恵器 杯	埋没土 底部小片	① ②8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部の整形は不鮮明であるがヘラ削りか。	

## 23号土坑

神宮番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 321図 1 P.L.163	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.8 横径11.2 ③	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 321図 2 P.L.163	土師器 杯	埋没土 1/8	①15.8 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	



採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 321図 3 P.L.163	須恵器 高杯	埋没土 身部1/3	① 9.8 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、脚部は貼付。	
第 321図 4 P.L.163	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	脚径9.8 ① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。	

#### 24号土坑

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 322図 1 P.L.163	土師器 杯	埋没土 1/2	① 9.8 横径9.6 ③ 3.6	①微砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 322図 2 P.L.163	土師器 杯	埋没土 1/2	①11.2 横径10.4 ③ 3.3	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、横下は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 322図 3 P.L.163	土師器 杯	24.5cm 3/4	①11.6 横径11.4 ③ 3.4	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、横下は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 322図 4 P.L.163	須恵器 壺	3.5cm 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口縁部外反し、波状文が施される。下側に突帯の痕跡あり。	322図 6 と同一個体か
第 322図 5 P.L.163	土師器 壺	5.0cm 口縁部小片	①22.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③にぶい褐色	口縁部から頸部は横ナデ。	
第 322図 6	須恵器 壺	埋没土 口縁部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	中位に突帯が回り上下に波状文を施す。	

#### 76号土坑

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 324図 1 P.L.163	土師器 杯	埋没土 1/2	①13.0 横径13.0 ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部下に稜を持つ。口縁部は横ナデ、底部はヘラ削り。	
第 324図 2 P.L.163	灰釉陶器 長頸壺	埋没土 胴部上位片	① ② ③	①緻密 ②還元焰堅緻 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。釉調は透明感のある緑灰色。	
採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 324図3 P.L.163	鉄器 J字帯状品	埋没土	①残4.25 ③0.5	②1.35 ④5.33	上端欠損。全体的に錆により剥離している。左側外形は直線的で横状をなすが横溝はなく刃も明らかではない。刃部の一部にめくれがみられる。	刀子?

#### 91号土坑

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 327図 1 P.L.163	須恵器 杯蓋	埋没土 1/4	①19.6 横径5.2 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、側は輪状で貼付。	

## 93号土坑

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 328図 1 P.L.163	土師器 杯	埋没土 1/4	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口縁部は上位が横ナゲ、中位は無調整、下位は横方向のヘラ削り。	
第 329図 2	須恵器 盤	埋没土 底部小片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	

## 143号土坑

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 335図 1 P.L.163	須恵器 板	埋没土 1/3	① ②6.4③9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③よい褐色	ロクロ整形、回転は右回りか。底部の切り離し技法は高台の貼付時のナゲのため不明。	

## 110号ピット

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 336図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。	

## 245号ピット

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 337図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 5/6	①11.6 ②径10.6 ③3.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口縁部下に弱い壁を持つ。口縁部は横ナゲ、壁下は横ナゲ、底部は不定方向のヘラ削り。	

## 256号ピット

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 338図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 2/3	①12.0 ② ③3.5	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	口唇部は横ナゲ、口縁部は無調整、底部は不定方向のヘラ削り。	

## 313号ピット

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 339図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 1/6	①14.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は横ナゲ、底部は不定方向のヘラ削り。	

## 329号ピット

押図番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	量 目	①粘土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 340図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③よい褐色	口縁部は上半が横ナゲ、下半は横方向のヘラ削り。底部もヘラ削り。	

## 406号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第341図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 1/5	①11.0 ② ③	①細砂粒 ②良好 ③によい褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。底部もヘラ削り。	

## 478号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第344図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①16.0 ② ③	①微砂粒 ②やや軟質 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は横方向のヘラ削り。内面は放射状暗文。	

## 482号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第345図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①14.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③によい赤褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。	

## 512号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第347図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 1/6	①16.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、中程は無調整、下半から底部はヘラ削り。	
第347図 2 P.L.164	土師器 杯	埋没土 1/8	①13.0 ② ③3.0	①微砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不定方向のヘラ削り。	
第347図 3 P.L.164	須恵器 蓋	埋没土 1/5	①19.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回りか。天井部の中程までは回転ヘラ削り。	

## 543号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ③厚み	②最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第348図1 P.L.164	鉄器 鏝?	埋没土	①残4.15 ③基0.2 刃0.15	②基0.2 刃0.95 ④1.81	上端欠損。中位から幅を増し厚みを減じる。下端で急激に屈曲する。	鏝?

## 756号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第349図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 口縁部片	①19.0 ② ③	①微砂粒 ②良好 ③によい褐色	口縁部は上位が横ナデであるが、一部に中・下位と同様に横方向のヘラ削り。内面は横方向の間隔のあいたヘラ研磨後放射状暗文。	
第349図 2 P.L.164	須恵器 杯蓋	9.7cm 1/2	①10.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り、蓋は貼付。	

## 764号ビット

押戻番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第350図 1 P.L.164	須恵器 杯	埋没土 1/5	①14.6 ②9.0 ③3.3	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	

## 832号ビット

押図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 352図 1 P.L.164	須恵器 杯	埋没土 底部片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい赤褐色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り、 体部にナダ痕が残る。	内面灰色

## 847号ビット

押図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 353図 1 P.L.164	土師器 杯	埋没土 1/6	①10.0 ② ③ 2.7	①微砂粒 ②良好 ③褐色	口縁部は上半が横ナデ、下半は無調整。底部は不 定方向のヘラ削り。	

## 923号ビット

押図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 354図 1 P.L.164	灰輪陶器 碗	埋没土 底部片	① ②6.8③7.0 ③	①緻密 ②還元焰緻密 ③灰白色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ 調整。高台は貼付。胎軸方法は不明。釉調は不透 明な灰色。	虎渡山1号 室式期

## 1 区遺構外

押図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量 目	①胎土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 355図 1 P.L.165	土師器 杯	道西 1/3	①12.4 ② ③ 2.9	①細砂粒 ②良好 ③灰黄色	口縁部は横ナデ、底部は不定方向のヘラ削り。	
第 355図 2	土師器 杯	道東 口縁部片	①13.0 ② 9.0 ③ 3.0	①細砂粒 ②良好 ③褐色	口唇部は横ナデ、口縁部は横方向のヘラ削り。内 面は口縁部に放射状暗文。	
第 355図 3	須恵器 杯蓋	道東 口縁部片	①11.6 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口クロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで 回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 355図 4 P.L.165	須恵器 碗	道東 1/4	①10.2 ②5.4③6.3 ③ 5.5	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り であるが周辺部の高台は貼付時のナデ。	
第 355図 5 P.L.165	須恵器 杯	道東 1/4	①13.0 ② 6.4 ③ 4.1	①細砂粒 ②還元焰 ③にぶい黄褐色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り。	
第 355図 6 P.L.165	須恵器 杯蓋	道東 口縁部片	①12.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口クロ整形、回転方向は不明。天井部は周辺部ま で回転ヘラ削り。内面に身受けのカエリをもつ。	
第 355図 7 P.L.165	須恵器 碗	道東 口縁部片	①15.0 ②10.0 ③ 5.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口クロ整形、回転方向は不明。高台は貼付。	
第 355図 8 P.L.165	須恵器 杯	道西 3/4	①12.0 ② 7.6 ③ 4.2	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口クロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘ ラ削り、口縁部下位は1段の回転ヘラ削り。	
第 355図 9 P.L.165	須恵器 杯	道東 底部片	① ② 7.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削 り。	
第 355図 10 P.L.165	須恵器 杯	道東 底部～口縁 部下位片	① ② 6.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第 355図 11 P.L.165	須恵器 碗	道東 底部	① ②6.2③6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り、 高台は貼付。	
第 355図 12 P.L.165	須恵器 碗	道東 底部	① ②7.0③7.0 ③	①細砂粒 ②還元焰軟質 ③灰白色	口クロ整形、回転は右回り。底部は回転未切り、 高台は貼付。	



標図番号 図版番号	種類 器種	出土位置 遺存状態	量目	①土②焼成③色調	製作技法等の特徴	備考
第 3578 8 P.L.166	須恵器 杯蓋	道西 1/8	①14.0	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第 3578 9 P.L.166	須恵器 杯	道西水路南 1/6	① 9.0 ② 5.2 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は不定方向のヘラ削り、口縁部下位に1段の回転ヘラ削り。	
第 3578 10 P.L.166	須恵器 杯	道東 1/5	①12.0 ② 6.2 ③ 3.6	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 3578 11	須恵器 杯	道東 底部片	① ② 8.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 3578 12	須恵器 杯	道西水路北 底部片	① ② 7.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り。	
第 3578 13 P.L.166	須恵器 椀	1/8	①16.0 ②11.4 ③ 3.7	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 3578 14 P.L.166	須恵器 杯	道東 底部片	① ② 9.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③淡黄色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 3578 15	須恵器 杯	道東 底部片	① ②11.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③黄灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切りであるが糸切りを2度行っている。	
第 3578 16 P.L.166	須恵器 杯	道西水路北 1/6	① ② 8.6 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。	
第 3578 17	須恵器 椀	道東 底部片	① ②10.0 ③10.4	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第 3588 18 P.L.166	灰釉陶器 椀	道東 底部片	① ②4.2③8.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。底部は回転ナデ、高台は貼付。内面底部に重ね焼き痕が残る。施釉方法は不明、釉は透明感のある緑色。	虎渓山1号 窯式期
第 3588 19 P.L.166	須恵器 椀	道東 体部下位～ 底部片	① ②6.0③6.2 ③	① ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 3588 20 P.L.166	須恵器 杯	底部	① ② 6.8 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り。	
第 3588 21 P.L.166	須恵器 椀	底部～体部 下位片	① ②6.4③6.4 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第 3588 22 P.L.166	須恵器 蓋	道西 口縁部～頸 部片	①24.0 ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。	
第 3588 23 P.L.166	土師器 蓋	道東 底部～胴部 下位	① ② 4.3 ③	①細砂粒 ②良好 ③明赤褐色	胴部下位は縦方向のヘラ削り、底部は不定方向のヘラ削り、内面胴部はヘラナデ。	
第 3588 24 P.L.167	須恵器 椀	道西 胴部片	① ② ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部には凹縁が数条走る。	
第 3588 25 P.L.167	須恵器 蓋	FG-58 胴部下位片	① ②17.0 ③	①細砂粒 ②還元焰 ③灰白色	ロクロ整形、回転方向は不明。胴部下位は横方向のヘラ削り。	内面明赤褐色
標図番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み ③幅	①最大幅 ②重量 ③	残存状態及び特徴	備考
第 3588②6 P.L.167	鉄器 角釘	水路南	①残3.6 ③残0.4	②0.5 ③3.25	下端欠損。頭はよく残るが他は錆による剥離が著しい。裏面ののみろうじて残る。	

採回番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 358図27 P.L.167	鉄器 棒状品		①残7.0 ③0.3	②1.0 ④10.20	両端欠損。全体に緩やかなカーブを描く。	
第 358図28 P.L.167	鉄器 棒状品	道西水路南	①2.3 ③0.5	②0.9 ④2.02	両端欠損。下端にいくほど幅を減じる。本来断面が矩形を呈すと思われる。	

### 3 区遺構外

採回番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 359図1	鉄器 角釘	GB-51	①残2.5 ③0.4	②0.4 ④1.20	上端欠損。残存部分は状態が良く、縁が明確。	
第 359図2 P.L.167	鉄器 角釘		①3.1 ③0.35	②1.0 ④1.22	下端欠損。面は板を巻いた感があり、左右に突出する。全体に華奢である。	
第 359図3 P.L.167	鉄器 角釘	FU-53	①残7.1 ③0.6	②9.6 重残1.5 ④7.01	下端欠損。上端を平坦な板状にし、それを巻いて環としている。残存部の状態は良好。	
第 359図4 P.L.167	鉄器 角釘?	GA-48	①残3.9 ③0.4	②0.4 ④2.34	両端欠損。上位は緩やかに弯曲する。残存部の状態は良い。	
第 359図5 P.L.167	鉄器 棒状品		①11.8 ③0.8	②9.7 ④16.68	ほぼ完形。全体に緩やかに弯曲する。下位にいくほど幅と厚みを減ずる。	
第 359図6 P.L.167	鉄器 鎌		①5.9 ③0.45	②6.3 ④42.43	折り返しの一部が欠損し、左側に位置する。鎌は現状では不規則に凹凸する。柄に対して長さが無いのは使用のためか。	化学分析で鉄鉄と判明し「板状鉄」に変更

### 南中道遺跡遺構外

採回番号 図版番号	種類 器種	出土位置	①最大長 ②厚み	③最大幅 ④重量	残存状態及び特徴	備考
第 360図1 P.L.167	鉄器 鉄鏃?		①残5.3 ③身1.0 頸部0.25	②身1.0 頸部0.5 ④3.23	両端欠損。下位は断面矩形を成すが片側がより厚い。上位は扁平で幅を増す。	
第 360図2 P.L.167	鉄器 刀子		①残18.3 ③刃0.5 茎0.55	②刃9.5 茎1.1 ④41.78	柄に緩やかな反りを持つ。稜角は明確な角をなさない。刃間は欠損するが稜角同様の角をなさない可能性がある。	
第 360図3 P.L.167	鉄器 鎌		①11.6 ③0.5	②9.7 ④27.85	ほぼ完形で先端が僅かに欠損する。刃部は中位が内弯して緩やかなカーブを呈す。	







(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第202集

白井遺跡群 一集落編Ⅱ— 一般国道17号(棚沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集  
(白井南中道遺跡)〈観察表編〉

平成8年3月20日 印刷

平成8年3月25日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社